

学生による学生のための地域企業情報発信プロジェクト



WISE

Work-style Information by Student's Eye

2017

シモト就職に チカラ

地元企業の魅力を地元大学生が取材 地元就職情報をWEBと冊子で発信

WISE とは？ Work-style Information by Student's Eye

WISE(ワイズ)は、地元大学生が地元企業を取材し、その魅力を発信する仙台独自のプロジェクト。「Work-style Information by Student's Eye」の頭文字からネーミングしました。始動は2015年秋。毎年多くの大学生が、大手就職情報誌には載らない地元企業を掘り起こし、紹介しています。

WEB版



冊子版



WISEが 生まれたワケは42%

42% 宮城県内の大学を出た新卒者が、宮城県内の企業に就職した、いわゆる「地元就職率」です。

同じ2014年度の実績で比較すると、同規模の政令指定都市がある広島が54%、新潟は55%。札幌市がある北海道に至っては、なんと66%と大きく水をあけられています。若者たちが首都圏などに流出していくのは地元経済の大きな痛手。震災からの復興も進みません。

そこで誕生したのがWISEです。少しでも多くの人々が「ジモト」の良さを見つめ直すきっかけになればと、仙台市と大学、地元企業などが連携して始めました。

contents 目次

【特集】第1回 WISEセミナー	2
------------------	---

企業紹介(前半)	4
----------	---

【特集】第2回 WISEセミナー	28
------------------	----

企業紹介(後半)	30
----------	----

学生紹介	71
------	----

索引	82
----	----

業種から
どんな企業があるか
探すことができます。

第1回 WISE セミナー『東京と仙台の働き方の違いを考える』

地元・首都圏双方での就職活動を考えている方に、双方の働き方の違いを考えてもらうきっかけとして開かれたセミナー。大学を卒業後、東京で就職し、現在は仙台と東京両方で働いている株式会社ラナエクストラクティブの秋山洋さんと、一度は東京で就職したものの、現在仙台で働いている有限会社東北工芸製作所の木村真介さんをゲストに迎え、それぞれの働き方の違いなど語っていただきました。



自分自身が「どう生きるか」をしっかり考える

私は東京の大学を卒業後、中学のころから興味があったデザインの道に進みたいと、デザインの専門学校に入り、専門学校卒業後はWEBの制作会社



株式会社ラナエクストラクティブ
秋山洋さん

に就職し、夜も遅くまで働いていました。2011年に株式会社ラナエクストラクティブに入社しました。ラナエクストラクティブは、東京オフィスと2017年3月に立ち上げた仙台オフィスがあり、現在は仙台オフィスでアートディレクターとして勤務し、仙台と東京を行ったり来たりの生活をしています。

これは東京に限ったことではないかもしれませんが、現在是一个の会社に就職して、定年まで勤め上げるというのは少なくなっていると思います。大切なのは自分自身が「どう生きるか」ではないでしょうか。

仙台で働くか東京で働くかという選択も、「どう生きるか」に大きく関わっ

てくる問題ですね。例えば仕事という面では、自分が働きたい業種が、東京にしかないのであれば、労働環境がどうであれ東京に就職するしかありません。生活という面では、東京は仙台に比べると生活コストも高いので、仙台の方が充実できます。私はスキーやドライブが好きで、東京にいたときもシーズン中の週末はスキーを満喫して、平日は仕事を頑張るという暮らしをしてきました。今年の5月に仙台に赴任したばかりなので、今シーズンはとても楽しみです。

東京はいろいろな人がいるだけに、いろいろな仕事があるので、何とかしようと思えば何とかできる場所です。そ

れだけに、自分がこれからどう生きていくのかをしっかりと考え、覚悟を決めることがとても重要だと思います。

東京は「日本語が通じる海外の都市」

私は神奈川県の高校を卒業後、4年ほどいろいろなことに取り組み、22歳の時に東京の大学へ進学し、学生中に起業したりして働いてきました。現在は、仙台に在住して有限会社東北工芸製作所で、主に漆塗りの製造と販売を行っています。ボランティアとして定禅寺ストリートジャズフェスティバルの理事なども行っています。

東北工芸製作所は、80年の歴史を持つ伝統的工芸品の製造元で、多様な人材がいることが地元のためになると考えている企業だけに、私のボランティア活動にも寛容で、むしろ応援してくれます。地元の事を考えている企業が多いのも仙台の特徴であり、いいところだと思います。東京の多くの上場企業が考えているのは、東京とい

う地域のことでなく業界や株主のことです。自社だけでなく地元の事を考える企業が、就職先として面白いと思うのであれば、仙台は最適だと思います。

また、東京はさまざまな業界自体の層が「厚い」というのが特徴として挙げられると思います。例えばWEB制作一つに限っても、「インフラティブ」という部分に特化した多くの企業があり、そこにはたくさんの方が働いている。その中で日々切磋琢磨しているのです。そのため、自分がやりたいことが決まっている人は、一度東京で揉まれてみるのも一つの選択肢だと思います。

私は、東京を仙台と同じような都市と捉えない方がいいと思っています。なぜなら、仙台や博多、札幌などの都市は比較対象として捉えられますが、東京という都市の比較対象はニューヨークやロンドン、パリだと思うので



す。ですから東京は「日本語が通じる海外の都市」だと考えるといいような気がしますね。



有限会社東北工芸製作所
木村真介さん



ミニワークショップ「東京と仙台どちらが魅力的？」

聴講後、「仙台と東京、自分が選ぶならどっち？自分の基準を考えよう」というテーマでミニワークショップが行われました。学生たちは自分の意見が参加前と変わるのか、それとも変わらないのか、深く悩んだような面持ちでした。1人ずつ行われた発表では、やりがいや仕事の選択肢の多さから東京を選ぶ学生や、やりたいことをやらせてくれる会社に就きたいといった学生、生活コストのことを

考えて仙台、一度東京で働いてから仙台に戻る、というさまざまな意見が出ました。ゲストの2人からは、東京で働くには「やりたいことが決まっている人」、「海外で働きたい人」といったアドバイスがありました。

東京と仙台どちらにもメリット・デメリットがあります。周囲の人と相談しつつ、最終的には自分で決断することが、後悔しない就職活動に繋がれるのではないのでしょうか。

取材後の感想



東北福祉大学3年
室井真優香

「東京は日本語が通じる外国で、ニューヨークやロンドンと比較する都市」といった、木村さんの衝撃的な言葉が印象に残りました。東京にはさまざまな人間がいるからこそ、全てにおいて著しい発展を遂げていて、最先端技術が集結しているのだと改めて考えさせられました。首都圏と仙台どちらに就職するかを決断する時までは、自分の思い描く社会人ライフスタイルを吟味しながら、大学3年生の今の時期を大切に過ごすべきだと感じました。



東北福祉大学3年
佐藤優衣

仙台が東京のどちらに就職するか決心がつかず閉塞感すら感じていました。そんな中舞い込んだセミナー開催の知らせにすぐに参加を決めました。聴講する中で2か所を比較したお話が聞け、東京を「日本語の通じる外国都市」と比喩表現したお話が印象に残りました。また今までの考えとは一変し、仙台で地元の方々と密接に関わりながら働くスタイルもいなど地元就職を前向きに考えられるようになりました。

生活関連サービス業、娯楽業

株式会社 あいあーる

〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-6-34 TEL:022-227-3336 FAX:022-227-3346
URL: <http://www.heian-sendai.co.jp/aiare/>



代表者 菊地 隼
代表取締役社長

資本金 2,000万円

創立・設立 1960年

受賞歴 2003年
ISO9001取得



お客様も従業員も大切に、 よりよいサービスを提供します



菊地 隼
代表取締役

お客様の人生に寄り添うサービス

あいあーるでは、冠婚葬祭互助会業を行っています。互助会とは、会員となって事前に一定の掛け金を支払っておくことで、冠婚葬祭のサービスを安価に利用できるシステムのことです。私たちの人生には、婚礼や葬儀をはじめとして、七五三や成人式、入学、卒業など、さまざまな節目があります。そして、その一つひとつが一生に一度の大切なものです。あいあーるは、「ゆりかごから墓場まで」という言葉のように、常にお客様の人生に寄り添い、そのような節目を満足し

て迎えらるようなサービスを提供しています。また、「全スタッフの幸せを追求する」ことも理念として大切に掲げているそうで、「やはり従業員満足度がないと顧客満足度も上がらない」と菊地社長は語ります。従業員が安心して働くことができ、楽しみを感じられる職場環境を目指して積極的に取り組む企業でもあるのです。

採用情報

※直近の採用人数

2016年	23名
2017年	46名

事業内容

三部門に分かれて、それぞれ専門的な業務を行っています

あいあーるは三つの部門によって業務が分かれています。一つ目は、メンバーズ部門。互助会会員の管理や、会員募集の営業および全社の総務や経理を担当しています。二つ目は、婚礼会館である「パレスへいあん」での業務が中心となるブライダル（婚礼）部門。婚礼を挙げるお客様の希望に添えるよう話し合いを重ね、こだわりの結婚式を作り上げていきます。また、結婚式だけでなく、企業の会議や祝賀会も行っています。そして三つ目が、葬儀や仏壇仏具の販売を行っているフューネラル（葬祭）部門です。事前の相談から、実際の葬儀の段取りはもちろん、その後の遺品整理や法要のお手伝いなども業務の一つです。また、「Mum Café」という仏壇ショールームとカフェを一体化させた店舗の設置など、新たな取り組みも行っています。入社以降に他部門に興味を持った場合は、異動を希望して幅広い業務を経験することも可能になるそうです。

求める人物像

自分のためよりみんなのために

一番大切なのは、この業種に興味を持って、楽しく仕事ができるかどうかです。人と接するのが好きな人でなければ、サービス業は務まらないと思います。

あいあーるは従業員満足度を高めることを目標の一つに掲げていますから、それを理解できるかどうか大切です。時には、みんなのために自分が我慢しなくてはならないこともできます。それでも、みんなと一緒に自分もよくなっていきたいと、協調性をもって働ける方が向いていると思います。

出身校や学科は問いません。専門的に学んできた方ばかり採用すると、どうしても偏りが出てきてしまいますからね。例えば、ブライダル部門のパレスへいあんでは、宴会スタッフとして経験を積んだ従業員が、プランナー、衣装、カメラマンなどの部署に、希望や適性に応じて配置されます。その人の可能性を引き出しながらサポートしていくので、安心していただければと思います。それ以外の美容や料理は専門的な勉強が必要となってきます。いずれにしても、入社後に後悔しないために、事前に会社のことを良く知ってから選んで欲しいです。

将来ビジョン

双方の満足度を高めるために

顧客満足度を高める試みとして、多くの会員様に喜んでいただける特典を充実させたいです。現在は、スポーツ観戦チケットのプレゼントや婚活イベントの開催など、さまざまなサービスを会員様向けに行っています。互助会に加入していただいている方には、婚礼や葬儀などの節目だけでなく、何気ない毎日にも楽しみを提供していきたいからです。今後はこうしたサービスの幅を広げていきたいと考えています。一方、従業員満足度を高めるためには、「ボトムアップ」を目指し、スタッフの声が通りやすい環境をつくるのが大切です。意見を聴いてくれる会社ならば、従業員にも主体性が生まれ、現場がよりよいものになります。また、サービス業はお客様の要望の量によって仕事量が変わってしまい、残業時間の管理が難しいという課題があります。今後はその問題についてより慎重に考え、従業員のワークライフバランスの向上にも努めていきたいですね。



パレスへいあん 挙式を終えた新郎新婦のお出迎えの様子

ポイント

- 興味を持ってくれる人
- 協調性
- 出身校、学部学科は問わない
- 配属先により土日の出勤も
- マナー、礼儀が大切

WISE 記者の
企業体験記

最高の結婚式に

この日夫婦となる1組のカップルの挙式から、披露宴までの流れを見学。パレスへいあんでは、春と秋に結婚式を行うカップルが多く、この日も4組行われたそうです。外部業者が少なく、自社でスタッフを揃える事で、料理も含めてリーズナブルに提供できることや、細部にまでこだわる事が可能になるのです。館内にブライズルームや花嫁専用エレベーター、ゲストも利用できる貸衣裳や美容室も揃っているの、準備がスムーズであることや、館内の設備、仙台駅から徒歩5分というアクセスの利便性、遠方のお客様も比較的小祝いに来やすいこと、二次会への移動が楽であることなどが、お客様の評価に繋がっているそうで、多いときには、1日に10組の婚礼が行われることもあるそうです。

最初は、チャペルで挙式を見学しました。イタリアの教会群から譲り受けたというステンドグラスや、ブラウン基調の内装は街中にあることを忘れさせ、花嫁の純白のドレスをより一層引き立てているように感じました。次に、併設されている中庭でのフラワーシャワー、ブーケトス、バルーンリリースに移ります。挙式での厳粛な雰囲気とは違い、祝福のモードに包まれ、皆さんの笑顔を見ることができました。その中でスタッフの呼びかけや、足の不自由な方への配慮も垣間見え、そうした小さな気遣いが挙式を成り立たせているのだと実感しました。続く披露宴では、宴会スタッフの料理を持ってくる絶妙なタイミングや、サービススタッフの業務をこなすだけでなく一緒に盛り上げようとする姿に、おもてなしの精神を感じました。



ここが 知りたい お得な会員向けイベント！

冠婚葬祭サービスの他に、月に数回行われる会員向けイベントの企画・運営も行っているそうなので、詳しく伺いました。もともとは互助会業界全体での取り組みでしたが、現在では独自にさまざまなイベントにチャレンジしているそうです。婚活パーティーやブライダルセミナーは大人気。最近特に好評を得たイベントは、プレパパママサポートイベントです。妊娠中、またはこれから妊活をしたい夫婦に向けて、沐浴指導など、親になる準備の支援を行っています。その他には、お茶の煎れ方セミナーや水族館のナイトツアー、座禅ツアーを企画し、日常的にもお客様に幸せを届ける努力をしているそうです。



座禅ツアーの様子

もしも、あいあーるの社員になったら

あいあーるは、メンバーズ部門とブライダル部門、およびフューネラル部門に分かれています。基本的には職場が異なりますが、年1回ボーリング大会や懇親会など部門を越えた交流も行っています。これらは、社員の交友関係を広げることや、互いの仕事を深く理解するための大切な行事の一つです。また、月に1回、仕事終わりにさまざまなスポーツを行うサークル活動をしています。「スタッフが仕事だけの人生にならないように、会社が趣味を支援したい」と菊地社長。あいあーるに勤めたら、公私ともに充実した楽しい生活ができそうです。



懇親会の様子

先輩の 声

主体性をもって、仕事のできる職場です



高橋 優知さん
総務部課長
(山形大学人文学部卒)

これまでさまざまな業界で、総務と人事の仕事をしてきました。入社してまだ半年ですが、大変やりがいを感じています。どんな会社にも勤めても、楽な仕事はありませんが、勤める上では、どれだけ自分のやりたいことが実現できるのかを重視しています。あいあーるは、そんな私の希望を最大限に叶えてくれるのです。例えば、他の職場であれば制約を受けることでも、ここでは理にかなうことであればチャレンジできる土壌があります。特に総務は、社内で発生するさまざまな問題の解決を図り、制度を構築する部署です。時代によってお客様のニーズや従業員のあり方も多様化しているため、事例にないトラブルに対処するルールを考えなければなりません。ここで考えることのできる自由度が高いことが、業務のしやすさに繋がっています。仕事をしていて嬉しいのは、従業員が働きやすい環境やシステムを作れた時で、今後も従業員満足度を高めて社員が楽しく働き続けられるよう考えることが目標です。冠婚葬祭業は人の人生に関わる仕事です。人が好きで、興味をもって接することのできる方とは、仲良く仕事ができると感じます。また、お客様に対して「こうした方がいい」ではなく「どうしたらよいか」を一緒に考えられる方に向いていると思います。

高橋さんの1日

9:00	出社、申請書の登録や決済
10:00	会議
12:00	昼休憩
13:00	他部署との打ち合わせ
16:00	会議
17:00	残務整理
17:30	退社
19:00	帰宅～夕食
20:00	テレビ、DVD鑑賞、読書他、趣味の時間
1:00頃	就寝

高橋さんのオフショット

私はとても多趣味です。趣味だけで30ページは書けますよ。中でもスノーボードは14年ほど続けていて、大好きなスポーツです。今後は必ず、社内でのサークル活動として企画するつもりです。何もしないで家にいると、もったいない気分になります。そのため、休日は外出しないと気が済まず、目的を決めずにドライブをしたり、山を登ったりしています。最近はカメラにもはまっていて、主に風景を撮って楽しんでいます。世界遺産も好きなため、ハロン湾やアンコールワットを撮りに行くのが夢です。



記者紹介



宮城学院女子大学3年 大泉 葵

菊地社長の、従業員の働く環境に対する対応や熱意をとて感じた取材でした。ブライダル部門で担当して下さった社員の方にも、環境整備への取り組みの姿勢が伝わり、意識や働きかけが変化しているのを知り、とても驚きました。お客様のことを最優先に考えるだけでなく、従業員に目を向けることで、より良いサービスが提供されているのだと思いました。



東北福祉大学3年 佐藤 優衣

菊地社長は従業員のことをよく考え、聞く耳を持ち、現場のスタッフの要望も理に叶えば実現できるよう配慮するような社長だという風に、総務部課長の高橋さんをはじめ、企業体験で訪問したパレスへいあんの従業員の方も口を揃えておっしゃっていました。このようにES（従業員満足度）の充実がCS（お客様満足度）を向上させることができるんだと気付きました。



東北大学3年 安達 琴乃

取材に訪問してまず驚いたのは、社長の若さです。若いからこそ、新しい発想を柔軟に取り入れ、従業員と同じ目線に立った会社が作れるのだと思います。社員も遠慮せずに発言できる職場環境が、大変魅力的でした。また、職場体験では挙式や披露宴を見学させていただき、とても感動しました。華やかで美しい内装や幸せな雰囲気にも憧れました。このような喜びに溢れる職場に、多くの学生が興味をもってくれると嬉しいですね。

卸売業、小売業

海鮮せんべい塩竈 株式会社

〒985-0001 塩竈市新浜町3-30-30 TEL:022-363-5030 FAX:022-363-5031
URL: <http://www.kaisen-shiogama.com>



代表者 杉浦 敏夫
代表取締役社長

資本金 300万円

創立・設立 2015年



美味しさと楽しさのテーマパーク



杉浦 清高
常務取締役

愛知でのノウハウを生かし東北に根を張る

塩竈市に会社を設立したのは2015年。愛知県碧南市でえび煎餅の製造と販売を行っていた「スギ製菓株式会社」を親会社とする企業で、愛知でのノウハウを生かし東北に根を張りました。愛知から、東北に進出したきっかけの一つが、2012年に愛知県碧南市と塩竈市が結んだ防災協定でした。地形や都市の規模が似ている両市は、災害時に支援し助け合うこと、平時には交流を深めることを目的に締結されたそうです。南海トラフの被害が予想される東海地方。愛知

県から700km離れた塩竈に工場を点在させた狙いは、もし震災が起きても、煎餅メーカーとして生産を止めないためのものであり、商品を生産できる体制を作ることが、企業や商品、社員を守るすべだそうです。また、東北地方の市場の特徴として、扱う商品が参入しやすい状況だったこともあり、新しい手土産として海鮮煎餅を売り出していこうということで会社が設立されました。

採用情報

※直近の採用人数

2017年 2名

事業内容

足を運んだ人が気軽に楽しめるテーマパークへ

三陸の海産物を使った海鮮煎餅の製造・販売を行っています。眼前に太平洋が広がる塩竈市に、販売店舗と事務所を構えています。とれたての海の幸を生かした製品は約50種類。お客様の生の声を取り入れた、さまざまな種類の煎餅が並ぶ販売店舗は、「美味しさと楽しさのテーマパーク」と位置付けられ、隣接する工場の一部を公開していたり、約50種類の煎餅すべての試食を用意していたりと、足を運んだ人が気軽に楽しめる仕掛けが施されています。工場で製造された商品は、塩竈本社の他、JR仙台駅や仙台空港など集客が多い場所での委託販売も行われています。主力商品である「うに煎餅」や「たこ煎餅」は、手土産として重宝されており「今後は地元の名産品として愛される商品になるように、いろいろな角度からアプローチしていきたい」と杉浦常務は話してくれました。

求める人物像

明るく元気で一緒に会社を盛り上げてくれる人材

挨拶など基本的なことをしっかりと行うことができ、そして元気な人材を求めています。私たちが製造・販売している煎餅は「気持ちの代替品」として、いつもお世話になっている人への手土産に、お買い求めいただくことが多い商品です。コミュニケーションや周りとの関係など、売り手である社員にも、コミュニケーションを大切に人である人であって欲しいと考えています。また、新商品や新店舗などの企画に取り組むことができる人材も求めています。2015年塩竈市に会社を設立し、これから事業をどんどん広げていきたいと考えている最中ですが、お客様がどんなものを求めているのか、幅広い角度からニーズを読み取っていく力が必要だと感じています。新商品の開発であれば、どんなパッケージで、価格はどれくらいだとお客様に手に取ってもらいやすいのかなど、試行錯誤をしながら形にすることが、愛される商品へつながります。地元を代表する手土産づくりのために、ぜひ一緒に企画してみませんか？

将来ビジョン

商品開発で勝負！販路拡大に挑む

より多くの方に当社の商品を楽しんでいただきたいですね。東北だけではなく、関東の方にも。仙台駅など人の集まる場所で、新たな店舗を展開できればと思っています。さらに、商品の企画開発に力を入れていきたいです。最初に手がけた「三陸たこせんべい」は、中身が見えないパッケージが好評でした。また、手に取りやすいように持ち手のついた袋に入れたことも工夫の1つです。東北のお土産市場で生き残っていくためにも、企画に興味のある若い人材が必要です。そして、災害に強い企業を目指しています。同系列の会社が愛知県にあるのですが、2012年には塩竈市と愛知県碧南市は防災協定を結んでいます。震災のような災害が起きた際には、互いに協力し合うことが可能です。不測の事態になっても、商品が欠品しないような体制をこれから整えていきたいです。



販売店舗の様子

ポイント

- 挨拶ができる人
- 元気な人
- 企画に興味がある人

WISE 記者の
企業体験記

地産地消にこだわる思い

販売する場所の名物や特産品を使用し、名物をつくることをコンセプトに、首都圏での販売も視野にいられています。地元のものは地元のものとして扱い、お客様が地域土産として自慢してくれるような商品づくりを目指しているそうです。

販売店舗の脇にはせんべい工場があり、一般の人にも公開されています。このコースを私たちも見学しました。大きな窓ガラスから、選別工程から完成までを見学することができるのですが、工場にある機械にもこだわりがあり、自社オリジナルの機械に変更しているそうです。

また、おせんべいの手焼き体験もできるのですが、これはお客様からの要望があって始めたもの。現在は小さな煎餅をあぶるという体験なのですが、今後は同時に40人くらいの方が焼けるようにしたいとのこと。煎餅の大きさを顔の大きさくらいにしたほうが、インスタ映えして名物になるのではないかと思います。

お土産売り場の他にも、飲食店や野外ではBBQができるエリアの設置も考えているそうで、将来的には食のテーマパークとしていきたいそうです。

海鮮せんべい塩竈には、三陸の海の幸をモチーフにした、七福神のようなメインキャラクターがいるのですが、このキャラクターのパッケージが描かれているせんべいは、塩竈本社のみで販売しています。

取材を通して感じたことは、幅広い客層のお客様や、従業員、会社の成長を常に考えているので、さらに多くの人に立ち寄って、楽しんでもらえる場所に進化していくのではないかと思います。

ここが 知りたい

社員向けの研修やイベントがたくさん

「お客様には美味しさだけでなく、楽しさも味わってほしい」と語る杉浦常務。そのためには、社員自らが「楽しんで」働く必要があると話してくれました。そこで今回は、社員向けの研修やイベントに注目し、さらに詳しく伺ってみることにしました。

まず、気になったのは「50kmウォーク」という体験研修です。年に一度開催され、50kmの道のりを仲間とともに歩くというのだそうです。長い道のりではありますが、普段とは異なる同僚の一面を見ることができたり、自然に協力できる時間があるのは、社員の皆さんにとって嬉しいことだと思います。

また、「実行委員制度」という特徴的な制度があるそうです。これは、イベントの運営を全て社員自らが行うという制度です。社内では、社員旅行などが定期的に行われています。

が、その企画・運営を行うのは若手社員。ちょっとした勉強も兼ねており、企画・運営に携わった経験は、「普段の仕事にも生かすことができる」そうです。

将来的には他の企業で研修を受ける機会も増えるとのこと。楽しいだけでなく、常に学ぶ姿勢も忘れないようにするためだそうです。実際に他の企業に出向くことは、社員にとって大きな刺激になるのではと思いました。時には大手企業で、経営について学ぶこともあります。「入社してから成長したい」という願いが、ここでなら叶えることができるのではないかと思います。



経験や気づきを商品へ 改良を重ねた主力商品



先輩の 声

やりがいを感じる日々続く



小林 雄太さん

(宮城県東松島高等学校卒)

塩釜にせんべいの製造会社ができると聞いて興味を持ちました。塩釜は私の地元で、会社のことを教えてくれたのは高校の先生です。何よりもまず、社員研修やイベントが豊富だということに惹かれました。自分を成長させてくれるような職場で働きたい、という思いは誰もが持っていると思います。学生の皆さんには、ぜひ「入社後にどんな教育を受けられることができるか」に注目して就職先を選んでほしいです。もちろん就職したばかりの頃は、知らないことが多くて大変でした。食品の製造について知識があったわけではありません。「やること全てが勉強」という毎日。しかも、最初の仕事は「販売」でした。もともと人と話すのは少し苦手で、工場の勤務を希望していましたが、社内での面談の結果、販売の仕事に挑戦することになったのです。今になって思えば、その配属は自分にとってよかったと思います。さまざまな人と関わる機会が増えたからね。塩釜の直営店だけでなく、駅や空港に出向くこともありました。そして、販売の仕事を覚えた後は配達の仕事に任されるようになりました。次々に新しい仕事に挑戦することができ、常にやりがいを感じます。

小林さんの1日

7:30	出勤	お店の開錠
7:50～8:10	朝礼	
8:15～9:00	開店準備	
9:00～12:00	接客	
12:00～13:00	昼食	
13:00～15:00	配達	
15:00～17:00	接客	
17:00～17:30	閉店業務	
18:00	事務作業	
18:20	退社	

小林さんのオフショット

週休2日制で、有意義な休日を過ごすことができます。妻と休みの日が合う時は、一緒に外出しています。写真は、岩手県中尊寺を訪れたときのものです。天気も良くてとても楽しかったですね。夜は美味しいお肉もいただき、大満足の休日になりました。ほかにも仙台七夕祭りなどいろいろな所へ行っています。休みをうまく利用し、これからもさまざまな所に行って家族との思い出をたくさん作りたいです。



仕事だけでなく、休みの日も充実。家族と過ごすひととき

記者紹介



東北医科薬科大学 1年 塚本 聖花

「三陸うにせんべい」は、私にとって思い出の詰まった商品です。ちょうど1年前、大学受験のため京都から仙台にやってきた私。大きなお土産を買うのは気が引けました。お店をゆっくり見て回る時間ありません。そんな時、思わず手に取ったのが「三陸うにせんべい」。これは単なる偶然ではなかったんですね。パッケージに工夫があったからだ取材を通してわかりました。商品開発の舞台裏を見ることができ、とても勉強になりました。



東北学院大学 4年 平田 真莉子

商品のアイデアは店舗スタッフから意見を聞くことが多い、と杉浦常務からうかがいました。お客様と直接に接しているスタッフの情報は、消費者の生の声として商品開発や店舗展開に取り入れているそうです。訪れた誰もが楽しめるテーマパーク化を目指す会社として、一次情報をしっかり聞き取っている点に、たくさんの人が足を運ぶ秘訣が隠れているように感じました。



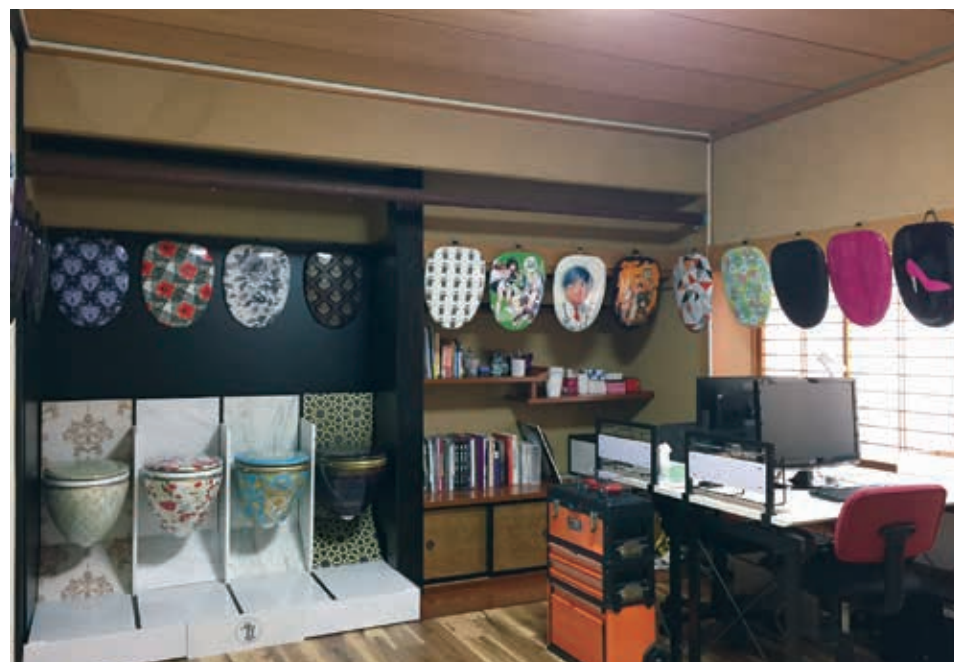
東北福祉大学 3年 室井 真優花

700km離れた愛知県のスギ製菓と、宮城県の海鮮せんべい塩竈と、工場を2カ所に設け、どちらかが被災したとしても商品を切らすことなく営業できると考えた、社長のアイデアに度肝を抜かれました。一番の目的は会社を存続させることや社員のため、お客様のためだったのですね。このような社長の思いが、幅広い客層に立ち寄ってもらえることに繋がっているのではないかと思います。

電気・ガス・熱供給・水道業

有限会社 泰光住建

〒981-3212 仙台市泉区長命ヶ丘1丁目17-3 TEL:022-378-4543 FAX:022-378-5194
URL: <http://www.taikoujuken.com>



代表者 赤間 晃治
クリエイター兼CEO

資本金 300万円

創立・設立 1987年

受賞歴 2018年 A'designAWARD
ブロンズ賞
2018年 仙台ビジネスグラン
プリ おもてなしセレクション
奨励賞（追加有）



笑顔で繋がるために、世界初のDesign トイレ



赤間 晃治
クリエイター兼CEO

トイレデザイン業への挑戦

創業以来長年水道工事を行ってききましたが、東日本大震災をきっかけにトイレのデザインに取り組むことに。復興活動を通してトイレの使い方に疑問を持ち、汚せないトイレを作れないかと思い立ったそうです。そこでどうにかして便器に絵を入れることはできないかと考え、フィルムを貼るという独自の製法にたどり着きました。誰も行ったことの無いトイレの装飾事業を広めるために、まずはデザインに対する感覚が高い海外へ進出し、逆輸入として日本に持ってこようと考えたそうです。「私

たちのような小さな会社の商品でも、受け入れてもらえるのはどこか」と国を探していた際に、国策として世界初や世界一など、世界中の面白いものを集めているドバイに出会い、ここでなら自社の商品を受け入れてもらえると感じ、進出先として決めたそうです。世界中のトイレが変わるきっかけとして、仙台からトイレデザインのチャレンジを続けています。

採用情報

※直近の採用人数

2016年	1名
2017年	1名

事業内容

水道工事から装飾まで、幅広い事業展開

主な業務内容は水道管工事、リフォーム、インテリアデザイン、レストルーム空間デザイン、トイレ装飾です。仙台をメインとして、住宅やアパートの水道工事を設立当初から現在も継続して行っています。またレストルームに限らず、通常の店舗や住宅のリフォームも、お客様からの要望があれば請け負っています。さらに世界初のトイレアート商品、“idea of toilet”（アイデア オブ トイレット）を特殊なフィルムを用いることで製造し、販売ルートを開拓中。仙台空港や宮城県図書館などの公共施設にはすでに設置されており、現在は旅館やホテルなどの商業施設を中心に販売しています。現地法人設立に向けてドバイでの知名度を上げるために、世界最上位クラスの展示会と呼ばれる、パリのメゾン・エ・オブジェへの出展も決定しています。

将来ビジョン

ドバイへの法人設立

まず国内の水道事業は、地元を中心にこれからもずっと続けていきたいです。また実績作りを含めた国内でのチャレンジを、仙台をベースに少しずつ展開しているところです。国内でも“きれいな装飾トイレ”というものを広めて、この街から始まったビジネスであるということを伝えたいと思っています。海外進出では、日本貿易振興機構のジェトロの支援をいただきながら、ドバイに現地法人を設立しようと進めています。しかしドバイには前例が1件もないため、非常にハードルの高い挑戦となっています。いまま現地で最良のパートナーを見つけるために、継続して2、3ヶ月に1回ぐらいドバイに赴き活動しています。いい感触の話が多くきているので、来年ぐらいに何かしら現地での販売活動の開始を計画中です。

求める人物像

チャレンジを楽しんでくれる人

現在、ドバイに海外事業部の設立に向けたプロジェクトチームの一員となってくれる人を募集しています。海外事業部は会社としてはまだ成り立っていない状況で、会社が出来上がるまでのロジックを勉強できるのは、他の会社ではできない経験だと思います。私たちはどこにも販売されていないものを造っているので、ミスマッチから辛辣な意見を言われたり、商談を繰り返しても結果に結びつかないことも多くあります。市場がない商品を、購入者がどう判断するのかを常に考え挑戦していかなければならないのです。前例のないことをしているので苦労も多いのですが、チャレンジとして楽しんで取り組んでくれる人がいいと思っています。目標を持って挑戦を楽しみとして捉えてくれる人が、当社には必須かなと思います。当社の魅力としてはTOEICなどの“資格”を生かせる、支援できる環境が整っていることです。資格には見合った手当をしていて、能力評価はきっちりやるスタイルです。



チャレンジを楽しんでくれる人

ポイント

- チャレンジ精神のある人
- 将来海外で働きたい人
- 英語やグラフィックデザイナーの資格がある人

WISE 記者の
企業体験記

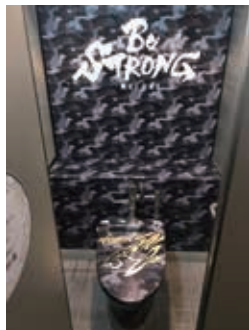
一つひとつが ハンドメイドの作品

トイレにフィルムをどのように貼っているのかについて詳しくお聞きしました。フィルムに印刷できない細かいラメの入ったグリッターの加工や、スワロフスキーをつけるなどの加工も行っています。

作業手順としては、トイレに貼るフィルムをグラフィックデザイナーが形に合わせ、デザインが綺麗に見えるようにミリ単位で加工を施します。

次にトイレに合わせて加工されたデザインをフィルムに印刷し、職人が手作業でフィルムを伸縮させながらトイレに貼っていきます。フィルムは一度貼ってしまうとやり直しがきかないため、高度な技術と丁寧さが必要であり、作業を丸一日かけて行うそうです。現在は、ベガルタ仙台とコラボレーションして、ユアテックススタジアムにベガルタトイレを導入するための企画を行っている真っ最中との事でした。

初めて装飾をされたトイレを見た時、その綺麗さと、こんなトイレがあるのかと驚きました。デザインが施されたフィルムを大量生産し、トイレに貼って完成という、簡単な作業なのかと想像していました。ですが、トイレの形一つひとつに合わせたデザイン加工から、フィルムを貼る職人技が組み合わさったハンドメイドで作られているため、とても美しいトイレアートが完成していることが分かりました。実際にトイレアートを見て、綺麗に使うという意識が生まれましたので、装飾されたトイレが私たちの暮らしのなかにさらに定着していくと良いなと思います。



ここが 知りたい トイレ装飾を手掛けた理由

水道工事をしているので、トイレの取り付けをしており、その時々トイレもリビングや家具や壁のようにおしゃれにできないかと考えていたそうです。トイレ空間には床や壁、後から取り付ける便座カバーなど、決められた枠の中でセレクトするおしゃれはありますが、それすら汚れてしまうと「気分的な問題が生じる」と赤間社長。単純におもてなしの材料という雰囲気だけで作っても、トイレそのものは変わりません。どこまでいってもトイレでしかないというのを、もう一つ変えたいという思いから、誰も手付けなかったトイレへの直接の装飾をしたいというきっかけで始まりました。赤間社長が海外志向だったのと、趣味のデザインが転じて現在の業務に変わっていきました。その延長線上に海外仕様のフィルムに出会い、それを輸入したのが始まりです。トイレの球体形状に合わせて製作する技

術を新たに生み出したことが苦労した点で、トイレ自体が多面球体で、丸や四角など複雑にうねりがある形で時間と労力を要し、フィルム張りだけでも丸一日かかるそうです。3D分析ソフトでトイレに貼ることを計算し、平面展開の状態だとデザイン自体はわかりません。トイレにフィルムを伸ばして張り付けてから初めて、描いてた完成像が仕上がります。生産数は多くはありませんが、デジタル技術が得意な現代的な人材と、昔ながらの職人の両方の雇用を活性し、事業展開を興して進化させたいという社長の心がみえました。



デザイン制作所

先輩の 声

社長とのつながりで



藤田 一希さん

(東北文化学園専門学校
医療福祉工学科卒)

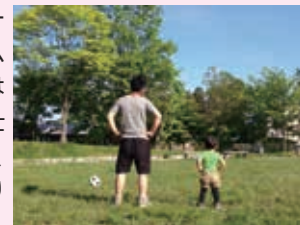
高校時代にここでアルバイトをしていて、業務内容やどんな人が働いているのかも知っていました。普段は水道工事に携わっていて、蛇口の器具やトイレの設置をしています。見てみないとわからない仕事だと思うのですが、現場で穴を掘って配管していることが多いです。この会社のいいところは、意見をとりあげてもらえることと、成果を評価してもらえること。自分にとってやりがいを感じやすいですね。以前は介護職をしていて、職場が人数で、自分の意見を採用されないことが結構ありました。会社のマニュアルが出来上がっていると、自分の自由が利かないような気がして、やりがいを感じられずにいました。社長とはサッカーを通しての知り合いで、そのことを相談していたら「うちの会社では、一人ひとりしてきたことがダイレクトに繋がる」という話や、自分がやりたいことを採用して事業を進めていけるという話を聞き、そこに魅力を感じて入社させていただきました。仕事を行う上でトラブルが発生した際に、どのように対処するかは大切ですね。社長は、ミスを責め立てることはなく、次につなげることをしなさいという人です。イエス・ノーがしっかりしている人柄で、仕事上でもサッカーでも私にとっては尊敬する人物です。

藤田さんの1日

7:30	出社
8:00	現場の道具、材料を準備し現場へ出発
8:30	現場到着、作業内容・注意事項の確認・体調確認 現場作業開始
10:00	休憩
10:30	作業開始
12:00	昼食
13:00	作業開始
15:00	休憩
15:30	作業開始
17:00	作業終了 現場の整理整頓
18:00	退社

藤田さんのオフショット

毎週のように息子とサッカーをしており、体を動かし大声を出して、身も心もリフレッシュしています。サッカーを通して礼儀作法、チーム行動の大切さを学びました。仕事をしていく上で私がとても大切だと感じるのがこの二つです。新入社員は初めての職場で不安なことなどがあると思いますが、しっかり挨拶をしようという気持ちや行動が、良い仕事につながります。スポーツのチームと同じように会社もチームです。チームを良くするにはどうすればいいか、それを仕事に置き換えて行動すると、きっと働きやすい会社になります。



親子でサッカーを楽しむ

記者紹介



宮城学院女子大学 2年 芦名 麻知

震災を通じてトイレの装飾事業を始めたと聞いてとても驚きました。芸術性の高い便器を製作し、汚せないトイレにするということは、新しい発想だと思いました。始めて製品を見せて頂いたときはただ単に富裕層向けのトイレなのかと思いました。この一見派手で面白いデザインのトイレには、「トイレをきれいに使ってほしい」という従業員の皆さんの思いが込められていることに気づけました。



宮城学院女子大学 3年 大泉 葵

レストルームの空間をおしゃれなものにする延長として、トイレを装飾する事業ができたのだと考えていました。ですが、トイレに装飾を施すことで「汚さないようにしよう」という利用者への働きかけを目的としていると伺い、トイレを綺麗に使うという意識が生まれました。トイレを装飾する事業をきっかけに環境的、衛生的に良いトイレがさらに世界に広まって欲しいと思います。



宮城学院女子大学 3年 佐藤 佳奈

トイレ本体に装飾を施すという発想が、斬新で面白いなと思いました。取材に行かせてもらいました。お話を伺っていると、震災がきっかけでトイレを変えたいという社長の思いが、今の業務につながっていったようです。泰光住建では、社内全体でステップアップができる環境が整っているのが印象的でした。資格をもっていることが、仕事に活かせることに魅力を感じました。

生活関連サービス業、娯楽業

FIVESTAR WEDDING

〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-1-11 TEL:022-722-7488 FAX:022-713-7033
URL: <http://www.fivestar-wedding.com/>



代表者

神田 輝
代表取締役社長

資本金

2億9,500万円

創立・設立

1972年

受賞歴

2012年～2017年 モ
ンドセレクション 金賞
最高金賞
やまぐち子育て応援企業
928

定禅寺通りでお客様と共に幸せを創る



藤井 奨
支配人

お客様の想いを形に

固定概念や業界の慣例などにとらわれず、新しい結婚式を創造し、日本一のウエディングカンパニーを目指します。この理念に則り FIVESTAR WEDDINGは結婚式を通してのサービスの提供をして参りました。100組のカップルがいれば100通りの要望があり、結婚式の場所、料理、音楽とさまざまなニーズがあります。そのお客様の想いを形にするのが仕事です。FIVESTAR WEDDINGに頼めば、お客様の夢や憧れを実現する結婚式を提案し、オリジナルの結婚式を

挙げる事が可能です。結婚式は不安なことが最終的に不満になっていくことが多いため、何度も打ち合わせをすることで不安を解消し、お客様の気持ちを優先し、最終的には両家にとって一生に一度の一大セレモニーを大成功に導くのです。新郎新婦だけでなくゲストと共に喜びを分かち合える、今日来てよかったと思ってもらえる最高の結婚式をご提案しています。

採用情報

※直近の採用人数

2015年	12名
2016年	23名
2017年	23名

事業内容

結婚式ができるまで

ウエディング関連の仕事は数多くあり、ブーケやテーブルを飾る花を作るフラワーコーディネーターや、結婚式での写真を撮影するウエディングフォトグラファー、また、衣裳をコーディネートするコスチュームアドバイザーと、まだまだありますが、結婚式を行う際に初めにしなくてはいけないのが結婚式のプランの作成です。結婚式をしたい、興味があると訪れた人は、まずブライダルアドバイザーがお話をさせていただきます。予算はどのくらいか、式場はどこかなどの話し合いをし、式場の見学なども行います。何回かアドバイザーと話を進め、式を上げることが決まるとウエディングプランナーに引き継ぎ、本格的な打ち合わせが始まります。式の進行、BGM、料理、引き出物、ドレス、当日のバスの手配などありとあらゆる要望をお客様と一緒に考えていきます。結婚式当日は結婚式の管理、司会などをするバンケットコーディネーターと共に結婚式を成功に導いていきます。

求める人物像

等身大の自分で来てください

無理に着飾らない、明るく元気なスタッフを求めています。やはり、自分を普段より良く見せようとする、ぎこちなさがお客様にも伝わってしまいます。20歳代の受け答えは未熟で当たり前。等身大の自分を見せてください。私個人としては、就職面接をかつちりと構えたものにするつもりはありません。和やかな雰囲気、オープンに本音を語ってもらいたいですね。また、小さなことに気づくことができる人にも来てもらいたいです。例えば、普通なら見過ごしてしまうようなほこりの掃除など、お客様に不快な思いをさせないために何をすべきか、どうやったら喜んでもらえるか、ということを常日頃考えている人は、細部にまで目が行き届くので入社後も力を発揮してくれるはず。最後はなんといっても笑顔。どんなに式場が豪華でも、スタッフの笑顔がなければ一気に結婚式がつまらないものになってしまいます。人が人の結婚式をつくるのですから、明るい笑顔でお客様をお祝いしたいですね。

将来ビジョン

定禅寺から東北のリーダーとして

地域に選ばれる一番店にならなくてはいけないと思っています。一番店とは売り上げが一番ということではなく、お客様から一番に選んでいただけるということが大切です。人数が少ない、予算が少なくても、ここなら満足がいく結婚式ができる。仙台で一番、ひいては東北での一番店と思われなければいけません。現在、ブライダル産業が抱える問題には挙式披露宴を行わず、役所に婚姻届を提出するだけで済ませる、ナシ婚があります。これはブライダルに携わる企業全体が頑張らなくては解決しない問題です。競合他社も含め、ブライダル業界を盛り上げていく、そしてそのリーダーとして結婚というものに夢や希望を与える事に責任、使命を感じています。そのためにもお客様の要望に応えられる、満足していただける結婚式を提供し続けたいと思っています。



佐々木真喜子 コスチュームアドバイザー チーフ 聖霊女子短期大学卒

ポイント

- 着飾らないでオープンに
- 小さなことにも気づくこと
- 素敵な笑顔

WISE 記者の
企業体験記

常にお客様を満足させるために

定禅寺通りにあるグラン・スイートという、1日1組様限定完全貸切のプライベートゲストハウスで企業体験をさせていただきました。今回の体験では、バンケットコーディネーターの仕事の一部をさせていただき、グラス、引き出物の配置の仕事をしました。教えていただくチーフの岩間さんとともに、まずは清潔感の大切さを学びます。お客様にサービス、料理を提供するので特に気を付けているようです。建物に入る時はアルコール消毒、手洗いの際は石鹸を使い、強アルカリ性電解水、強酸性電解水と二回、手を洗う徹底した衛生管理でした。グラスの配置でも、手袋を使い指紋をつけないよう丁寧に並べていきます。グラスの種類は3種類あり、ビールやソフトドリンクを飲むノーマルグラス、ワイングラス、シャンパングラスを並べるのですが、これらをお客様が手に取る順に取りやすいよう、左にノーマル、右にシャンパン、奥にワインと三角になるように配置します。一度に多くのグラスをかごに入れ、そこから並べるので、グラスが音をたてないようにするのが大変でした。これが終わると引き出物です。引き出物は何種類もあり、どのゲストに贈られる引き出物かあらかじめ決まっています。なので、座る席に応じて配置するのですが、置く際は引き出物の寿の文字が見やすいように向きを正し、紙袋の持ち手の紐が袋の外側に垂れるようにします。作業はこれで終了ですが、全体を通して、お客様のことを一番考えて仕事をしているのだと感じました。式を成功させたい、満足させたいという思いが強く、思いやりの大切さを学びました。



ここが 知りたい

その人らしい新しい形にこだわる理由

「新しい結婚式」を提案するFIVESTAR WEDDINGでは、スタンダードな挙式・披露宴から個性的なスタイルまでさまざまなプランニングをさせていただきます。自宅や公園、時には電車の中でもご要望に応じてさまざまなスタイルが可能です。プランニングする提案者としては、事前準備に手間がかかりそうなものですが、なぜ手間を惜しんでも新しい形を積極的に提案しているのか、その理由を聞きました。おふたりが自立して、新しい家庭を築く結婚。挙式はお世話になった方々への感謝の気持ちを伝える大切なものである、と支配人の藤井さんは言います。そんな人生の大きな節目となるイベントである一方、最近では、結婚式への興味や関心が薄くなってきているそうです。「新しい結婚式」とは、そんな薄い興味や関心を突くためのものだそうです。一生の思い出に残るものを、主役であ

る二人が考え、二人らしい結婚式にすることで、参列した人や目にした人が結婚式っていい、そうしてもらいたいという想いで取り組まれているそうです。プランニングの中で重要視しているのは、打ち合わせです。式の予約が入ったら、早い段階で行い、どんなスタイルが希望か、どんな衣裳を着たいか、優先させたいことを整理していきます。プランナーは一回一回の打ち合わせを、綿密に行い、当日までの不安を少しずつ解消し、楽しい結婚式をお客様と一緒に創り上げます。この不安をなくすことが、スタッフの役目であり、結婚式への満足度を上げるいちばん重要なものであるそうです。



式に向けた打ち合わせの様子

先輩の 声

お客様の言葉が励みになる



佐藤 和さん
ブライダルアドバイザー
(学校法人三幸学園
仙台ウエディング&ブライダル
専門学校卒)

小学6年生のころからブライダルの仕事にかっこよさを感じていました。その思いは中学、高校を経ても変わることはなく、高校卒業後はブライダル専門学校に進みました。そこでマナーや敬語、カラーコーディネートなどの実践的なことを勉強してきました。就職活動でこの会社に決めたのは、結婚する意義をお客様と考えていく姿勢に心を打たれたからです。今はブライダルアドバイザーの仕事をしており、初めてご来館されたお客様の接客をしています。式場の見学やお見積りの相談などが主な仕事内容です。受付の仕事からこの仕事に異動して1ヵ月が経ちました。今はまだ慣れていないので、先輩社員が3時間くらいでこなす仕事でも、5時間くらいかかってしまいます。実力不足だな、頼りなく見えるんじゃないかな、と不安になることもあります。しかし、大変なことはあっても毎日やりがいを感じて仕事をしています。お客様に名前を覚えてもらった時や「佐藤さんの人柄に惚れた」と言ってくれたときは、この仕事ができてよかったと心から思います。会社の雰囲気もとても気に入っています。上下関係があまりなく、風通しのいい職場だと思います。私にとっては居心地のいい職場です。

佐藤さんの1日

10:00	出社、サロン（1階）をオープン
11:00	お手紙の発送
12:00	昼食
13:00	土日に向けての準備、ブログの更新、接客の勉強
19:00	退社
土日は多くのお客様がいらっしゃいます。	
接客の他にも、来館確認の電話をしたりスタッフのフォローに回ったりします。	

佐藤さんのオフショット

仕事終わりに、たまに先輩たちと飲みに行きます。また、頻繁ではありませんが、3ヵ月に1回程度イベントが行われます。10月の初めには、レンタカーを借りて、先輩たちと日帰りで秋保に行きました。10人くらいで、自然の中でのバーベキューと芋煮を楽しみました。テニスコートもあったのでテニスをしたり、沢で水切りをして遊んだりしました。思い出に残るとても楽しい旅行になりました。同じ年齢のスタッフはいませんが、先輩たちがフレンドリーに接してくれます。



記者紹介



東北福祉大学 3年 五味 貴大

取材開始10分前頃、定禅寺通りの中央分離帯の遊歩道で和装姿の夫婦が結婚式の記念と思われる写真を撮っていました。二人ともにこやかで、とても幸せそうでした。取材前に幸せのおすそ分けがあり、緊張も少し和らいだ中、本社で話を聞いてきました。お客様を幸せにする仕事はやりがいがある、働いていると自分も幸せを感じる、とお話を聞き私も人の役に立つ職に就きたいと強く感じました。



東北大学 3年 三浦 規義

結婚式を扱う会社ということで、結婚式に行ったことのない私にとっては、あまりよく分からない業界でした。そのため緊張しながらFIVESTAR WEDDINGを訪れましたが、社員全員が柔らかな笑顔で迎えてくださり、自分の気持ちがほぐれていくのを感じました。取材も堅苦しい感じは全くなく、和やかに時間が過ぎていきました。取材が終わった後、またいつか訪れたい、と思いました。



東北学院大学 4年 平田 真莉子

「式場の設備ももちろんだけれど、一番力を入れているのはお客様との打ち合わせ」。藤井支配人のその言葉に、主役の二人に寄り添った手厚い方針があるように感じました。手間を惜しんでも、人を喜ばせたり、感動を届けることが好きな人にとって、充実できる業界なのではないかと思いました。取材中は、私たちの緊張を解く雰囲気を作って下さり、プロとして抜かりないところに憧れを持ったインタビューでもありました。

卸売業、小売業

株式会社 ヒロセ

〒984-0015 仙台市若林区卸町1-3-7 TEL:022-235-2231 FAX:022-232-1696
URL: www.hirose-jp.com



代表者 菅井 伸一
代表取締役社長

資本金 2,000万円

創立・設立 1945年



情報力との闘い



菅井 伸一
代表取締役社長

お客様への信頼と実績

創業が1945年と、終戦の年からの会社です。ものがない時代だったからこそ、その時の廃タイヤを溶かして、新しくタイヤを作るというタイヤ再生事業から始まりました。さまざまなゴム製品の再形成をするなかで、長靴をつくることにより、靴の取り扱いを開始しました。

靴専門店への卸売業だけでなく、新たな市場への販売スタンスも取り入れています。国内外のシューズブランドの販売も、約30年の実績を重ねてきた株式会社ヒロセでは、およそ50ものブラン

ドを取り扱っています。紳士靴、婦人靴、医療用靴、子ども靴など、多彩な商品群を取り揃えており、仙台市内に自社倉庫を複数保有しています。在庫管理を行っています。急な注文にも即納出荷の対応ができる体制が整えられているのが、お客様への信頼につながっています。

採用情報

※直近の採用人数

2015年	1名
2016年	2名
2017年	1名

事業内容

情報力の闘い

靴の卸売業を主としているヒロセでは、現在3つの事業を手掛けています。1つ目はスポーツ用品店やアパレルなどの専門店との取引。2つ目は、ホームセンターやスーパーマーケットなど、靴以外の商品も販売している量販店との取引。3つ目は、自社で小売り事業を立ち上げています。これは現在、東日本内に11店舗あるそうです。

札幌・盛岡・東京の各営業所へ、社員の出張回数も多く、南は関西までの販売エリアを持っているヒロセでは、その地域での動向を現場で捉えて、お客様からの情報やメーカーからの情報とあわせて商品の販売に取り組んでいます。そのため毎日新鮮な体験ができるのが醍醐味です。物流業で一番大切なのが情報の流れであり、その土地に足を運んでいる社員は、半年先のトレンドをおさえてきます。そのトレンドに対して、どれだけビジネスプランを構築していけるかは、その情報力がものをいうそうです。

求める人物像

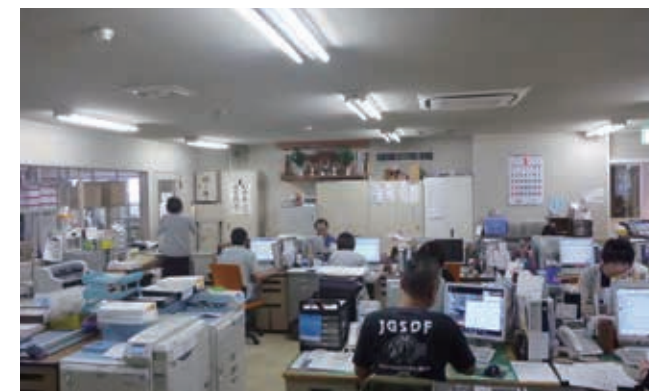
遊んでいる人、視座が違う人

自分なりの「視座」を持っている人を求めています。例えば人であらわすと、自分と身長が違う人が観る世界は角度が異なりますよね。それと同じように、ヒロセにはそれぞれ異なる視座を持っている人がいます。また、「遊んでいる人」も求めています。具体的には好きなことを徹底的に、楽しんでいる人のことです。私の場合だとアウトドア、特に旅をすることが好きなので、結構野宿をしたこともあるんですよ。その際の名残りが、今ではたまに寝る寝袋の方がベットよりも居心地がよく感じる時もあります。好きなことを極める、これなら誰にも負けないと思えるものを持っている人を歓迎します。よく雰囲気似ている人が多いと言われるのですが、個人個人でみたらかなり個性派ぞろいです。物事の考え方、捉え方が異なる数が多ければ多いほど楽しい環境になっていくので、これからもそのような人が増えればいいなと思います。学生時代は遊んでおく、そしてどんな仕事にも少しでも関心を持って視座を高めてください。

将来ビジョン

半年後の未来が分かる

皆さん、「未来が分かる」と聞くとどんなイメージを持ちますか。そんなのありえないと思いますか。私たちは半年後の流行を作る仕事をしています。情報の流通。商品がいくらの価格で流通されるのか、何が流行するのか業界全体の半分は大体決まっています。もう半分はと言いますと、その半分にオリジナリティーを織り込むのです。私たちは3つのテーマ（ボリューム、ブランド、クラフト）を設定し、ビジョンとして、「これからの市場を作りたい」と考えています。具体的には「商品の取り扱い」、「商品開発」です。商品だけに限ったことなく、物には限りがあります。ダムをイメージしてみてください。限られた水を限られた場所へ届けようとする時、一気に放出してしまっただけでは決壊してしまいますよね。ですから、情報の流れを調整することで、必要としている人に必要な分だけの情報が届けられるような市場を目指しているのです。



個性派ぞろいの社内

ポイント

- 自分なりの「視座」を持っている人
- 好きなことを徹底的に、楽しんでいる人

WISE 記者の
企業体験記

箱の中の靴

普段の生活ではあまり見ることがない、靴修理の現場を見学させていただきました。外からでも内部が見える作りの部屋で、透明感あふれる空間でした。中には2人の方が作業を行っていて、靴底の修理の一部を見せていただきました。一言で靴と言っても、部位がいくつかに分かれていて、修理の一つ一つが手作業で細かいものでした。作業中の社員の集中力はすさまじく、まさに職人と呼べる光景でした。ちなみに靴づくりに資格はないものの、一人前になるまでは時間がかかるとのこと。修理に半年、つくるのは2年ほどかかるそうです。社屋の一階に展示されている靴の輝きは、この手間暇がかかっているから、こんなにも一足一足が輝いているのだらうなと感じました。その後、事務所、靴の倉庫を菅井社長に案内していただきました。特に倉庫では、数えきれないほどのダンボールが山になって置かれてあり、普通に靴屋さんでは見かけない大きさのものばかりでした。フロアは5階まであり、婦人用から輸入された外国のものまであります。移動用エレベーターがあるとはいえ、見学で回った階ごとに社員がいて、管理にあたっては作業を分担しないといけないほど大変だということに驚かされました。棚に置くにしても手作業なので、多くの人の力を経て保管されているのでしょう。商品である以上、何が流行になるかを予測し、仕入れの数を調整するなど、当たり前ですがこれほどの量になると、失敗は許されないビジネスであることを目の当たりにした気分になりました。



ここが 知りたい 社風について

地方に営業所があるため出張が多いとのことで、社風が気になり聞いてみました。業界が流行を重んじるため、その地域の風土などが違うと話が出来ないそうです。出張の場合、通常はショールームなどに行かれるみたいですが、ヒロセは違います。その場所のオリジナル、例えば観光地に行ってもらいたいと菅井社長。日当は出すから、仕事とは別に1泊観光してほしい、有名なものを食べてその土地の文化を知ってほしいという思いからだそうです。これも、やはり社員ごとに視座の違いが出るそうで、社員一人ひとりをよく見ていると感じると同時に、視座を広げるためのチャンスを与えてくれる菅井社長の懐の広さが分かりました。



地方出張で視座を広げる

今から約半年後に流行っている色は

WISEが発刊される2018年2月に流行っている色が気になり聞いてみました。ビビッドカラー、具体的にはイエロー、オレンジ、ブルーといったナチュラル、エレガント系が予測されているそうです。素材はポリエステル系とのこと。靴もファッション全体に関わるとのことです、洋服との兼ね合いも重要になるそうです。靴は勿論、服飾まで見ていることに驚かされました。教えていただいたからには、流行に乗り遅れないようにしたいです。



流行を作り出す仕事

先輩の 声

働きやすい職場環境



加茂 喜章さん

販売部 ブランドシューズバイヤー
(東北学院大学 法学部法律学科卒)

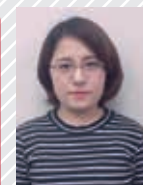
大学時代はアパレル会社のアルバイトをしていました。学校での勉強ももちろんでしたが、自分で学費を払っていたのと、服が欲しいこともあり、アルバイトに熱を注いでました。就職活動を始めた時も、服飾系しか頭の中にはありませんでした。また、地元である仙台で働きたいという思いも片隅にありました。たまたまヒロセの求人を見つけた時に、靴の卸売に興味を持ってお話を聞きに行き、ここなら自分の居場所になりそうだなと思い入社しました。

ヒロセの魅力は「自由」なところですよ。社員はそれぞれ自分の働きやすい服装をしていて、一人ひとりの個性を大事にしてくれるのがいいところだと思います。もちろん仕事上でのTPOはわきまえますが、個性を大事にしてくれている分、いろいろな視座があって、「そういう見方があるんだな」と気づかされることも多々あります。それは仕事にもつながっていて、情報の共有と、お客様の求めるご提案への発信につながっていきます。仕事のやりがいを感じる時は、「加茂さんが提案してくれた商品構成にしてよかった。おかげで新しい顧客と売り上げも作ることができた」とおっしゃっていただけたときです。対会社としてだけでなく、取引先の方や経営者と、個人的にも絆ができると、より仕事の励みにもなります。

加茂さんの1日

9:00	朝礼後、デスクワーク
11:00	部門営業ミーティング
12:00	昼食
13:00	デスクワーク
15:00	取引先メーカーA担当者来社・打ち合わせ
17:00	取引先メーカーB担当者来社・打ち合わせ
19:00	デスクワーク 出張準備
20:00	退社
22:00	夕食

記者紹介



宮城学院女子大学3年 佐藤 佳奈

創業から現在に至るまでのインタビューから始まりました。お話を伺わないと見えてこない点が多くあり、苦勞の跡が見受けられました。ヒロセでは実績の積み重なりや相手方への取引をスムーズに行える点、商品を提供するために、社員がリサーチをきちんとしていることがお客様からの信頼を得ている大きな要因だと感じられました。社員一人ひとりのパーソナルを大切にしていることも、働きやすい環境だと思いました。



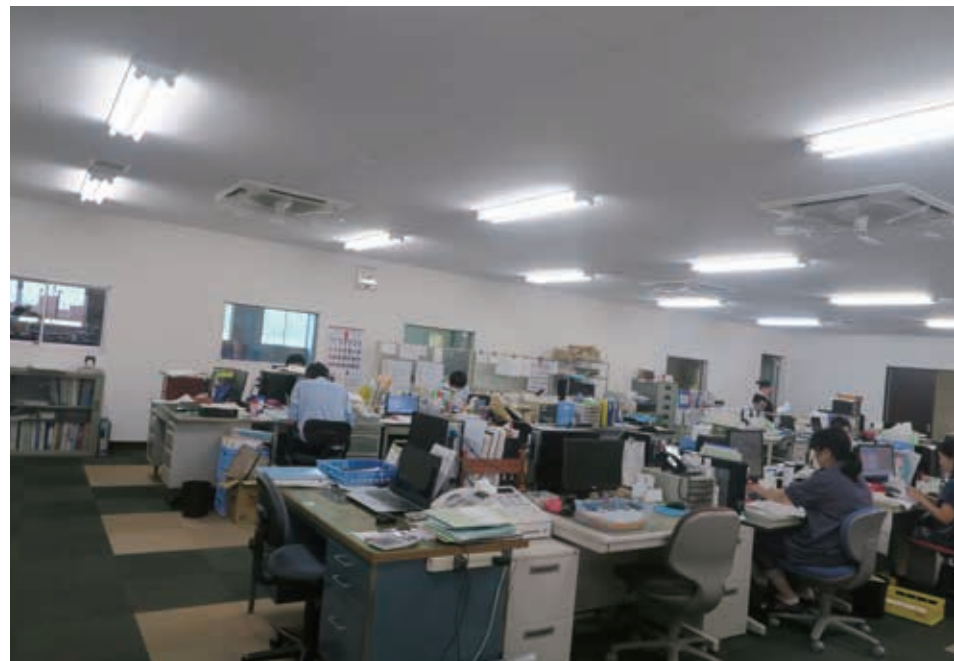
尚絅学院大学4年 大村 章仁

菅井社長は好んで「視座」を口にされていました。私はあまり聞き慣れない言葉だったので漢字の意味も分かりませんでした。しかし、菅井社長の例え話が分かりやすく、なるほどと思うようになりました。一人ひとりに個性があるように違った角度から見ると違った世界が見えてくるこの考え方は、辛い時期を乗り越えて今日まで至るヒロセさんならではだないと思います。

卸売業、小売業

マルヒ食品 株式会社

〒989-4102 大崎市鹿島台本間塚宇西沢172-1 TEL:0229-57-1330 FAX:0229-57-1333
URL: azi-sai.com



代表者 阿部 幸也
代表取締役

資本金 4,200万円

創立・設立 1960年



食べる喜びを伝えたい。地元を「食」で支える食品会社



阿部 幸也
代表取締役

互いに支え合える企業を目指して

マルヒ食品 株式会社のコンセプトは「経営者・利用者・職員3方よし!!」です。現在、介護施設では人手不足が深刻化しています。職員は介護に加えて、朝・昼・晩、3食の調理をしなければならず、休憩をとる暇もありません。そこで、温めるだけでおいしく出来上がる食事を配送し、少しでも職員の負担を減らすためのサポートを行っています。それによって利用者は、毎日別の献立を安定した味で受け取ることができます。加えて職員の手間が省けることで、より質の高い

サービスを提供することが可能となります。施設の経営者も、厨房設備や調理師を雇う費用が減り、運営に余裕が生まれる仕組みです。また、地域密着度が非常に高い会社です。地元の農家と連携し、互いに利益を生み出す工夫を行っています。支援学校の生徒に食材の加工を手伝ってもらい、職業体験の場を与える活動も行っています。このような地域との連携が、長く信頼される会社へとつながっているのです。

採用情報

※直近の採用人数

2016年	3名
-------	----

事業内容

目で見て、舌で感じて、楽しい食事を

主な事業は、学校給食と介護施設・在宅向け配送サービス、自社ブランド品の開発です。学校給食は通常、メーカーで生産したものを栄養士が選びます。しかし、マルヒ食品には自社工場があるため、味やバランスといった栄養士の細かいニーズに対応できます。「子どもたちにとって、食べることは味を楽しむ、食文化を学ぶ、性格や感情を作るために大切な習慣です。そのお手伝いをしたいのです」と社長は強い意気込みを語ります。介護施設や在宅向けの配送では、高齢者が何歳になっても食べる喜びを味わえる献立に仕上がっています。簡単に、3食飽きずに食べることができる工夫も大切です。飲み込みが難しい人には、ムース食も提供しています。たとえムース食でも、一つひとつ味の付いた、形のあるもの食べて欲しいそうです。作った食品はすべて、作った時においしいのではなく、食べる時においしいと言ってもらえるように日々努力しているのです。

求める人物像

求めるのは、日々、成長し続ける心

私が求めているのは、好奇心があり、自ら進んで行動ができる人です。どんな仕事でも、毎日同じような仕事をこなす必要があります。しかし、その同じような仕事をするのが、同じではないこと。これはとても難しいことです。昨日より今日、今日より明日と新しい発見をしながら、責任を持って取り組まなければなりません。例えば、お弁当を詰めるにしても、楽しみながら、自分なりに工夫して仕事ができる人には可能性を感じます。「仕事」と「作業」は決定的に違います。「作業」は指示されたことをそのまま行うことです。そこには何の発見や成長も見られません。「仕事」は、今行っていることが何のためにあるのか、次はどうしたらより良くなるのか、考えながら行うことです。そのように向上心をもって「仕事」をしてほしいです。

企業は、時代や状況に合わせて変化していきます。会社が変われば業務内容も変わります。仕事が変われば、人も変わらなければなりません。常に先を見て、会社と一緒に成長できる人であってほしいと思います。

将来ビジョン

お客様のニーズを形に変える

少子高齢化が進む中、介護施設の利用者や、在宅で一人暮らしをする高齢者が増加していくため、介護食や在宅食に力を入れていきたいです。ここで重要なのは、配送方法と求めやすい価格設定。事業を拡大していくためにも、工場や従業員を増やし、サービスの方法を多様化していく必要があると思っています。また、高齢者と直接関わりを持っている施設の職員や社会福祉協議会、ケアマネジャーとの意見交換や協力によって、より質の高いサービスを行いたいと考えています。そして、常に現場の声に耳を傾け、お客様に寄り添った事業を展開していきたいです。

学校給食は今後も継続していきますが、自社ブランド品の開発にも積極的に取り組んでいきます。重要なのは、地元の食材を取り入れつつ、その食文化を感じてもらうこと。また、一人暮らしの若者や、忙しい社会人などの多様なニーズに応え、多くの人に喜ばれる商品を作り続けたいですね。



新しい発見をしながら仕事に取り組む

ポイント

- 好奇心
- 向上心
- 素直さ
- 責任感
- 成長できる人

WISE 記者の
企業体験記

お客様にお弁当を届けます

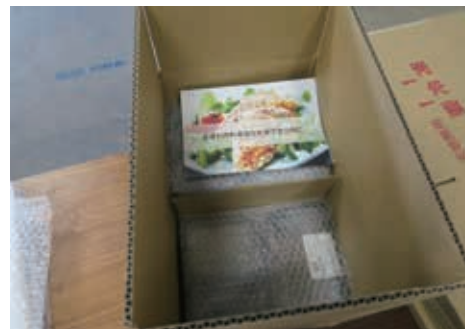
冷凍弁当のピッキングを行いました。作業の手順としては、段ボールを組み立てて、弁当を冷凍庫から運び、段ボールに解凍の仕方の説明書を一緒に詰めて封をし、配送先の住所が依頼書と合っているかの確認や、配達する人がどこに運ぶものか分かりやすいようシールを貼ります。

今回は2種類の弁当のピッキングを行いました。それぞれ詰め方に違いがみられました。スポーツジム用の弁当は、配送する際に容器が破損しやすいため、弁当一つひとつを気泡緩衝材で包んでいます。マルヒ食品では、弁当の容器を冷凍庫に入れやすいように、薄いものを使用しているためです。一方、介護食の弁当は気泡緩衝材などで包まずに段ボールに詰めます。高齢者の方が開けやすいようにシールのみを貼り、電子レンジで温めて剥がしやすくしているなど、誰かの力を借りず一人でも食事がとれるように、手間がかからないよう工夫されていました。

弁当によって詰め方も変えている事に驚きました。お客様が食事をする際の事を考えると、弁当の製造だけでなく詰め方にも配慮が必要であり、食事をする人への思いやりがさまざまな工夫に繋がっているのだと思います。

一連の作業はクリーンルームのなかで行いました。作業中、段ボールにゴミが入らないようにするためや温度変化で商品が劣化しないように、温度管理を行いながら衛生さを保っています。

機械ではなく、手作業で行うことで、お客様に安全と楽しい食事を届けられているのだと、体験を通して改めて実感しました。



ここが 知りたい

商品にはストーリーがあります

今回は、マルヒ食品で製造されている商品について知りたいと思い「鳴子ちゃんこ鍋」について詳しくお話を聞かせていただきました。「自分たちのつくった野菜を供給・認知してもらおう場所がない」という地元の農家の方の一言から生まれた商品が、宮城の地元の味を楽しめる鍋でした。2016年に発売され、地元の味を楽しめるお土産として、百貨店でお歳暮として販売されたり、大崎市のふるさと納税返礼品として取り上げられています。商品化する上では、スープを凍らせた状態で入れ、その上に具材を乗せ、食材が乾燥したり、バラバラにならないようにゼラチンに乗せる工夫がされていました。鍋というと、いろいろな食材を使用した料理のため、大勢で食べるのが一般的かと思いますが、一人で生活している人でも楽しんで、毎日の食事として取り入れ、食べられる

のがこの鍋の特徴です。

商品にはそれぞれにストーリーがあります。今回、試食させていただいた「鳴子ちゃんこ鍋」は、東日本大震災で鳴子に避難していた方々に、横綱白鵬が所属する宮城野部屋の方たちが、炊き出しとしてちゃんこ鍋を振舞ってくださった想いを鍋にしているとの事でした。大崎地方の食材をたくさん使用し、大崎では発酵食品を大事にしていることから麹を使用したり、鳴子温泉のお湯をイメージしてスープを白色にしているそうです。こうした商品にまつわるストーリーを、お客様に伝えることも大切な一つの仕事だそうです。



鳴子ちゃんこ鍋

先輩の 声

食品と福祉の仕事に携われる仕事です



伊藤 有輝さん
企画開発課

現在担当している業務は、お弁当や食材の出荷業務、細菌検査です。マルヒ食品を知ったきっかけは、東日本大震災の時に余剰在庫を販売していて、その商品を購入した時ですね。もともと地元が鹿島台で、会社が近いことや、食品と福祉に関係する仕事に興味があったので、ここしかないと思いました。以前は職種の違う仕事に就いていましたが、実際に興味がある仕事してみると、仕事に対する姿勢やモチベーションが全然違うなと実感しています。仕事では事務作業も多くあって、学生時代からExcelが苦手な勉強をしないでいたのですが、今では仕事に欠かせないので、勉強して資格として持っておいたら良かったなと後悔してます。就活をする上では会社の求める人材と、学生の入りたい会社のマッチングが重要だと思います。会社に対して期待やイメージを持っているかと思いますが、実際にはどんな作業をしているのか、自分の持つ資格が生かせるのかをすることで、ミスマッチをなくせると思います。興味のある会社のインターンに参加して、社員に積極的に質問をし、自分により合っているなと思える会社に入社して欲しいです。

伊藤さんの1日

8:30	出社
	朝礼、掃除（分担された場所）
9:00	出荷業務
10:30	お弁当の出荷業務（ピッキング）
12:00	昼食
13:00	お弁当の出荷業務（ピッキング）
16:00	翌日のお弁当の出荷データをパソコンで印刷、箱に入れる送り状も印刷
16:00	細菌検査（出荷しているお弁当の検査）
17:00	退社

伊藤さんのオフショット

お酒が好きです。そのなかでもカクテルが好きで自分で作ったりもしてます。特に好きなのは、カルーアミルクとモヒートですね。友人にお酒に詳しい人がいて、学生の時にカクテルの作り方を教えてもらいました。グラスに氷を入れて、フルーツリキュールとジュースを混ぜて完成です。最近はレシピを参考に作ったりしてます。社会人になってからは仕事もあるので、お店よりも家で自分が作ったカクテルを飲むことが多いですね。仕事で疲れた後のお酒はやっぱり格別です。



自家製カクテル

記者紹介



東北大学 3年 安達 琴乃

私は、食べることが大好きです。毎日、今日は何を食べようかと考えながら生活しています。それは、年を重ねても変わらないと思います。高齢者でも、ひとり暮らしでも、「食べることを楽しんでほしい」というマルヒ食品の想いは、多くの人を幸せにします。また、社員が商品に自信をもって説明している様子は、会社への愛情や誇りが表れていて、生き生きと仕事ができる雰囲気を感じました。



宮城学院女子大学 3年 大泉 葵

マルヒ食品さんは、地元農家や福祉と連携した事業を行っている会社で、どのような経緯で事業を行っているか興味を持ちました。「食事をただ作るのではなく、お客様が食べる時に美味しい物を作りたい」取材の中で社員の方が仰っていた言葉です。取材や体験を通じて、商品を社員が試食して意見を言い合ったり、弁当を食べる前段階への配慮があったりと、消費者へ美味しい食事をしてもらいたいという社員の方の想いを知ることができました。

第2回 WISE セミナー「地域を支える」を仕事にする

就職して「地域（宮城・東北）を支えたい」。その夢を実現できる仕事はたくさんあります。日常の業務を通して地域を支え、仙台「四方よし」企業大賞を受賞したお茶の井ヶ田株式会社の井ヶ田健一代表取締役と、株式会社ナナイロの中嶋竜大代表取締役社長、仙台市経済局地域産業支援課商業振興係澤幡正志さんをゲストに迎え、地域を支える仕事について語っていただきました。



自社の取り組みについて

文化を守ることが地域貢献に（井ヶ田社長）

日本茶を飲むという習慣は日本の文化です。その文化を広めていきたいと、20年前にお茶を飲むだけでなく「食べる」というコンセプトで、お菓子や飲食ができる「喜久水庵」を、3年前には日本茶に欠かせない和食や、ひいては農業を広めるために「秋保ヴィレッジ」をオープンしました。秋保ヴィ



お茶の井ヶ田株式会社
代表取締役 井ヶ田健一

レッジでは日常の仕事を通して、従業員が地域の方々や農業関係者の方との関わりが生まれ、従業員の視野が広がり社員の成長にもつながっていると実感しています。そして、それが今回の仙台「四方よし」企業大賞受賞につながったのだと思っています。

伝統工芸を魅力的な仕事に（中嶋社長）

当社はいわゆる IT 企業で、ネットショップ「STARRY」を立ち上げています。STARRY では、宮城県内の伝統こけし工人・女性クリエイター等が協力した伝統系創作こけしなどの「手しごとグッズ」を販売しています。現在、伝統工芸の世界では後継者不足に悩まされていますが、ビジネスとして成立することを証明することで、より魅力的な職業と認知されるのではないかと考えています。地元の工芸品やクラフトには素晴らしい魅力がありますが、なぜか仙台のショップでの販

売が少ないと感じていました。その新商品を当社がプロデュースし、IT を活用して販売するという一つのビジネスモデルを構築しました。

仙台で人の役に立てる仕事がしたい（澤幡さん）

新卒で民間企業に就職したのですが、震災後に転勤で仙台に来て、震災復興を中心としたまちの勢いや生活者としてのまちのよさを感じました。また、社会人として仕事をしてきた中で、「より身近な人の役に立ちたい」という思いが強くなったこともあり、今年仙台市役所に転職しました。現在は、市内に 60 ほどある商店街の活動サポートを行っています。まだ市役所に入って日が浅いということもあり、商店の方々が自分の商品の知識を大切にするように、まずは行政として皆さまと接するうえでの基礎となる、ルールをしっかりと理解し、わかりやすく伝えていくことで、商店街の皆さまとの



仙台「四方よし」企業大賞とは

「四方よし」とは、古くからの商業の心得とされる「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」に、「働き手よし」を加えた考え方です。仙台市では、このように、ワーク・ライフ・バランスの推進など従業員の働きやすい職場環境づくりや、従業員を含めた企業・消費者・地域社会への貢献に積極的に取り組んでいる企業を後押しするため、仙台「四方よし」企業大賞として表彰しています。下記の企業が受賞しています。

（平成 28 年度）

大賞 お茶の井ヶ田株式会社

優秀賞 株式会社ナナイロ

優秀賞 スモリ工業株式会社

優秀賞 ハリウ コミュニケーションズ株式会社

（平成 29 年度）

大賞 株式会社サイコー

優秀賞 株式会社清月記

優秀賞 株式会社グッドツリー

信頼関係を築き上げていきたいと思っています。

地域を支える仕事とは

地域の産物の商品開発に取り組む（井ヶ田社長）

私たちは、お客様に喜ばれる商品をお届けすることが「地域を支える仕事」だと考えています。例えば、お茶の井ヶ田は、全国的にも有名になった仙台の初売りのシンボルともいえる、茶箱の配付を続けています。準備するのも大変ですが、地域のお客様への感謝

を伝えるため、できる限り続けていきたいと考えています。今後は、地域の産物を使った商品開発などにも積極的に取り組みながら、日本の良き食文化と暮らしを、継承していきます。

IT を活用し「仙台発」をプロデュース（中嶋社長）

当社にとって「地域を支える仕事」とは、IT 活用による地域の特色ある「手しごと」の情報発信や販売の支援、そしてその結果としての文化や伝統をつないでいくことへのサポートと考えています。そういった伝統工芸の新商品を販売する取り組みが、地域貢献として認めてもらったことと、社内の働きやすい環境づくりにも熱心に取り組んでいることから仙台「四方よし」企業に選ばれたと考えています。これからも私たちは IT 企業ではありますが、「仙台発」でさまざまな商品をプロデュースし、ひいては東北、そして日本発と広げていけたらと思っています。



株式会社ナナイロ
代表取締役社長 中嶋竜大

活動しやすい環境を整えていく（澤幡さん）

商店街の皆さまの中には、非常に魅力的な活動を行っている方々が多数おられます。このような方々がこれまでよりも活動しやすい環境を整えることや、輝いている人たちにスポットライトを当てて応援をすることを通じて、地域がより魅力的になるように取り組んでいます。まだまだ十分ではないですが、自分の仕事が地域を支えることにつながっていると実感し、充実感を持って仕事をしています。



仙台市経済局地域産業支援課
澤幡正志

参加した学生の感想



- 世のため人のためになるような仕事は直接収入につながらないと思っていましたが、後々自分のためになるんですね。（東北福祉大学 菅野綾香）
- 三人に共通していたのは「伝統文化」や「クリエイター」、「商店街の人々」があつての企業や自分だと意識されていたことだと思います。「地域を支える」ことは行政も民間も市民も単独では地域創生はなしえなく、協働する意識がカギかと思います。（東北大学 山下航希）
- 地域で働くとなると人の縁が大事だと感じた。人の縁を大事にし、持続可能な取り組みを続けることが大切だと思いました。（東北大学 荒井大貴）

宿泊業、飲食サービス業

松月産業 株式会社

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-6-8 TEL:022-225-8001
URL: <https://www.bh-green.co.jp/>



代表者 今中 美恵
代表取締役

資本金 4,000万円

創立・設立 1967年

受賞歴 国土交通省より建設事業関係
功労者等国土交通大臣表彰を
受賞。



高い固定客率に繋がる親切丁寧なホテルサービスを提供



田所 寛章
常務取締役

エリアドミナント戦略による、細やかなホテルサービスの提供

仙台市を中心に、「ホテルプレミアムグリーンプラス」など13店舗のホテルを展開している松月産業株式会社。特定地域に集中して出店するエリアドミナント戦略を駆使することで、効率的な経営を実現しています。松月産業では、近隣にある系列のホテル同士での連絡、情報共有を行うことで、お客様のニーズに沿ったプランを設定したり、客室が満員だった場合でも迅速に系列ホテル全体で対応するなど、13店舗を有する利点をお客様の満足につなげる体制が整えられていま

す。加えて競争が激化する近年も、リーズナブルな価格は維持しつつ、細やかなサービスを行い固定客化を実現するなど、お客様に選ばれるホテルづくりを実現しています。これらは、便利で丁寧なホテルサービスの実績を有する松月産業だからこそできるサービスです。

採用情報

※直近の採用人数

2015年	3～5名
2016年	11名
2017年	17名

事業内容

高い固定客率を実現するホテルサービス

競争が激しいホテル業界にありながら、松月産業は極めて高い固定客率を実現しています。仙台市中心部に集中出店することで、優れたサービスを提供する体制を確立するとともに、高い利便性を実現しています。加えて長期滞在者向けの宿泊プランである「マンスリープラン」、割引率の高い会員制ポイントサービスの提供などを通じて、リーズナブルなホテルサービスを徹底して追求しています。24時間無料で利用できるランドリー室や無料Wi-Fiなど、お客様が必要と考えるものを欠かすことなく提供し、いつも変わらぬサービスを実現することで、お客様に安定して支持されるホテルとなっています。こうした仕組みをベースに、スポーツ団体のお客様には朝食を通常よりも多めに用意するといった、細やかな心配りを行っていることも、魅力を高める要因となっています。

将来ビジョン

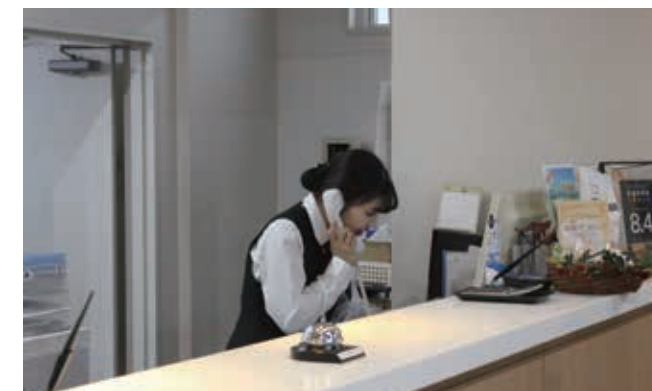
ホテルの可能性を考えた保育・介護への挑戦

事業の可能性としては、例えば自動化や利用目的を特化したホテルなど、さまざまなことが考えられます。その中のひとつとして、介護が必要な方やお子様を預かるといったサービスを提供していきたいと考えています。旅先のホテルでそういった人たちを預かってもらえることができれば、保育や介護が理由で旅行に行けないお客様の負担を減らせると思うのです。松月産業は「お客様に信頼され、長く喜んでいただけるサービスを提供し続ける」という企業理念を掲げていて、お客様にもっと気軽に旅行していただきたいと考えています。実現するとなると、ホテルの中に施設を設置するのか、またホテルの外に隣接させるのかなど問題は山積みです。ですが、お客様がもっと気軽に旅行できるように、できることには何でもチャレンジしていきたいですね。

求める人物像

全てはお客様に長く愛されるために

求められる人材は、視野が広く物事を色々な角度から見る事ができる人です。多様なお客様に利用していただき、そして長く愛されていくためには、お客様のニーズに合うサービスを柔軟に実現していかなければなりません。お客様のために何をすべきか、それを実現するにはどうすればよいかなど、広くかつ丁寧にものを見て、考える力がサービスの現場では日々求められます。加えて松月産業ではチームワークを大切にしており、特に「素直さ」が重要です。全員が指示を的確に受け止めて行動に移すことで、13店舗ものホテルがスムーズに運営できているのです。長くお客様に愛されるサービスの実現に取り組む松月産業だからこそ、これらの能力を有する人材が求められています。



スタッフひとりひとりがお客様のニーズを受け止める

ポイント

- 視野の広さと、物事を色々な角度から見る能力

WISE 記者の
企業体験記

マーケティング体験と時間の大切さ

私たちは、松月産業株式会社で「マーケティング担当としての戦略会議」を体験しました。マーケティングとは、「周りの需要や状況を調べて活用し、今後どういう行動をしていくかを考える」ということで、企業の方向性を決めるための基本的な戦略であり、これを行わなければその後の決断、行動ができなくなるということでした。体験にあたって、私たちは、グリーンチェーンのひとつのホテルのマーケティング担当という設定で、はじめに「担当するホテルのことを5分で調べて、60秒から90秒の間で発表する」という課題を与えられました。一見、難しくないように思えた課題でした。しかし、時間制限があること、そして、ゴールが明確でないことなどから、実際に取り組むと相当難しい課題であることがわかりました。田所常務は、「ビジネスにおいて一番大事な要素は時間」と話してくださり、私たちは時間と戦いながら、ホテルが顧客を獲得するための模擬マーケティングを行い、戦略を考えるということを体験しました。このようなマーケティングの調査・分析をもとに、戦略案などを会議開始の時間までに必ず考える。これを企業では毎日行っているということで、その事実を知った時は、私たちは驚きを隠せませんでした。私たちは、この体験を通して、時間の大切さを痛感しました。これは基本的なことですが、分かっている、無駄な時間を過ごしてしまうことがあると思います。私たちが普段の行動を振り返ってみて、自分自身の行動を見つめ直し、改善するきっかけとなりました。



ここが知りたい 震災時でも営業を続けられた秘訣

2011年3月、東日本大震災が発生し、周りのホテルが営業休止に追い込まれている中、13のホテルが一日も欠かさず営業した松月産業。なぜ営業できたのかを聞いたところ、田所常務は「みんな死ぬ気で頑張った」とのこと。気持ちだけでできることではないと思い、当時の様子を聞いてみました。13のホテルが近隣に集まっていたことにより、社員やお客様をホテル間で融通し合えたこと、リスクに備えてガス源を二つ持っていたので、都市ガスは止まってもプロパンガスが利用できたこと、そしてお客様に一日毎にお湯がでる部屋とそうでない部屋を交換していただくという提案も行ったそうです。さらには地域に根ざした経営を行っていたこともあり、リネンの手配や設備の早期復旧ができたそうです。もちろん熱い気持ちも営業を可能にしたひとつであるのは間違いありませんが、こうした裏付けがあって現実できたのだと思います。



震災時、全店舗が一日も欠かさず営業した

ホテル業における固定客の重要性

ホテルを利用する客層は実に幅広く、そのニーズも多様です。その中で松月産業では、固定客が占める割合が非常に高くなっているそうです。それはどのようにして実現されたのでしょうか。松月産業では地元のお母さま方が手がけるおいしい朝食の提供をはじめ、良質な睡眠を求めるお客様には良質の寝具を提供、さらに割引率の高いポイントカード制の導入と、「適切なサービス」を低価格で徹底して提供しているのです。また、法人のお客様に対しては、グループ内のホテルに分散して宿泊する場合でも、一括で予約受付や支払いの処理をしているそうです。価格を上げて特別なサービスを提供するのではなく、「適切なサービス」を安価に提供するという方針から決してぶれることなく、いつも変わらずに信頼できるサービスを実現しています。これこそが多くの固定客を集める最大の理由のだと感じました。



ホテルプレミアムグリーンプラズではベッパークンがお出迎え

先輩の声

まいにち挑戦！



小上 亜紀さん

ホテルグリーンマーク デイフロント
(宮城学院女子大学 学芸学部卒)

市内に13店舗あるホテルグリーンチェーンのうち、仙台駅から徒歩5分に立地するホテルグリーンマークで、デイフロントとして働いています。ホテルグリーンチェーンの中でも部屋数が多く、駐車場もあるのでビジネスマンから家族旅行の方まで、さまざまな目的のお客様の接客をしています。フロントでのチェックイン作業が主な仕事ですが、企業に対する請求書作成などの事務作業も行います。

学生時代は飲食店でアルバイトをしていて、接客関係の仕事に就きたいと思っていました。ホテルでの接客と飲食店での接客が大きく違うのではないかと入社前は不安が多くありましたが、お客様からの「ありがとう」の言葉が仕事のやりがいに繋がることは同じでした。1日の始まりの言葉の「いってらっしゃいませ」、終わりの言葉の「おかえりなさいませ」は心をこめて挨拶しています。

また、正確さが求められる事務作業は、入社当時は苦手でしたが、現在は出来ないこともやってみようという精神で向き合っています。分からないままではなく、多くの仕事ができるようになると面白いです。上司や先輩の手助けもあり、日々成長しながら働ける場所です。学生時代は社会に出るということに漠然とした恐怖と不安がありましたが、今では毎日が楽しく、もっと上を目指そうと頑張っています。

小上さんの1日

6:30	起床
8:30	出社
9:00	朝の引継ぎ
9:30	チェックアウト業務、当日の予約の準備
11:30	昼休憩
12:30	ロビーやフロント周りの掃除
13:00	客室点検
15:00	チェックイン業務
17:00	夜勤への引継ぎ
18:00	退社
22:00	就寝

小上さんのオフショット

食べることが大好きです。仕事場が仙台駅前なので、新しく開店したお店の情報がとても入りやすいですし、仕事場の周辺の飲食店はお客様からよく聞かれるので、必ずチェックしています。

和食から洋食、ジャンクなものでも何でも来いです。仙台のお土産も新しいものや美味しいものは自分用に買って食べています。会社のブログで紹介するのも楽しみのひとつです。美味しいお店やお土産を発見し、お客様にお勧めして「ありがとう、美味しかったよ」と言われると、二度美味しくて幸せな気持ちになります。



麺類も大好きです

記者紹介



東北学院大学 2年 松永 祐太郎

震災時の話は個人的に興味があったので、話を聞き、気持ちだけではどうにもならないこともあるということに改めて気づかされました。松月産業でガス源を二つ確保していたように、何が起きても対応することが出来るような事前準備の大切さを改めて感じました。これは震災に限った話ではなく、日常生活でも当てはまることであり、日々心がけようと思います。



東北学院大学 2年 千葉 大誠

今回は初めての取材ということで、相当緊張しました。この取材を通して学んだことは、視野を広く持つことの重要性です。視野を広く持つことは、急速に変化し続ける社会で生き抜くために必要なことです。簡単にはできないことだと思いますが、実際に経営している田所常務から貴重なお話を直接聞いたからこそ、心に響くものがありました。



東北学院大学 2年 鈴木 広汰

今回取材させていただいて、お客様を第一に考える姿勢や、長くお客様に愛されていたような工夫をしていることがわかりました。フロントの方の対応や、なにより田所常務の人柄に惹かれました。このような経験は普段でできるようなことではないので、自分にとってとても貴重な経験になりました。

複合サービス事業

株式会社 仙台リサイクルセンター

〒981-3221 仙台市泉区根白石字福沢後1番地の1 SRCビルディング1F TEL:022-278-3196 FAX:022-348-4733
URL: <http://www.kk-src.co.jp/>



代表者 沼田 隆
代表取締役社長

資本金 9,800万円

創立・設立 1980年

受賞歴 2010年「日経ニューオフィス賞」東北ニューオフィス推進賞<東北経済産業局長賞>
2006年「日経ニューオフィス賞」東北ブロック奨励賞受賞



人も会社も地球も健康にする



沼田 隆
代表取締役社長

「健康地球会社」

「健康地球会社」とは、会社の理念であり存在目的です。人も会社も地球も健康であり、元気で明るく楽しい会社で、社員が安心して働け、お客様から信頼され、社会に貢献できる企業を目指しています。仙台リサイクルセンターの一員として、環境に携わる仕事をしていますので、まずは社員の健康からスタートしています。本社と名取のセキュリティセンターでは就業時間中は禁煙となっており、一人ひとりができるところからの健康管理を徹底しています。また会社も健康である

ために、リサイクル、資源の卸業務のほかにもイベントホールの貸し出し、地域清掃活動といった社会貢献活動への参加や、国への納税をどれほどできるかを大切にしています。地球環境を考え働くうえで企業理念を貫き通すことは、自分達の会社の色を出すことや会社の信頼にもつながります。会社はもちろん、その存在意義を多くの方に知ってもらうため日々業務に取り組んでいます。

採用情報

※直近の採用人数
2015年 高卒1名
2016年 高卒2名
2017年 高卒2名
離職率0%

事業内容

使い終わったところから作るところまで

再生資源回収、産業廃棄物処理、機密情報処理を主な業務としています。通常は、回収する企業と原料に加工する企業は分業化されていますが、仙台リサイクルセンターでは再生資源、産業廃棄物の回収発生元から回収した資源を工場で分別、その後不純物を取り除き、紙や鉄、プラスチックなどの原料を作り上げます。そしてその原料をメーカーにつなぐという工程を一貫して行っています。また古着の回収も行っており、海外の中古衣料市場に卸されています。もう一方の機密情報処理は、名取が専門工場になっており、GPSで管理されている専用車両で書類、パソコン、ハードディスクなどを回収しています。要望があれば専用車のルートを確認や、回収車の後をつけて走行して監視することも可能です。工場は本社の社員でも入館が認められず、名取の社員であっても社員証と指紋、二つが照合しないと開けられない仕組みになっているため、お客様の情報管理を徹底的に行われているそうです。

求める人物像

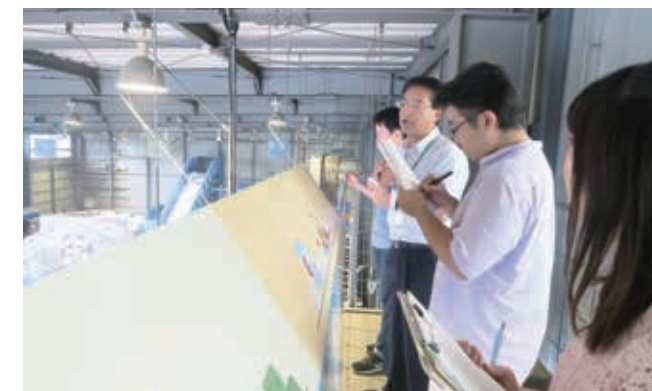
同じ志をもった人

能力や資格よりも「健康地球会社」という会社の理念に共感できる人を求めています。なぜなら、人にはそれぞれ個人差があり、仕事ができるようになるのが早い人もいれば、時間がかかる人もいるからです。得意なこと、不得意なことも人によってそれぞれです。それよりも健康地球会社の理念のもと、環境に携わる仕事をしているという自覚を持ち、自身の健康を大切にする人に来てもらいたいと考えています。ですので、何か資格を持っている必要はなく、個人の能力もそれほど重要視していません。他の会社とは求める観点が異なっているように思われるかもしれません。しかし、会社の思いと社員の思いが近い方が、幸せにつながると考えています。一緒に仕事をしていく上でミスマッチだと、お互いに不幸になってしまいます。今はインターネットなど、調べるツールがたくさんあります。就職活動中の学生には、しっかりと会社の理念や目的を調べた上で来てもらいたいですね。

将来ビジョン

不可能を可能にする会社

リサイクル処理できないものを少なくしていきたいと思っています。現在技術的な問題から、リサイクル不可能で埋め立てに回されてしまうものが多くあります。例えば、太陽光発電に使われるソーラーパネルや、一般家庭の窓に付いている樹脂製のサッシ。いずれも最近普及していて、今後も増えていくことが予想されています。仙台リサイクルセンターでは、お客様に「こんなものまでリサイクルできるのか」と言ってもらえるように、今後も技術革新を進めていきたいと考えています。さらに、お客様から自社で処理することができないものを依頼されたとき、他の会社に斡旋できる架け橋のような存在にもなりたいです。また、海外とも連携して事業を拡大する予定です。約5年前から、日本で不要になった服を集めてマレーシアに送り販売しています。今後は中国やベトナム、フィリピンなどにも進出したいと考えています。



管理部・内堀雅浩さん

ポイント

- 「健康地球会社」の理念をもって共に行動できる人

WISE 記者の
企業体験記

リサイクル工場へ！

私たちは集められた新聞紙が原料化される現場を見学してきました。工場は本社のすぐ隣に設置されており、社内3階にあるイベントホールの大きな窓から、工場内の様子を見ることができます。また、室内にはリサイクルの過程がイラストで分かりやすく描かれたパネルがあり、地域の人々や小学生の団体が見学に訪れた際に使用しているそうです。

そしていよいよ工場見学。しっかりとヘルメットを被って工場に足を踏み入れてみると、新聞や雑誌などの紙類や、缶・ビン、プラスチック類などが集められていました。意外にも、においはそれほどきつくなりませんでした。案内してくれた管理部の内堀さんによると、古紙だけでも毎日40～50トンも運ばれてきて、多い時には日に200トン以上の古紙が入荷します。さらに新聞と雑誌に分けられ、圧縮されるといいます。そして驚いたことに、新聞紙が縛られているビニールひもは、圧縮機に入れる前にすべて社員が手作業で取り除いているそうです。さらに、新聞紙がベルトコンベアーで圧縮機に送られる間にも、ひもが残っていないか目視でチェックする念の入れようでした。古紙標準品質規格表により、やむを得ない場合の混入が0.3%以内とされていますが、「純度にこだわって、細かい所まで気を抜かないで、限りなく混入0の商品作成にプライドをもって取り組んでいます。」と、内堀さんは話してくれました。仙台リサイクルセンターのこだわりを垣間見ることができました。

帰り際、40～50代くらいのパートの人たちが気さくに話しかけてくださりました。和気あいあいとした職場の雰囲気が伝わってきて、心が温くなりました。



ここが 知りたい

地域の方々との関りを大切に

仙台リサイクルセンターが資源・産業廃棄物の回収以外に、地域に対してどのような活動をしているのか気になりました。

社会貢献活動として、主に地域清掃活動、東北楽天ゴールデンイーグルスの試合へ招待、イベントホールの無料貸し出しを行っています。

地域清掃活動は社員と地域の方々に関わるきっかけとして、月に一回行っているそうです。この活動には20年前から取り組み、地域の方々にリサイクルセンターについて理解を深めてもらえる良い機会となっているそうです。

また、東北楽天ゴールデンイーグルスのTOHOKU SMILE チャリティパートナーとして、東日本大震災の復興・再生活動の一環で、地域の子どもたちや各福祉施設団体の方々に試合に招待しているそうです。

イベントホールの貸し出しは、地域の方々や工場に見学に

来た方が利用するそうです。このイベントホールからは工場内部が見下ろせるため、古紙リサイクルを学ぶ子どもたちの社会科見学にも対応します。また、イベントホールを利用した方々に、工場内部について知ってもらえるきっかけにもなります。

このように仙台リサイクルセンターは地域の方々との交流も大切にしている企業です。会社の理念である、人も会社も地球も健康であり元気で明るく楽しい「健康地球会社」には、資源・産業廃棄物回収以外に、このような社会貢献活動が深く関わっていると思いました。



先輩の 声

やりがいを感じながら、日々成長を



沼田 若菜さん
管理部

管理部で経理課長として仕入・売上に関するお金の管理や、現金・預金の管理をしています。主に月の上旬は月次決算の準備、中旬は会議資料の作成、下旬は給料計算をしています。

入社のきっかけは父が仙台リサイクルセンターの会長をしていることです。経理課は責任のある仕事です。なぜならお金を管理する仕事だからです。しかしその分、経理の仕事にやりがいを感じながら日々仕事に取り組んでいます。

書類提出の期日前に仕事がたくさんある時は大変ですが、完成度の高い計算処理の作成などの仕事をやり遂げた達成感はとても大きいです。

仕事で大切なのは各部署との関わりや経理課内での連携に欠かせないチームワークです。

仕事を通じて多くの人との出会いもあるため、仕事は日々良い刺激を与えてくれます。素敵な人に会ったらその人達の良い部分を真似して、自分に取り入れるようにしています。

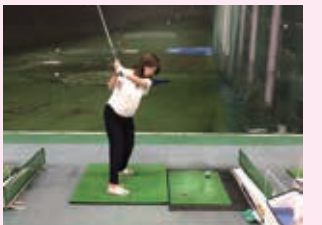
これからは後輩を育てられるようになりたいです。経理課だけではなく総務課などの後輩にも会社についてさまざまなことを教えながら、仕事に取り組む姿勢のお手本となれるように頑張りたいです。

沼田さんの1日

8:30	出社・メールと書類の確認
9:00	出納管理・送金確認
11:00	郵便物確認・資料のファイリング
12:00	社員食堂で昼食
13:00	銀行関係の手続き
15:00	会計ソフトの伝票入力
18:00	退社
19:00	ゴルフのレッスン

沼田さんのオフショット

仕事終わりの楽しみは友人とゴルフ練習場に行くことです。ゴルフを始めたきっかけは大学時代の友人の祖父が、人生でホールインワンを4回もしたことがあるという話を聞き、「そんなカッコいいおじいちゃんと一緒にゴルフをしてみたい。」という思いからそれを目標に週に一度、友人とレッスンに通い始めました。ゴルフは四季折々の季節を堪能でき、気分もリフレッシュ出来ます。また、皆で楽しくプレーができ、思いやりのあるゴルフの雰囲気がとても好きです。



仕事後のゴルフ練習

記者紹介



東北福祉大学 3年 五味 貴大

私はリサイクル業は匂いがある中で作業をする、大変な仕事というイメージを持っていました。取材をしてみると思ったほど臭いならず、安全で雰囲気の良い職場だと感じました。また会社では地域の方と盆裁展をしたり、わかる君バスツアーで工場見学、仙臺いるはにてゴマチヨリかりんとうの試食販売など、さまざまなことを行っているのを知り、驚いたとともに地元企業の面白さを感じることができました。



東北大学 3年 三浦 規義

「産業廃棄物の処理」という言葉を聞くと、あまりいい印象を持たない人もいるそうです。そこで、仙台リサイクルセンターでは地域の人たちに親しみを覚えてもらえるようにいくつかの取り組みをしているといいます。例えば、団体の見学を受け入れたり、社内での盆裁展に近隣住民を招いたりしています。マイナスイメージを払拭し、リサイクルの意義を真摯に伝えていく会社であると感じました。



東北大学 3年 安達 琴乃

ゴミの収集やリサイクルの仕事は、決して華やかな仕事ではありません。しかし、私たちがきれいな環境で、健康に生活する上でなくてはならない役割を担っています。近年、産業廃棄物や不法投棄の問題がささやかれるなか、あらためてリサイクル業の大切さと可能性を感じました。また、禁煙・スズ通勤といった規則によって、社員の方々がメリハリとプライドをもって仕事に向かう姿には、使命感が溢れており、とても印象的でした。



宮城学院女子大学 3年 森谷 晴花

仙台リサイクルセンターが目指している「健康地球会社」とは一体どんな会社なのか疑問に思い取材に行きました。人も会社も地球も健康であり、社会に貢献できるという、人だけではなく地球に優しい企業は素晴らしいと思いました。地球温暖化などの様々な環境問題に対処するにあたりなくてはならない会社だと思いました。また、地域清掃活動などの社会貢献によって地域の方々との距離が近いことも素晴らしいと思いました。

情報通信業

TIS東北株式会社

〒984-0051 仙台市若林区新寺1-2-26 小田急仙台東口ビル9階 TEL:022-791-2777 FAX:022-791-2778
URL: <http://www.tis-t.co.jp>



代表者 小松 隆市
代表取締役社長

資本金 1億円

創立・設立 1990年

受賞歴 2009年
ISO/IEC27001 (ISMS)
認証取得
2004年
プライバシーマーク認定



形を持たない商品だからこそ、対応するために勉強を



小松 隆市
代表取締役社長

知識とコミュニケーションが高い品質を生む

TIS東北株式会社は、地元企業の活動を情報システムで支援する会社です。会社の規模こそ大きくはありませんが、顧客には社員数万人の大手企業もあり、高いサービスの品質で最先端の業務に関わるシステムを開発しています。ここでいうサービスの品質とは、顧客が求める機能がしっかり組み込まれ、正しい結果が出ることだけにとどまりません。顧客である企業の業務内容を十分に把握し、社内や社外の環境を踏まえて、言語化されていない要望をも織り込んだシステム

の提案・開発ができなければなりません。そのために、相手の話を正確に聞き取り、それに対するこちらの考えを論理的に説明するコミュニケーションが求められます。さらに、技術動向やビジネス環境の変化についても常に新しい知識を身につけなければなりません。同社では、社長自らが講師となって勉強会を開催するなど、社員一人ひとりが勉強し続けることを大切にしています。

採用情報

※直近の採用人数

2015年	6名
2016年	8名
2017年	2名

事業内容

地元企業を情報システムで支援する

人事管理や給与、財務、資産管理といった企業の基幹業務に関するシステムの開発と保守を主な事業としています。その企業の中にどんなスキルを持った人がいて、これまでどのようにそれを磨いてきたかを管理できるシステムなどが一例として挙げられます。このようなシステムを導入後も引き続きサポートするために、機能の追加や変更といった保守を行っています。それによってシステムを評価して次の開発への反省点を見つけ、効果的により良いシステムを作り出すことができます。さらに近年は、企業内に分散したさまざまな情報を統合して、生産性の向上や新たなビジネスに結びつけるBI (Business Integration) というツールを提供しています。このような情報システムの提供により、地元企業がもっと便利に、早く、効率よく仕事をするための支援をしています。

将来ビジョン

地元企業のビジネスパートナーとして

地元へ根付くIT企業として、IoTとBIに力を入れようとしています。IoTとはInternet of Thingsの略称で、車や家電、スマートフォンといったありとあらゆるデバイスがインターネットにつながったものです。そこで収集・蓄積されたデータを分析することで、新たなビジネスが広がると期待されています。また、企業内の情報を統合するBIは、大企業ではすでに導入が進んでいますが、多くの中小企業では導入されていません。これを地元中堅企業に導入し、地元企業の成長に寄与したいと、特に最近力を入れています。大手企業の顧客の基幹業務システムの開発を太い柱としつつ、地元企業により近い立場で経営を支援するパートナーになりたいと考えています。「ITのことならTIS東北に任せたい」と地元で言われるITベンダーになりたいというのが私たちの目指す姿です。

求める人物像

お客様に応えられる力を自ら育み実行していく

情報システムという目に見えないものを扱うためには、まず、お客様の話をしっかりと聞き、求められていることを明確にすることが必要です。お客様の言葉をエンジニアの言葉に翻訳すると言ってもよいでしょう。それに対して何をすべきか考え、論理的に伝えられることが求められます。もちろんITに興味があるということも大切です。プログラミングが好きであったり、ITで社会が変わることが面白いと感じられたりして、新しい技術や社会の動きにアンテナを張れる人がいいですね。さらにその先に、アーキテクト（全体設計）を考えられるようになるのが望ましいです。システム全体を俯瞰して、「こういう構成でこういうやり方ができる」といったことを考えられる人に育ってくればよいと思います。当社はグループ会社のスケールメリットはあるものの、単体では規模の小さな会社です。それでも大手を含む多くの地元企業の経営を支えています。それは、お客様の要望を形にできるように社員一人ひとりが成長目標を持ち、日々学び続けているからだと思います。



高品質のシステムを提供するTIS東北

ポイント

- IT社会の競争が激化している中で日々勉強し技術と品質の向上を目指す

WISE 記者の
企業体験記

顧客への対応に必要な知識を身につける社内勉強会

管理部の鶴岡さんに社内の勉強会を体験させていただきました。TIS 東北では業務とは別に社員向けのさまざまな勉強会も行われていますが、今回は顧客へのセミナーに使われる資料を使って概要を説明していただきました。社員向けの勉強会は、知識や技術の幅を拡げて的確に顧客のニーズに応えられるようにするために行われます。さまざまな開発環境で仕事をする中で、専門外のことも幅広く頭に入っていないとなりません。自主的な学びに加えて行うものですが、人の輪を広げるという意味でも、このような勉強会を開いているのです。また、新たな知識を習得するために社外のセミナーの受講も奨めているそうです。

勉強会というと全員がある程度の知識を持っていて、スムーズに進行するものだと思っていました。ところが今回私たちが体験した勉強会は、簡単に理解出来る内容ではなかったもので、置いていかれないか不安を感じていましたが、鶴岡さんは私たちのレベルに合わせて、さらに図や例を提示しながら解説してくださいました。説明の際にも私たちにアイコンタクトをし、頻繁にそれまでの内容が理解できたかを確認してくださいました。専門用語が使われていたら、きっと理解できなかっただろうと思いました。このような体験を通して、仕事をする上で学ばなければならないことは、自分から気づき勉強する意識を持つこと、そして、正しい知識を得ることが重要で、それがあってはじめて顧客が求めるサービスや提案ができるのだと感じました。



ここが知りたい プログラミング言語と開発業務の奥深さ

業務システム開発で一番多く使われているプログラミング言語が Java です。企業の情報を管理する基幹業務システムのプログラミングにも使われていて、Windows、Mac のどちらにも対応でき、お客様の企業の OS を選ばずサービスを提供できます。「Java を使いこなすことで仕事の幅が広がるのではないかと質問したところ、小松社長から「しょせん Java、たかが Java」と印象的な答えが返ってきました。それは「通りいっぺんのプログラミングは練習すれば誰でもできる。しかしそれは全体のごく一部にすぎず、毎回開発環境やフレームワーク、チームの人数やメンバーの技術スキルなどの開発体制も異なる中で、品質を保つためには単に Java をコーディングするだけではダメで、プロジェクトマネジメントや開発環境への理解も深めなければならない」という意味だそうです。プログラミング言語ひとつからも、TIS 東北の業務である「開発すること」そのものの奥深さを知りました。



取材風景

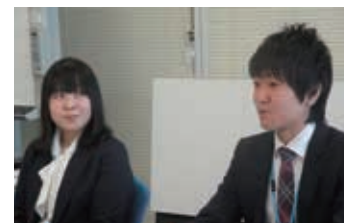
システム開発に取り組む姿勢

TIS 東北では、顧客企業が抱える課題を情報システムで解決するために、第一にその顧客の価値観に向き合っただけで対応することにしているそうです。それによって信頼関係を築き、システムに求められる機能や、その活用場面、かけられるコスト、考えられるリスクといったことをひとつずつ可視化していきます。それらの情報は社内でも共有され、開発に反映されているのです。これらのコミュニケーションを丁寧に取り組むことがシステムを開発する上でとても重要で、これまで培ってきた経験とノウハウを生かして、ベストソリューションを導き出すために、あらゆる手段を尽くしているということでした。



先輩の 声

お客様が求めていることに応える



猪股 美里さん

システム部
(山形大学卒)

長根 俊さん

システム部
(東北工業大学卒)

システム部に所属し、お客様の企業に常駐してシステムの開発を行っています。社内では勉強会や研修、チームでの社内改善活動など、他部署の社員とも話す機会が多くなり、社長と社員、社員同士の距離も縮まっています。現在は担当するお客様の業務に関する知識を得るため日々勉強しています。仕事の中で大変なのは、品質の高いソフトウェアを納期に間に合わせて提供することです。忙しいプロジェクトの場合には、チーム外の人に手伝ってもらうこともあります。大変ではありますが、その分やりがいもあります。ソフトウェアは目に見えませんが、開発したソフトウェアが正常に動いて、お客様に満足いただける品質に達することが出来たときは、努力が報われたと実感できます。

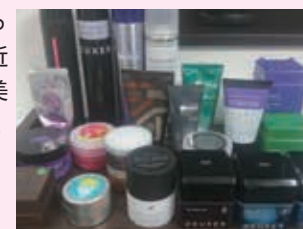
これからはプログラミング以外にも、システム開発のプロジェクトマネジメントについてももっと勉強していきたいと思っています（猪股）。システムだけでなく対象業務における法律等の知識も豊富な人事給与のプロフェッショナルな上司がいるので、まずはこの人になりたいという目標を持っています（長根）。

猪股さんの1日

8:40	出社
9:10	プロジェクト朝会
11:00	お客様と打ち合わせ システムの仕様（機能や、画面レイアウトなど） をお客様と検討
12:00	昼休憩 先輩や後輩と社外へランチ
13:00	設計・プログラミング 打ち合わせで決まった仕様でシステムの設計・ プログラミング
16:30	プロジェクト夕会 1日の作業状況の報告
18:00	退社 仕事のキリがいたら帰宅。仙台駅周辺で買 い物などをしてリフレッシュ

長根さんのオフショット

一つのものを買うと全部の種類を買いたくなってしまう。最近ではヘアワックスに凝っています。新商品が出る度に買ってしまうので、今では約20種類のヘアワックスが自宅に並んでいます。毎朝、気分ですらの中から一つを選ぶのが楽しみです。また休日の過ごし方は、新しいカフェ巡りやランチの食べ歩きです。友達や会社の先輩から聞いたお店に行きつづけています。最近だとローストビーフ丼の美味しいお店を発見しました。



ヘアワックスのコレクション

記者紹介



東北学院大学 2年 木戸浦 一樹

企業に対する取材は初めてで、とても緊張しました。段取りや事前準備が甘く、インタビュー中や記事作成中に苦労することがありました。IT 企業と聞くとずっとパソコンとにらめっこする職業で、パソコンのスキルさえあればいいと思っていたのですが、むしろ人とコミュニケーションをとるほうが大事であると聞いた時は驚きました。社長の「取引先の周囲の物事まで常に勉強する」という言葉が印象に残っています。



東北学院大学 2年 矢野 賢斗

今回の取材を通して質問を考えると、企業とその業界をもっと知らなければいけないと思いました。また、社長のお話を聞いて、読者の知りたい情報を聞き出すためには勉強しなければいけないと思いました。特に経営や IT の分野について深く調べ、掘り下げたいところをよく考えたうえで、企業が伝えたいことを引き出せるようになりたいです。



東北学院大学 2年 高橋 里奈

お伺いしたときはかなり緊張した状態でしたが、社長が気さくに話してくださり、落ち着いてインタビューすることができました。普通の会話のように楽しげに話して下さるところもありましたが、将来のことをお聞きしたときは、真剣な面持ちで話してくださいました。先輩社員の方々と、丁寧に質問に答えてくださり、将来に関することでも聞くことができました。

生活関連サービス業、娯楽業

株式会社 日本セレモニー（愛グループ）

〒982-0023 宮城県仙台市太白区鹿野2-19-20 TEL:022-304-5122 FAX:022-304-5123
URL: <http://www.tenreikaikan.com/>



責任者 今野 安祐
典礼会館 泉 総支配人

資本金 1億円

創立・設立 1972年

受賞歴 やまぐち子育て応援企業
928



ここに「生きる、お葬式。」



今野 安祐
典礼会館 泉 総支配人

「こだわり」が「きっかけ」を生む

「典礼」とは「式をつかさどる」という意を表します。故人の最期の場に居合わせた人たちが、故人とのこれまでに想いをめぐらせ、今日という式典を思い出として振り返ることができる場所を用意しています。館内はご遺族や、会葬に列席された人たちが、「暗さ」や「重さ」を自然に意識してしまわないように、導線や備品、清潔さの維持など、トータルにコーディネートされています。また、故人らしさを表すためには、こだわりの演出が欠かせないそうで、生前に、見も、知りもしな

かった故人の一面を、スライドショーやメモリアルコーナーの演出によって作り出していきます。こうしたこだわりやアイデアは、現場でのお客様やスタッフの声の拾い上げによって生まれてくるそうです。故人を弔い、振り返りの場とし、人がつながる場所。それは葬儀という現場での、スタッフの細やかな気付きと配慮によって、次へとつながっているのです。

採用情報

※直近の採用人数
2015年 17名（男性:6名、女性:11名）
2016年 17名（男性:4名、女性:13名）
2017年 24名（男性:2名、女性:22名）

事業内容

故人を偲び、らしさを演出する場

西日本・東北地域を中心に、全国177ヶ所、県内に7ヶ所の葬祭会館を構えています。葬祭業務を一貫して行い、例えば、ご臨終から、初七日法要までなど、約10の過程に携わっています。これら一連の過程は、宗派や地域の風習により異なります。その中で、故人を偲ぶ「おつとめ」と、故人らしさや、思い出を感じてもらえるように、演出としての「葬儀」を効果的に切り分けて仕事をしています。通常、葬祭業務は、ごく限られた短い時間の中で、プランニングを行わなくてはなりません。そこでは、故人様との思い出話やご遺族のご要望から、いかに喪主の気持ちを汲み取り、いかに故人様らしいお別れが出来るかが求められます。依頼者にとって、式に向けての不安材料は多々あるかと思いますが、ホームページや365日・24時間対応のフリーダイヤル、会館の見学会、対面での打ち合わせを通して、同じ価値を共有できるよう準備を行っています。

求める人物像

話しやすい雰囲気、溢れるチャレンジ精神

雰囲気という難しいですが、葬式は結婚式と同様にサービス業です。大切な人が亡くなって辛いお気持ちのお客様の要望に、どれだけ添えられるかは、社員の力量次第。実際に会話の中でどれだけ相手の要望に気付けるか、聞き出せるかが重要となるので、雰囲気や、当たり前のことを当たり前に行えるということはとても大切なことです。具体的には声のトーンや、質問に対して明確に答えられるか、間違った時には謝ることができるかを見ます。また、当社はやればやっただけ評価をする会社です。その社風に、より同意できる人材が欲しいです。葬式の形は時代とともに日々変わっていくので、それに私たちは対応していかなければならない。そのためには現場の意見をより取り入れていくことが必要だと考えます。固定概念にとらわれない人や、発想が豊かな人が欲しいですね。却下された意見だとしても、アイデアを出した人の方が評価されます。あとは、どちらかといえば硬すぎる人より面白い人に入社してほしいと思いますね。

将来ビジョン

地域の人から愛される場所

西日本・東北地域に展開していますが、東北の地、宮城では「地域の人から愛される会館」を目指しています。社会状況や生活スタイルの変化で、「家族の単位」や「地域コミュニティ」は縮小し、かつてあった自宅葬という「場」は、ほぼ失われました。現在は典礼会館のような葬儀会館での家族葬が主流です。死のプロセスも多様になり、日々多くの場面に直面しています。その中で私たちは、葬祭会場という「死」と密接した、暗く、悲しいイメージの場所を、いかに地域に開かれた身近な場所で在れるか、日々考えています。故人様を偲ぶ「儀式」に寄り添い、ご遺族、ご会葬の皆さまが、故人様との思い出を懐かしむ、振り返る場所をいかに作れるか、試行錯誤の毎日です。創業者の言葉に「変化を求めよ、不変は後退である」というのがあります。社会や死生観の移り変わりに適応し、その先を見て追及する。日々の現場感覚が大切になっていくでしょう。



会場設営の様子

ポイント

- 話を聞くのがうまい人
- 相手の気持ちを考えられる人
- いろいろな方面から物事を考えられる人
- チャレンジ精神旺盛な人
- 面白い人

WISE 記者の
企業体験記

棺の中の居心地は？

今回体験させていただいたのは、香炉掃除、親族控室のベッドメイキング、入棺体験の3つです。たくさんの体験の機会をいただきました。まずは香炉掃除。香炉とはご焼香をするときの器です。燃やした炭を取り除き、敷いてある灰を均等にして、周りを拭いて終わりなのですが、不器用な私には少し難しかったです。

次はベッドメイキング。典礼会館は清掃にとっても力を入れています。お客様に居心地の良い空間を提供したいと、テーブルには指紋一つ残らないほどの徹底ぶり。きっとベッドメイキングも難しいものなのだろうと思っていましたが、一つ一つの動作にコツがあり、教えてもらいながら作業できたおかげで、上手にシーツを敷くことができました。教えていただいた方法は、自宅でも応用できそうです。

最後に入棺体験。これは一般向けにも行っている体験で、ご家族に故人が居心地よく旅立てるかどうかを体験していただくものです。お棺にもたくさんの種類がありますが、今回体験した棺は、現在一番売れているもので、お話を伺った今野総支配人が考えたお棺だそうです。棺本体と、掛布団、敷布団、枕、杖で1セット。枕は頭の形に軽く、くり抜かれており、フィットする作りです。布団もふわふわで寝やすく快適でした。杖は木の棒を二つ組み合わせたもので、あの世に行ってもしっかり歩けるようにという意味が込められています。また、棺の中はレースで飾られていたり、棺本体や金具にお花が描かれていたり、とても凝ったデザイン。私はこの棺でなら快適に旅立つことができると思います。ぜひ皆さんにも体験してもらいたいです。



ここが 知りたい 社員を彩る制度たち

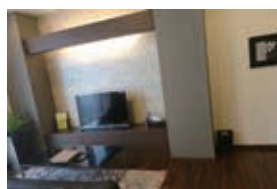
やればやっただけ評価される会社、典礼会館。お話を伺った総支配人の今野さんも入った当時はパート社員だったそう。そんな典礼会館が力を入れている2つの社内制度についてお聞きしました。まずは『研修制度』。新入社員研修はもちろん、部門別集合研修で力をつけ、入社後ある程度時期が経つとレベルアップ研修、中間層になってくるとエリア別研修、キャリアアップを希望する者には資格検定のフォローやITCフロンティアという管理者研修を行っています。次に『表彰制度』。月間成績ランキングの店舗別、部門別、さらには新人ランキング、ベテランランキングまで。頑張れば顔写真付きで全国の社員に知ってもらえるなんてモチベーションが上がりますよね。



社誌、ベテランランキングのページ

典礼会館オリジナル 控室での過ごし方

会館内には、親族向けの控え室があります。入り口を入ると、日常生活を送るにも変わらないダイニングや寝室、風呂場などがホテル並みに完備されています。畳のある和室には、団らんでできる空間ながら、部屋の奥に、ご遺体を置く専用のスペースがあります。この設備によって、親族たちは、自宅に帰らずとも故人と最期の一晩を過ごすことができます。会館スタッフは、一連の葬儀準備や進行の傍らで控室の清掃・チェックを細かにを行い、指紋やほこり一つ見逃しません。また、トータルコーディネートインテリアや窓から日の光が注ぐ構造も、少しでもご遺族をゆったりとストレスを感じさせない工夫としてみることができました。



まるでマンションの一室のような控え室

先輩の 声

過去と現在、これからをつなぐ場所



増田 慎さん
チーフディレクター

今年で入社3年目、大阪勤務の後、1年前に仙台にやってきました。葬儀の一連の流れに携わり、現場の指揮をとっています。葬儀における風習やしきたりの違いはもちろん、期待されるサービスにも地域性があると、日々感じています。

入社したきっかけは、学生時代に苦楽を共にした友人の死です。実は、その友人とは10年程疎遠になっていました。突然の死を悔やみながらも、かつての仲間達を葬儀に集めるため、必死に住所録から電話をかけていきました。葬儀の後、会食の場では、集まった友人たちとともに、昔を懐かしみ、談笑しました。そこで思ったのは、「この場に、僕たちを集めたのは亡くなった友人自身だった」ということです。葬儀は「死」に直接向き合わなければならない、辛く、悲しい場所です。しかし、一方で「別れ」という心の区切りをつけてくれる場所でもあります。生死における「onとoff」をつけられる場所に、強く惹かれています。

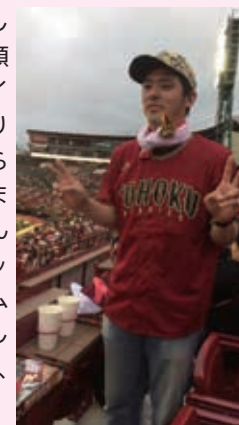
仕事柄、場の空気や流れを読む事とても神経を使います。求められるものを意識し、客観的ながらも、主体的になる姿勢が必要です。悲しみと懐かしみの「onとoff」の場をこれからも提供していきたいです。

増田さんの1日

7:00	出社
8:00	出棺
8:30	霊柩車出発
9:30	火葬
12:00	葬儀・法要
13:30～15:30	会食
16:30	自宅設営
17:30	事務処理（報告、翌日の準備など）
20:00	終業

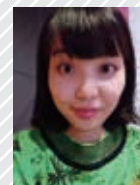
増田さんのオフショット

仕事の場面では「悲しみと懐かしさ」、「onとoff」の提供を念頭に置っていますが、仕事とプライベートの「onとoff」もしっかり分けています。地元の京都から離れ、仙台に住んで1年となりますが、異郷の地をしっかりと楽しんでいます。先日は、前々からチケットをとっておいた楽天VS日ハムの試合を友人と観戦しにいきました。リフレッシュを十分ににして、また仕事に励んでいきたいです。



楽天の試合観戦を楽しむ増田さん

記者紹介



宮城学院女子大学4年 及川 裕未

「葬祭」の場とは、どうしても冷たさや重さを伴ってしまう、悲しみの場所だろうと、過去の経験を踏まえ思っていました。しかし、いざ足を一歩踏み入れると、その感覚は変わりました。施設全体がさまざまなに計算されたトータルコーディネート空間。「死」に直面する緊張状態が、リラックスできる場に演出されていました。故人を想い、これからは振り返ることのできる場所なのではないかと思いました。



東北福祉大学3年 菅野 綾香

幸いなことに私には葬儀に出席する機会がほとんどなく、知らない世界だから知ってみたいと思い取材に参加させていただいたのですが、さすが儀式を扱う仕事、人間第一、お客様第一な職場です。想像を超える心遣い。故人様を思いやるために、お客様を思いやるという思いやりの連鎖。素晴らしい世界です。また、社員を大切にしていると感じました。アイディアを出した人が評価される会社は素敵だと思いました。

建築設計サービス業

株式会社 マックス設計

〒989-2203 亶理郡山元町浅生原字作山2-102 TEL:0223-37-3391 FAX:0223-37-3185
URL: <http://max-ae.co.jp>



代表者 成田 建治
代表取締役

資本金 2,000万円

創立・設立 1979年



未来の創造に携わる仕事。 子ども達が憧れ、誇れる仕事をしよう！



成田 建治
代表取締役

建築のなかでも重要な仕事をしている誇り

大型商業施設であるGINZA SIXやららぽーと横浜など、誰もが知る建物を実績にもつマックス設計。実は仙台駅前にあるAERも手掛けていました。近年、都心にある建物のフレームである鉄骨構造に多く携わっています。見上げても天辺が見えないような高さのビルの中に存在する鉄骨フレームは、外壁に囲まれており表面からはわかりませんが、建物が完成した時に見上げた時の達成感は、関係した業者にしかわからないものがあると思います。仕事を引き受けてから、建

物が出来上がるまで、少なくとも3年は必要とされているそうです。そのなかで「鉄骨設計」という形で携わってきて、建築の工程でも重要な仕事をしているのは誇りに感じていると成田社長。東日本大震災後、暗い雰囲気包まれていた地元を変えたいと、地元の山元町に残り、地方から日本を元気にという想いのもと、地域愛に満ちた行動を通じて地域や業界への貢献をしている企業です。

採用情報

※直近の採用人数

2016年	中途1名
2017年	新卒1名、中途1名、パート1名
2018年	新卒3名

事業内容

一棟一様、思いやりある鉄骨設計で築く、信頼性

鉄骨フレームを製作する為の鉄骨設計をし、鉄骨製作図を描いている会社です。社長のお父様が鉄骨製作工場から独立して事業を起し、現社長は2代目。設計業は大まかに分けると意匠・構造・設備の3分野に分類されますが、マックス設計は構造分野の鉄骨構造に特化していて、その中でも超高層ビルや大型物件というニッチな分野で、鉄骨設計とコンサルを行なっています。ニッチを極める事が会社の強みになっています。社内では、鉄骨フレームの作りやすさ、現場での建てやすさや、鉄骨フレームを使用する関係業者の使いやすさに加えて、効率性や安全性、資源の有効利用も考慮して、精密に設計しています。設計や建築の支援ツールであるCADやBIMを用いて鉄骨をデザインしていきますが、超高層ビルですと、設計から完成まで5年ほど掛かる物件もあり、長い期間を見据えての統括的な作業となるため、成田社長は「建物の安心かつ快適な未来のためにも、志ある設計と、社員同士の信頼関係がお客様の満足度に繋がっていく」と話してくれました。

求める人物像

自分の仕事に「目的」を持って

皆さん、イソップ寓話の「レンガ職人」はご存知でしょうか。ある旅人が3人のレンガ職人と出会い、それぞれに「何をしているのか」と質問をします。3人とも違う返答をし、仕事に対する目的も違います。ただ、レンガを積んでいると言う人、家族を養うためと言う人、歴史に残る大聖堂をつくっていると言う人、どれも正解かもしれませんが、これからの時代を生き抜く皆さんには、携わる仕事に対して、しっかりと目的を持って取り組んで欲しいと考えています。そして、建築に対する興味をもち、前向きで素直な心をもって仕事に臨んで欲しいと思います。誰でも躓いたり、悩んだり、失敗したりしますよね。そんな時、人の話を素直に聴き、前に向かって一歩踏み出せる心を持っていれば、小さな一歩はその人の大きな飛躍に繋がると考えています。また、ほとんどの社員は文理関係なく、未経験からスタートしています。わたしたちが精一杯サポートしますので、一緒に将来のまちづくりに挑戦しましょう。そしていつかは世界の人々の役に立つ建築にも繋がっていきと思っています。

将来ビジョン

「山元町から日本を元気に！」

山元町は東日本大震災の影響で甚大な被害を受けました。その影響で企業が一つまた一つと、この町からいなくなっていました。首都圏やその周辺の物件をマーケットとしていましたので、山元町を離れて事業を展開しようかと考えた時期もありました。しかしそれでは、震災で傷を負い活気が減ってしまったこの町はより廃れてしまう。そう考えた時、町に残る意志が固まりました。慣れ親しんだ土地の変わり果てた姿を見る度に頑張ろう、この山元町から発信することに意味があると思えたからです。「山元町から日本を元気に！」。私たちはこの信念を胸に仕事をしています。これからのビジョンとして、ランドマークとなる超高層ビルや超大型物件の鉄骨設計により多く携わり、この山元町から日本を元気にしたい。そして被災した小さな町の小さな会社でも、頑張れるということ、多くの人に知ってもらいたいです。



設計作業にあたる佐藤光将さん

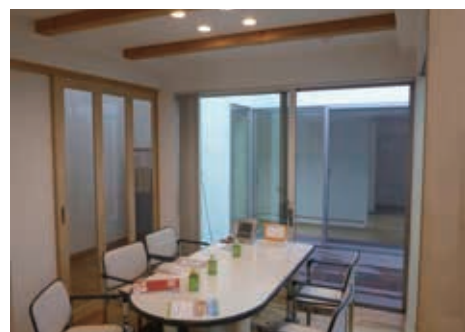
ポイント

- 仕事に対して目的を持って取り組める人
- 建築・もの創りに興味のある人
- 素直で、前向きな人

WISE 記者の
企業体験記

ヒトの体も建物も支えるのは「骨」。

青森の「ヒバ」の優しい香りが広がる事務所内を見学させていただきました。ヒバは床から壁にかけびっしりとあり、素材が生かされています。社員の皆さんにも好評だというも頷けます。そのヒバをさらに存分に生かせるように採用されているルーバー天井（P46写真）は、解放感がありまるでログハウスにいるような気持ちになりました。事前に鉄骨を扱う仕事と聞いていたため、堅いイメージを持っていたのですが、その気持ちは木材によってやわらぎました。「従業員の皆さんに気持ちよく、快適に仕事をしてほしい」と話す成田社長からは、社員に対する優しさが感じられました。鉄骨フレームは普段見ることが出来ませんが、建物を支える大切な部分。ヒトの体を支えるものは「骨」。鉄骨も建物の「骨」にあたります。私も日常生活では鉄骨を目にするのはあまりありません。成田社長をはじめ、社員一人ひとりがマックス設計という建物を支える「骨」のように、仕事に取り組んでいる現場からは、真剣さはもちろん、固い信念を感じました。超高層ビルの設計に対するチャレンジ精神や、取り引き先の企業とのコミュニティ形成、建築設計といっても製図だけではない部分を見ることができました。一人ひとりが財宝だと語る成田社長は、人材のことを「人財」と表されていました。どんな物件も、けっして一人ではなくチームワークでやり遂げる、そんな人たちの熱い志を感じることができました。



ここが 知りたい

青森ヒバを使用したショールームの様な社屋

震災で傾いた事務所を新しく建て直す時に、「心地のいい空間で、集中して仕事ができる」をコンセプトに、現在のオフィスが出来上がりました。空間的に圧迫感を感じさせない木材を使用した、健康的なオフィスづくりを手掛けたそうです。鉄骨業務とは趣の異なるおしゃれなオフィスでした。使用している木材は、成田社長の両親の実家である青森県の青森ヒバ。日本三大美林の一つです。香木ともいわれ、優しい香りと美しい木目が特徴的で、性質として木材を水拭きすると、香りが復活するとのこと。また青森ヒバは、湿気に強く、腐りにくく、防虫効果に優れています。古くから神社、仏閣の土台としても用いられ、建築資材としても有名です。その他にも、まな板やお風呂用品、アロマオイルなどの商品になって市場に出ています。床・壁・天井と隅々まで木材をあしらひ、疲れた時にもホッ

とするような空間となっています。天井には外からの視線を避けながら、十分な自然光を採り入れられることができ、室内からは空が切り取られて見える、気持ちのいい窓を作ることのできる、ハイサイドライトといわれるものを使用しています。部屋の奥まで光が行き届いた、こだわりの明るい空間となっており、まるでショールームの様な社屋でした。



さまざまな効果が期待できる青森ヒバ

先輩の 声

先輩社員に支えられています。



佐藤 光将さん
(東北工業大学 環境情報工学科卒)

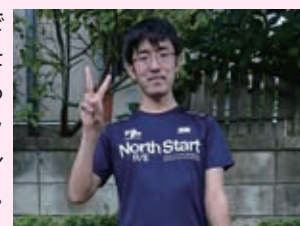
この会社を志望した理由は、都心のランドマークになるような超高層ビルの建設に関われることにやりがいを感じたからです。入社した時の私は、建築の知識に乏しかったのですが、先輩方に一から教えていただくことで成長できました。先輩方は丁寧に教えてくださり、会社としても資格取得などの援助がありますので、若手が成長しやすい環境が魅力だと思います。入社してから五年目になりますが、まだまだ不慣れなところがあり、先輩から仕事をいただき、覚えることに尽力しています。私の普段の業務内容は、鉄骨製作工場の方々が見る「鉄骨詳細図」という柱や梁といった鉄骨パーツの図面を描いています。携わっている物件に関しては、自分で描いた図面だけでなく、他の方が描いてくれた図面も入念にチェックします。万が一があっては大変ですからね。入社する前からCADの勉強はしていました。しかし、実際の建築で使用するものとは違っていました。この会社に入社してから建築の知識を身に付けて、新たに専門のCADの勉強もしました。鉄骨設計の分野はニッチな世界なのですが、ランドマークになるような大型物件の現場見学に行った時は、達成感でいっぱいになりました。鉄骨の知識はあるに越したことはないのですが、興味を少しでも持った方は、一度会社説明会に足を運んでみてはいかがでしょうか。

佐藤さんの1日

9:00	担当する物件に分かれて打ち合わせを行い、1日の作業内容を確認する。
11:00	鉄骨設計・作図
12:00	12時から13時まで昼休み。持参のお弁当を食べることが多い。
15:00	鉄骨設計・作図
17:00	図面チェック・打合せ
19:00	今日の作業内容や進行具合を先輩に報告し、日報を作成する。
20:00	帰宅。余力のある日は趣味のランニングを行う。
22:00	身体を休め24時頃就寝。

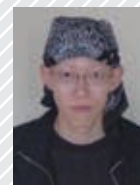
佐藤さんのオフショット

趣味はランニングです。昔バスケットをしていて、走ることはもともと好きでした。主に県内の仙台ハーフマラソンや松島ハーフマラソンなどを目標に、日々トレーニングに励んでいます。うちの先輩社員とエントリーして走ることもありますね。走ることで社員同士のつながりができたことがとてもうれしいです。平日よりもゆっくり時間が取れる土日に走ることが多いです。写真は普段ランニングをするときの格好です。走ることで心身ともにリフレッシュできるので、マラソンを続けていきたいですね。マラソンおすすめですよ！



趣味はランニング

記者紹介



尚絅学院大学 4年 大村 章仁

私は生まれて初めて山元町に行ったのですが、震災の傷跡の大きさに驚かされました。会社訪問後、成田社長に山元町を案内して頂きました。沿岸沿いを見た際、今まで知らなかったその津波の被害を実際真近で見ると、言葉には表せないなんとも言えない思いが込み上げてきました。「これ以上この町を寂れさせたくない」との思いが分かる風景でした。知らなかった世界を見たこと、今回の出会いに感謝したいです。



宮城学院女子大学 3年 佐藤 佳奈

社内が木材使用の光が差し込む明るいオフィスでした。東日本大震災がきっかけで町全体が暗くなっていた山元町をまた活性化させたい、新しく変えてゆきたい、という社長の熱い思いに聞き入ってしまいました。図面を拝見させていただいたのですが、その精密さに圧倒させられました。建物の支えになって活躍している鉄骨フレームは、私たちの生活の一部として存在していることに気づかされました。

複合サービス事業

マルチプライ 株式会社

〒983-0034 仙台市宮城野区扇町3丁目4-23 TEL:022-236-1120 FAX:022-236-1121
URL: <http://www.multiply.jp/>



代表者 五十嵐 弘人
代表取締役

資本金 2,100万円

創立・設立 1990年

受賞歴 同友エコ大賞
・「環境経営に取り組む挑戦グループ」部門大賞
・中小企業家同友会「地球と共に賞」



地球浄化 ～建物から社会を変える～



五十嵐 弘人
代表取締役

ビルの管理はもちろん環境を守る企業へ

ビル管理事業をメインに、ビルメンテナンス用品や清掃機器などの販売を行ってきたマルチプライ株式会社。現在は本社のほかに、北海道・東北に5つの営業所で事業を展開しています。経験豊かな技術スタッフはもちろん、メンテナンス部品供給ネットワークも完備されているのが特徴です。

東日本大震災後は、地域の「再生可能エネルギーの創造」を自社の果たす役割ととらえ、既存の大規模発電所からの送電電力にほとんど依

存せず、太陽光発電や風力発電、バイオマス発電などを活用し、小規模なエネルギーネットワークを構築する未来の電力供給システム「マイクログリッド」を奨めています。他にも省エネ性能に優れ、環境に優しい「CCFL照明」と、ナノテクノロジーとエコロジーの技術から開発された抗菌・脱臭効果のある「抗菌照明」を融合させた、次世代の照明「NTクリーンライト」を開発し販売するなど、環境への取り組みも積極的に行っています。

採用情報

※直近の採用人数

2015年	2名
2016年	4名
2017年	2名

事業内容

ワンストップでビルの全てを管理

一般的なビルの管理会社は、消防設備や空調設備、エレベーターなどの保守管理を、ビルのオーナーの窓口業務として、それぞれの専門企業に依頼していますが、マルチプライ株式会社は、ビルのメンテナンスから各設備の保守管理までを自社の中で一括して行っています。

そのため、ビルのオーナーの思いが直接伝わるだけでなく、さまざまな設備保守の作業時期の不都合などが起こりにくく、効率的なビル管理を行うことが可能です。

また、ビル管理だけではなく、秋田新幹線で採用されている床ワックスの「ブルーインパルス」をはじめとした、さまざまな洗浄剤や清掃機器などの自社製品を販売する「環境製品販売」も行っています。

こうしたビル管理でのノウハウを生かし、学校への清掃指導や公共建築物の清掃活動など、社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。

将来ビジョン

目指せエネルギーゼロ計画

地域の建物やビルにおいて、エネルギーゼロを目指しています。再生可能エネルギーの実用化や、中小企業の仕事づくりの知識や技術を蓄積しながら、さらなる挑戦を続けています。地中熱や太陽光といった自然エネルギーの活用と省エネルギーで、建物内のエネルギーの年間使用量を大幅に削減することを図っています。建物がエネルギーを生んで地域に還元できるようにし、震災が起きた時ばかりではなく、現在当社のビルでも常にエネルギーを自給しています。

また、当社が発売元であるNTクリーンライトは、CCFL蛍光灯を使用しており、殺菌消臭効果もあり、健康・環境・衛生面にも優しい安心の明かりなので、病院、保育園、学校、事務所などさまざまな場所や施設で使ってもらいたいと考えています。

求める人物像

女性が働きやすい会社への改革

やる気さえあれば拒みません。その人の可能性を引き出しながら成長させていきます。

「優秀」や「真面目」といってもいろいろありますので、一概にこういう人を求めているというのはないのですが、もっと女性が技術職社員として現場に出て活躍してほしいですね。女性が働きやすい環境としては、会社内に託児所を作りたいと考えており、子どもが生まれてからも復帰できるように正社員雇用を存続させます。例えば消防設備の点検は女性でもやりやすい仕事です。会社内に託児所があれば、安心して働けますよね。女性が技術職に就いてくれたら、女性専用マンションなど男性が入ることができない場所でも点検をすることができます。

多くの学生や大学の先生方も「女性は事務」と考えているかと思いますが、新卒採用の人には、技術、点検、事務の研修を3カ月間全て行わせます。その中で何が向いているのかをみます。営業が苦手という声をたくさん聞きますが、お客様に修理箇所を伝えるのも営業の仕事です。現場は楽しいということを女性にもっと知ってもらいたいですね。



消防設備を点検している様子

ポイント

- やる気のある人
- 女性技術職を目指す人

WISE 記者の
企業体験記

整備のプロが輝く、 点検の現場！

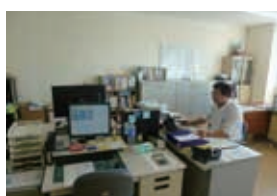
マルチプライでは、整備のプロが幅広い種類の点検を行っています。例えば、消防設備点検。これは万一の火災に備えて、火災報知器やスプリンクラーが正常に稼働するかどうか確かめるものです。建物の用途により、年2回の点検、消防署への報告は年に1回または3年に1回、法律で義務づけられています。ビルの信頼や価値にも直接結びつく重要な点検です。そこで今回は、この消防設備点検に同行させていただくことにしました。取材日は、たった一人で約50個の熱感知器を点検していました。先端から煙が発生する特殊な道具を感知器に被せ、ランプが点灯するか確認していきます。感知器が正しい場所に設置されているかどうか併せてチェックしていました。私たちも点検作業を体験させていただきましたが、機械をセットするのものと苦勞。もちろん、設備士の方の手つきはスラスラとお手のもの。技術職のかっこよさを身にしみて感じた瞬間でした。さらに、点検中はビル内にいる人への配慮も必要です。点検することを適宜説明し、相手が安心できるように工夫されていました。これは、実際に同行して初めて気づくことができました。

消防設備点検を行うのは、消防設備士という国家資格を持っている人です。この資格は、点検する対象によってさまざまな種類があります。マルチプライでは、入社してから必要に応じて取得するそうです。ただ、資格を取るだけでは十分ではなく、現場での経験が重要と話してくれました。今回の体験を通して、私たちも現場の雰囲気とその力を体感できました。



ここが 知りたい イメージとは違った 職種事情

営業や技術職は男性が多く、事務などは女性のイメージがあったので、マルチプライではどうなのか気になり聞いてみました。最初の3カ月は総務・営業・事務ある中で、女性にもさまざまな業務をさせ、その後で、その人の適正に応じて、配属するそうです。場所によって、技術職は天井裏に入ったり、冷房がなかったりと、体力が必要になる業務もありますが、消防設備点検など、試験機を使うだけの業務は、女性や高齢の人でもできるそうです。今では、女性専用アパートが存在し、男性が立ち入り禁止の所もあるので、点検を行える女性技術職が必要とされてきます。また、技術職にトークは必要ないと思われがちですが、挨拶や普段の会話も社会人として誰が必要で、大切な営業の要素です。ある程度のコミュニケーション能力を身につける必要があります。



事務作業をする菅原さん

地域との繋がり

東日本大震災後法律が変わり、空調メンテナンスが義務付けられました。その他にも、震災の影響で新事業の依頼がありましたが、お断りしたそうです。これは、現在のお客様を大事にしたいという社長ご自身の意思です。そんな社長は、宮城県中小企業家同友会で代表理事も務めていらっしゃいます。宮城県内1200社の中小企業が集まり、リーダー企業を目指すべく勉強会を行うそうです。その中で、震災時だけではなく、地域との繋がりを作りたいという思いが生まれ、将来的に再生可能エネルギーを地域に還元したいと、力を込めて話していました。



仙台営業所にあるエネルギーシフトについてのポスター

先輩の 声

専門的な知識を覚えていくことがやりがい



工藤 翔平さん

仙台営業所
(青森中央学院大学 法学部卒)

業務主任として、消防・エレベーター・空調設備・工事の技術フォローなどの統括をしています。最初は、青森の営業所で営業職として新卒採用されました。営業職をしながら、もともと希望だった技術職に必要な資格を勉強し、取得しました。入社後に資格を取る社員も多く、会社からのサポートもあったので、安心して勉強できました。現在では、営業と技術業務のどちらも経験したことが、自分の強みになっていると思います。これは、どこの業界でも言えることでしょう。大学生の時、企業説明会でマルチプライを知り、「この企業に就職できれば」と、一社しか受けませんでした。大学では、法学部で法学について学びました。今の職種とは全く畑違いとも言える学部です。資格取得のために一から勉強するのは苦勞もありました。しかし、業務を経験していくうちに、専門的な知識が身についていくことに、今ではやりがいを感じていますし、楽しいと思えるので現在も仕事を続けられています。当社には自分と同世代の20～30代の社員が多くて、親しみやすく、仕事上の悩みなども相談しやすい環境なことも幸いているかもしれません。

工藤さんの1日

8:00	社内清掃
8:20	社員全員で社内清掃
8:30	朝礼
9:00	宮城県内の営業先回りや業務対応
12:00	昼食
13:00	現場作業
16:30	書類作成等
17:30	仕事終了

工藤さんのオフショット

オフの時は釣りや、野球をしています。釣りをする時は、朝の4時から出かけて、だいたい昼頃まで活動しています。海釣りでは、ヒラメやマゴチなどの食べられる魚が釣れます。湖では、ブラックバスが釣れ、大きいものでは体長40センチのものを釣りました。あとは、野球ですね。野球は小学校から大学までしていました。今でも、年に1～2回ですが、ツイッターで集められたメンバーで、地元青森で草野球をします。それ以外は、仕事で必要になる資格の勉強をしています。今取得を目指しているものは、電気主任技術者と二級建築士です。



海釣りをする工藤さん

記者紹介



東北福祉大学 3年 室井 真優香

中小企業同友会の代表理事も務める五十嵐社長は良い会社、良い経営環境を目指すために異業種の社長と意見交換を交わしたり、話し合うことで刺激をもらえるとおっしゃっていました。地域のリーダー会社になるためには、社員だけが学ぶのではなく社長自身も学ぶという姿勢で仕事に取り組んでいるようです。こういった考え方や進んだ行動が社員、お客様からの信頼を得ていることに繋がっているのではないかと思います。



東北医科薬科大学 1年 塚本 聖花

今回初めて消防設備の点検を見学させていただきました。火災探知機が正常に作動するかどうかを確認する作業に同行し、その作業の一部を体験しました。さらには、火災報知器のボタンを押して正常に動くかどうかを確かめるお手伝いもさせていただきました。どれも初めて見る作業ばかりで、私にとって新鮮な体験となりました。取材を通して、設備というのは設置するだけで終わりではないということを改めて実感しました。



東北福祉大学 3年 佐藤 優衣

社長の地域にエネルギーを還元したいという熱い思いが伝わりました。言葉だけでなく、マルチプライのビル自体で太陽光発電をはじめ、地下熱空調などでエネルギーの年間使用料を大幅削減していて、ガスは使用しておらず、電気代のみで年間10万円しか使っていないと聞き、ゼロエネルギーの可能性を実証していることも知れ、実現も近いのでは私も将来が楽しみになりました。

運輸業、郵便業

株式会社 丸山運送

〒983-0001 仙台市宮城野区港4-1-2 TEL:022-258-0665 FAX:022-258-0889
URL: www.the080.co.jp/



代表者 三浦 一夫
代表取締役

資本金 3,000万円

創立・設立 1962年

受賞歴 2000年 ISO9001 認証取得
2013年 ISO14001 認証取得

お客様にとって一番の運送を提供します



三浦 一夫
代表取締役

社員がやる気をもって、楽しんで働ける会社です

常に社員の士気向上を図り、社員がやる気を持ち、楽しんで働ける職場を目指しています。具体的な取り組みとしては、「ほめ達!」検定とロゴマークの導入があります。

「ほめ達!」検定とは、日本ほめる達人協会が実施している、褒める力を学ぶ検定で、株式会社丸山運送は、その仙台支所になっています。これにより、些細なことでも互いに褒め合い、相手を認める社風を作っているのです。

また、ロゴマークの「The 080」は、数字のゴ

ロで「まるやま」を表していて、ホームページやテレビCMに登場させています。ロゴマークを制作した理由は、ブランディングを意識したもので、業界内での独自性や認知度を上げるだけでなく、社員の意識を変え、家族を安心して送り出せる会社にするためだそうで、半年ほどで効果が出始め、ある社員のお子様からは、会社を訪れてみたい、という声をいただいたそうです。

採用情報

※直近の採用人数

2017年	2名
-------	----

事業内容

お客様のニーズに幅広くお答えする、マルチな会社です

企業を相手に、国内輸送と国際輸送、倉庫保管、流通加工、輸出梱包、通関業務を行っています。国内の輸送は東北内の物流と、東北から関東を結ぶ物流が中心ですが、まれに関西以西にも荷物を運ぶことがあるそうです。長距離輸送を請け負う際には、運行予定がドライバーの負担にならないよう、常に気を遣っていると話します。

お客様から預かった荷物は、一旦は倉庫に保管されます。3,700坪ほどある倉庫では、入庫から保管、梱包、出庫まで全てが行われています。梱包には専門の職員を配置し、貨物へのダメージを防いでいるそうです。

また、運送に関わるあらゆる業務にも対応できます。例えば貨物を輸出入する際には、海外現地での輸送手配、船の手配、飛行機の手配、通関、梱包、保管、国内輸送手配といったいくつかの工程があり、従来はそれぞれ別々の業者が担当しているのですが、丸山運送では全てドア・ツー・ドアで一括管理できます。これを国際複合一貫輸送と呼んでいて、大幅なコストダウンとスムーズな連絡を実現し、丸山運送の強みになっています。

求める人物像

会社・仕事はみんなで良くしていくもの

私たちは「自分が経営に携わっている」と実感することを大事にしています。全社員が経営に参加することで主体性生まれ、そのことが社員満足へと繋がります。仕事を楽しんでいると感じることで、全社員の力が発揮されと考えています。

私が一番求めている人材は「チームとして仕事を楽しくしてくれる人」です。仕事は楽しければすべて上手くいくとは限りませんが、楽しくないと上手いかないのです。

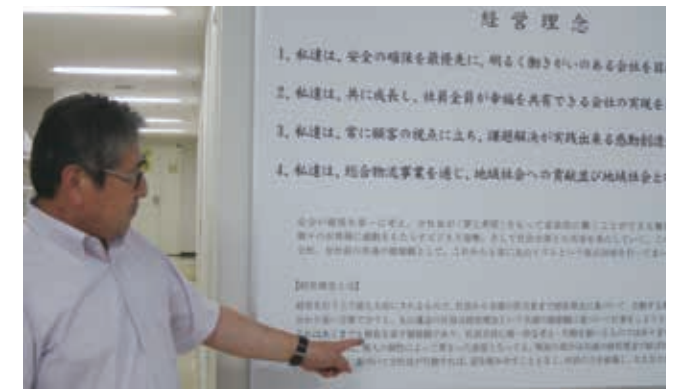
「ほめる達人=ほめ達!」という言葉をご存知でしょうか？一般社団法人日本ほめる達人協会というところが、「ほめる」素晴らしさを伝え、「ほめる達人」輩出のために行っている取り組みで、検定を受けることで「ほめ達!」の称号を得ることができるシステムです。3級、2級、1級と分かれています。当社では、さらなる円滑な企業運営のために、社員全員で受講し続けています。その効果を同業他社はじめ企業経営者に広く知って頂くために、2017年8月に、「ほめ達・仙台支所」として立ち上げを決めました。心の底から相手の良さを見だし、あらゆるものから価値を発見できる、そんな人にぜひ入社してもらいたいですね。

将来ビジョン

いつ、何時、何があっても事業を継続

苦竹に新規の事業所を取得しました。そこは以前、読売新聞印刷工場で使っていた建物で、とても頑丈な作りになっています。この場所に目をつけたきっかけは、東日本大震災でした。

津波の直撃を受けましたが、幸いにも人的被害が無かったことで、1週間程で通常業務の準備が整いましたが、ドライバーの居場所や車両を駐車するスペースを確保するには大変な苦勞を致しました。当時の教訓、そして事業継続計画：BCP（Business Continuity Plan）的な観点からも本社のバックオフィスの重要性を痛感していたところ、望んでいた施設が売却されることを知り、購入に至りました。この施設は、あくまでもバックオフィスですので、普段は使用しないため、貸しオフィスやドロンの屋内練習場として、民間に提供していく案も検討中です。



経営理念を説明する三浦代表

ポイント

- チームとして仕事を楽しくしてくれる人
- 相手の良さを見出せる人
- あらゆるものから価値を発見できる人

WISE 記者の
企業体験記

一貫輸送を支える共存共栄

駐車場には『丸山運送』のブランド文字「the080」や「Maruyama」の文字が描かれた、青と白のカラーのトラックが整列していました。そのトラックは見た目にも大きく、総重量4tから20t対応のものまでありました。さらには食品や精密機器など、それぞれ輸送品の品質管理に合わせた特注のトラックが数多くありました。

私たちは、普段乗る機会がないだろう4tトラックの運転席に特別に座らせてもらいました。車体は言うまでもなく高く、広く見渡すことができました。素人目にもこの感覚の運転には慣れとコツ、そして長距離・地場の運送での持久力が必要だろうと感じました。

敷地内には日本だけでなく海外から届いたと思われる国際海上コンテナがたくさん積まれていました。一貫輸送を得意とする丸山運送でも、輸送行き来の際に空運行など無駄をなくすために、車両や積荷を他社と共有しているそうです。物流業界では、こうした効率化のために、各国・競合とも共存共栄のシステムが構築されています。倉庫では、私たちがスーパーや家電量販店でよく見かける商品を、段ボールに入った形で見つけることができました。これらは発注元からの出庫要請まで長期保管をするものから、一時保管のものまで、この広い倉庫内でも慌ただしく管理・調整されています。そのため、誤出荷などを防ぐバーコード管理が作業員のものとなっていました。私たちの手元に届く商品も、いまや海外輸送のものが多く、丸山運送には徹底した安全・安心のシステムがありました。



ここが 知りたい インナーブランディング

丸山運送では現在、会社のテレビCMを放映しています。CMやSNSなどの広告は、企業が消費者を相手に放映するイメージが強いですが、丸山運送のように、企業を相手に取引を行う会社がCMを放映するという取り組みをするのには、どのような意図があるのか気になり聞いてみました。

「あのCMは、実は顧客獲得のためにやっているものではないんですよ」と、三浦代表。社員にとって何が大切なのか、それを考えたときに「家族や子供に誇れる会社になること」であり、その為にも社員自身が姿勢を正していくことが大事であるという思いでCMをつくることにしたそうです。

その結果、CMを観た子供に「お父さんはこういう会社で仕事をしているんだね」と興味を持ってもらえ、社員の意識が変わってやる気に繋がった事例が数多くあるようです。

このように丸山運送では社員の士気向上、いわゆるインナーブランディングに力をいれており、「the 080」というロゴも、その取り組みの一つだそうです。社名をそのまま表記するだけでなく、語呂で「まるやま」を表すthe 080とし、制服や会社HP、さらには一部車両に表記することで、企業に掲げる理念や特性を目で見える形にし、同業他者とイメージや信頼感を明確に差別化する狙いがあるそうです。ちなみにthe 080ブランドは「理念の統一、行動の統一、視覚の統一」の3要素からなると教えてくださいました。

震災時の迅速な対応

業界内では企業間の競争はもちろんですが、同時に協調も図られているようで、お客様優先のスタンスはどこも変わらないために、発注に対して自社の保有するトラックが不足しているときは、同業社同士で補い合うことも多いそうです。このように常にさまざまなところと連携をとっているからこそ、他社からのサポートも受けながら、震災後驚くべき速さで普及に向かえたといえます。

震災後は確実に輸送できる手段として、トラック輸送のみならずJRでの輸送も開始したそうで、これはトラックドライバーの長時間労働の回避に役立っているということです。



丸山運送が保有するトラック

先輩の 声

広く世界と東北地域とつながれる場所



櫻井 颯哉さん
物流センター運営G
(宮城県鹿島台商業高等学校卒)

本社敷地にある倉庫内で、東北各地に輸送予定のあらゆる商品の保管、検品、出庫依頼業務などを全般的に行っています。1階は1,350坪、2階は1,840坪の広いスペースには、長期的に保管が必要な商品や短期的に入出庫を行う商品が置かれ、管理や調整が常に徹底されています。学生時代はカーに精を出していたこともあり、体をよく動かすこの仕事に興味を持ちました。仕事となるとまた違った力を使うことになりますが、世界とつながり、東北地域の物流の拠点として安全・安心を作り出す仕事に、今は魅力を感じています。また三浦社長をはじめ、親しみのある社風も魅力のひとつだと思っています。事務所や倉庫のよく目に入るところには、社内で募集・選出した安全運転などの標語が貼られています。これによって部署や立場が関係なくとも、同じ社の一員として共通の目標を持つことができますし、自分としての目標も定めやすくなっている気がします。今年の春に入社したばかりで、今はまだ先輩に従いながら仕事を覚える毎日です。今後、一人前として自分ができる仕事を増やすためにも、フォークリフトなどの資格取得にも励んでいきたいです。

櫻井さんの1日

8:00	始業
8:25	部署ごとの朝礼
9:00	コンテナ荷おろし
12:00	お昼休憩
13:00	仕分け作業
15:00	自分ができる補充・追加業務
17:00	終業

櫻井さんのオフショット

仕事に慣れるまでのしばらくは、仕事が終わってから家に着いてすぐ寝てしまうことが多かったそうです。ですがだんだんと、仕事にも疲労にも慣れ、自分に合った休みの取り方も覚えてきました。休みの日には小学校から仲のいい友人と、ツーリングに行くのが楽しみの一つです。松島までの海岸沿いを風に吹かれながら走るのとはなんとも、気持ちがよいものです。今はまだ原付バイクですが、やがては大型バイクに乗って走りたいと思っています。目的地も北海道など、遠くに足を運んでみたいです。



趣味のバイク

記者紹介



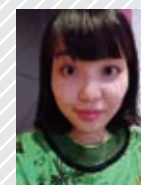
東北大学 2年 菅野 雄哉

今回の取材は、まず第一に緊張しました。というのも、企業の方と一対一でお話をさせて頂くのは初めてだったからです。取材に行く前は、なんとなく怖いイメージを持っていて、正しい敬語とマナーで取材ができるかが不安でした。でもいざ訪問してみると、社員の方が笑顔で丁寧に対応してくださり、柔らかい雰囲気ですぐ取材を進められました。ただ、マナーの面や会話の続け方で反省点が多かったので、次回に生かしたいと思います。



東北学院大学 3年 山石 有希

私がまず驚いたのは「社長室がない」ことです。常に社員の働きを間近でみたい、という思いを持つアットホームな人柄の代表の下だからこそ、社員は力を発揮できるのでしょう。また、倉庫を拝見させてもらった際にはおびたしい数の商品がありました。社員の人は1日かけて仕分け、運送していきます。普段当たり前のように身の回りに溢れているものも、必ず誰かの手を経ているということに気づかされました。



宮城学院女子大学 4年 及川 裕未

一貫輸送を得意とする丸山運送であっても、業務の効率化・余分不足を補うためには、取引先企業や競合会社との密な連携がなくては物流が成り立たないのだと知りました。広く世界へ、地場を支える東北の拠点として安心・安全輸送は、これからの時代ますます求められていくでしょう。取材を終え私は、今後あらゆる商品の受け取り手側として、いろいろな場所と手間を経由した先に今があるのだと感謝して物を受け取りたいです。

建設業

株式会社 ミヤックス

〒981-3204 仙台市泉区寺岡1丁目1番地の3 TEL:022-777-5888 FAX:022-777-6888
URL: www.miyax.jp



代表者 高橋 文蔵
代表取締役社長

資本金 2,000万円

創立・設立 1948年

受賞歴 2001年 ISO9001取得
2002年 ISO14001取得
2005年 仙台市エコオフィスを認定
2016年 仙台市中学生職場体験活動功
労者表彰
2017年 安全運転管理優良事業所・優
良管理者表彰



遊具作りを通して、地域コミュニティー のみんなを笑顔に



高橋 蔵人
取締役 企画開発室長

誠実な姿勢でお客様の信頼を得る

「戦後の日本を教育の面から蘇らせたい」という
思いから会社を創業したそうで、創業当初は地
球儀、ピーカーなど学校の教材を扱ってしまっ
たが、「遊具を作って欲しい」というお客様から
の声があり、遊具も扱うようになったそうです。今
では遊具事業に力を入れていて、「みやぎの・こど
もを・げんきに」するために、地域の方々が公
園について話し合う、「公園会議」を主催してい
るとのこと、遊びを通して子育てを応援してい
るのです。創業70年という歴史をもつミヤックス

では、これからも遊びと遊具を考え続けていく
そうです。「企業が生き残ることはとても難しい時代
ですが、重要なのは会社を続けていくこと。その
ためには、経営理念にもなっている「誠実」で
あることが大切」と話してくれました。誠実である
ことで、お客様の「信頼」を得ることができ、そ
の「信頼」が、会社を長く続けていく秘訣だそ
うです。

採用情報

※直近の採用人数

2015年	2名
2016年	1名
2017年	1名

事業内容

お客様を第一に考え、求められるものを提供

オフィス事業と遊具事業の2つの事業を行っています。
オフィス事業は、机、イス、コピー機など、働く空間に
関わる全てのものを扱う、「働く場」をつくる事業です。
遊具事業は、遊具の販売、点検、修理などを行い、公園
や校庭など、子どもたちの「遊び場」をつくる事業です。
公園の質を変えることを目指し、事業を展開している
そうです。最近では、公園を使う機会や地域間のコミュ
ニケーションが減ってきているそうで、多くの人々が公
園に集い、賑わうことで、公園をコミュニケーションを
とる場として活用して欲しいそうです。そのために必要
なことは、それぞれの地域に合った公園をつくること。
地域によって暮らす人々は違って来るため、使う人が求
めているものをつくり、地域住民が公園に行くきっかけ
をつくり出していくそうで、使う人を第一に考え、お客
様に求められているものを提供することが大切だと話し
てくれました。

求める人物像

心からの笑顔と、遊具に対する熱い思い

スキルやステータスより、笑顔が素敵だったり、誠実だっ
たり、人柄を重要視しています。もちろん資格や、出来
ることが多いに越したことはないですが、人柄には勝り
ません。例えば面接では、履歴書をしっかり埋めようと
しているか、心から笑っているかという点を見ます。と
ても簡単で、当たり前のチェック項目に思えますが、こ
のような点は人柄が見えるわかりやすいポイントです。
また、夢を語れる人に惹かれます。本当に入社したいと、
会社に魅せられて就職活動をしている人は、何としても
入ろうとします。そういう人は固定概念にとらわれず行
動を起こすことができるものです。そんな思いを持って
いる人を採用したいですね。例えば既卒であっても、入
社したい情熱が伝わってくる人とぜひ一緒に働きたいと
思います。絶対にこれがしたいという、職に対する熱い
思いを持っている人がいたら、文系理系問わずやりたい
ことに取り組んでももらいたいと考えています。それほど、
情熱的な人に心打たれてしまうのです。最後に、公園の
遊具を作る身としては、やはり遊ぶことが好きな人を採
用したいですね。

将来ビジョン

民間主導で作る「理想の公園」を全国へ

私たちは主に遊具を作る会社ですが、これからは「今ま
でにない理想の公園」を作る事業を展開しようと構想し
ています。公園づくりの現場では、作り手である行政の
計画と、利用者である地域住民の理想に差が生じてしまっ
ています。その課題を解決すべく、当社と利用者が公園
について話し合う場を設け、集まった意見を元に新しい
モデル作りを行っています。具体的には地域コミュニティー
の中心となる公園を、住民と共に計画して作ろうと考
えています。その第一歩として、今年から「MIYAX子育
て支援プロジェクト」という取り組みを始めました。将
来的には民間主導で作られた公園を、当社から全国へ広
めていきたいです。
今年で創業から70年を迎えました。私たちはこれからも
利用者に寄り添い、信頼される「長く続く会社」を目指
して事業に取り組んでいきます。



常に現場と会社を忙しく移動。

ポイント

- 笑顔が素敵な人
- 誠実な人
- 夢を語れる人
- 情熱を持って仕事できる人
- 遊ぶことが好きな人

WISE 記者の
企業体験記

公園を、遊具を作る夢の工場！

私たちは、工場で植木置きづくりを体験させていただきました。工場は本社から車で一時間の栗原市にあります。自然がいっぱいで、裏には畑もありました。案内していただいた高橋さんはここで野菜を育てていて、会社の芋煮会で活躍するときもあるそうです。工場は三棟の建物がU字に配置されており、広々とした開放的な空間。滑り台やシーソーが、パーツごとバラバラに乾かしてあったり、置いてあったり、公園はこんな風に作られていくのだとしみじみと思いました。私は常々、公園は子どもを受けようなかわいいうパステルカラーで構成されていると感じていたのですが、実は遊具の色は地域で色が指定されているそうです。例えば太白区は、青が多いそうです。植木置きづくりは、小さなベンチを作る要領で、まず金属に穴を開けます。穴を開けるのも一筋縄ではいきません。印をつけて真っ直ぐドリルを当てて穴を開け、そのあと摩擦でトゲをなくします。火花が散って迫力満点ですが、直視しすぎると目が焼けてしまうそうです。この摩擦を怠ると、使用者のけがに繋がるので大切な作業です。ちなみに遊具でのけがは、教育委員会や役所の公園課から報告がくるとのこと。それから熱で溶接、色付けして乾かせば接合部は完成です。色付けにもコツがあり、一気に吹きつけるのではなく、軽く何度も吹き付けていくのです。次にベンチ用のプラスチック素材を切り、二段階の摩擦でつるつるにします。組み合わせてねじを締めれば完成。優しく教えていただいて、作業も面白くて、とても楽しい時間でした。



ここが 知りたい ミヤックスと盲導犬

社屋の玄関にあった、「公益財団法人日本盲導犬協会」のパンフレットが目を引きました。話を聞かせてくれた企画開発室長の高橋蔵人さんに、ミヤックスと盲導犬の繋がりについて聞いてみました。ミヤックスに関係のある30社の企業と、震災を機に立ち上げた「山桜会」という協力ががあります。中小企業1社ではなかなかできない社会貢献も、30社集まることで達成できることがあります。盲導犬協会への支援は、社員の父親が「仙台訓練センター」の所長を務めていたことから始まりました。盲導犬育成には費用がかかります。その寄付を集めるため、イベントなどを企画しています。また、東日本大震災による孤児支援活動に取り組む「認定特定非営利活動法人 J.E.T.O. みやぎ」への支援にも取り組んでいます。



支援している「盲導犬協会」の盲導犬

みんなで作ろう！ 「未来の公園」

今までにない、新しい公園をつくりたい。そう考えるミヤックスは、「MIYAX 子育て支援プロジェクト」に取り組んでいます。その中で注目したのは今年から始められた「公園会議」という試み。お茶やお菓子を囲みながら、子育てをするお母さん達と「公園」をテーマに話し合います。「カフェが近くにあると行きやすい」、「大人も楽しめるといい」など出る意見はさまざま。和気あいあいとした雰囲気だからこそ出てくる本音を聞きながら、全員で未来の公園を思い描きます。他にも公園を使ったイベント「公園フェス」や、子育ての情報を発信するアプリ開発なども構想中。これから身近な公園が、さらに「ワクワクする場所」へと変わっていきます。



「公園会議」の様子

先輩の 声

学生時代に学んだことをフル活用して仕事をしています



松倉 大輔さん

生産事業部 工事課
(東北職業能力開発大学校
生産技術科 卒)

技術職で採用され、今年で入社から5年目になります。遊具点検や施工管理などが主な仕事です。現場での仕事は忙しいですが、公園を使う子どもたちから、「ありがとう」と直接声をかけてもらえることがとても嬉しいです。次第に大きな仕事や、会社を代表して取材対応などを任されるようになり、やりがいを感じています。ミヤックスは在籍していた学校の先生から紹介されたことがきっかけで知りました。その後会社説明会とインターンシップに参加し、採用試験を受けて入社しました。学生時代は工業技術などを専門に学んでいたため、生かせる仕事に就けたことに喜びを感じています。もし技術職で就職先を探しているのであれば、資格をできるだけ多く取得しておくのが良いと思います。私も学生時代に、重機操作や溶接など複数の資格を取りました。資格はいわば「ものさし」です。企業側も客観的に評価してくれますし、自分の特技が仕事に生かせるかを推し量ることができます。また、実際に働いている人と話をすることや、インターンシップなどを通して実際に体験することも大事だと思います。これは技術職に限らず、どの職業にも当てはまります。しっかり自分の目で見て確かめましょう。きっと、何年も続けられる理想の仕事を見つかることができると思います。

松倉さんの1日

7:10	出社
8:00	現場での作業（遊具点検、施工管理）
12:00	昼休み
13:00	現場での作業（遊具点検、施工管理）
16:00	作業終了、帰社して書類作成
18:00	帰宅

松倉さんのオフショット

仕事が休みの日は、二人の子どもと一緒に過ごしています。最近、下の子が一ヶ月を迎えました。成長は早いもので、些細なことからも実感しますね。もちろん休日の過ごし方は子ども中心にはなりますが、私にとって何よりも幸せな時間です。写真は子どもを連れて、外に出た時に撮ったものです。少しずつですが一緒に外出できるようになり、楽しみを共有できる時間も増えました。子どもが成長して、公園へと連れていけるようになったら、自分の手掛けた公園と一緒に遊びたいです。その日が来ることを心待ちにしています。



子どもと遊んでいる時間が、至福の時間

記者紹介



東北学院大学 4年 市川 文章

取材からの帰り道、ふと近所の公園に足を運んでみました。「今の遊具には改善の余地がたくさんある。もっと楽しい公園をつくりたい」ブランコに揺られていると、取材で聞いた話が次々と蘇ってきました。いつの間にか私は、自分が思う理想の公園について考えるようになりました。働く社員の方それぞれが抱く熱い思いに触れ、心揺さぶられた取材でした。



東北福祉大学 3年 菅野 理香子

街を見渡すとたくさんの公園があります。何気なく利用してきた公園ですが、その裏側では安全に利用できるように、遊具の点検や修理を行っていることを知ることができました。「すべての商品が自慢」とお話しする姿から、自信をもって遊具をつくっているのだと感じました。地域に合った公園、そして、使う人を第一に考えた遊具をつくることで、これからはたくさんの人を笑顔にしていけるのではないかとワクワクする取材でした。



東北福祉大学 3年 菅野 綾香

本当に楽しい取材でした。社員の皆さんがとても優しくフレンドリーで、人柄を見ているということがひしひしと伝わってきました。昔から外で遊ぶ子どもだったので、公園の遊具を作る会社を見たいと思い参加させていただいた取材でしたが、公園の在り方、未来について考えるきっかけになりました。公園がこれからもずっと続いていくように、私も自分なりに答えをみつけないといけないと思います。お忙しい中、お時間本当にありがとうございました。

医療、福祉

株式会社 ゆらリズム

〒981-8002 仙台市泉区南光台南1-1-3 TEL:022-251-2021 FAX:022-251-2031
URL: <http://yura-rhythm.com>



代表者 野崎 健介
代表取締役
資本金 653万円
創立・設立 2011年



音楽療法で地域全体を元気に



野崎 健介
代表取締役

誰もやったことがない音楽リハビリデイサービスへの挑戦

全国初の音楽リハビリデイサービスを実施しているゆらリズム。なぜ音楽に着目したのかというと、音楽自体が心身に良い影響をもたらすうえ、地域をつなげる1つのツールになるのでは、と考えたそうです。東日本大震災の直前に会社を立ち上げた際には、食事や入浴が重視され、なかなか音楽療法が受け入れられませんでした。しかし復興公営住宅への出張音楽リハビリ教室などの活動により、次第にゆらリズムの名が知られ、地域の人たちからも信頼されていくようになりました。ま

た人型ロボットPepperの音楽リハビリアプリを他社と開発し、実証実験を行っています。Pepperの導入により、介護職員不足の解消を目指します。さらに日本であまり進出されない南米が穴場であると考え、JICAのつながりからブラジル・ペルーにて音楽リハビリを実施。向こうのメディアに取り上げてもらったことをきっかけに、日系人の受け入れ・研修を日本で行うようになりました。

採用情報

※直近の採用人数

2016年	4名
2017年	4名

事業内容

子どもからお年寄りまで、多世代共生社会の実現へ

主に高齢者向けの音楽リハビリプログラムと、障がい児向けの放課後等デイサービスを行っています。音楽と運動を組み合わせた独自のプログラムにより、介護予防のサポートを実施。また介護福祉施設や自治体への講師派遣事業を展開しています。放課後等デイサービスは、障がい児向けの学童クラブとして、基本的な生活能力の向上と日常生活の充実に支援。ゆらリズムが目指すのは「音楽による地域の多世代共生」。子どもから高齢者まであらゆる人々が健康に楽しく暮らせる社会の実現に向けて事業を展開しています。最近では2017年の7月にPepper店长による「南光台子ども食堂」を開催。放課後デイサービスの子どもたちが育てた野菜の販売や、元ゆらリズム利用者によるイベントを開催。子どもや大学生、子育て世代など、多くの人々が参加してくれました。地域の多世代共生への第一歩となった子ども食堂は、今後も定期的に開催していく予定です。

将来ビジョン

新しい「福祉」のモデルを南光台でつくり上げる

2020年までに地域に開放された音楽あふれる「ゆらリズムカフェ」づくりを構想しています。現在お年寄りの医療や介護、介護予防の保険が連携できる「地域包括ケアシステム」を、国が2025年までに整備しようとしています。システムの中心は地域エリア。私たちが事業を展開している南光台地域は、高齢化率が高く多くの子どももいます。高齢者や子育て世代が集まれる場所を提供することで、地域共生型のコミュニティをつくりたいと考えました。このカフェは、放課後デイサービスを卒業した障がいを持つ人が働き、お年寄りが食事をしながら運動や予防介護に取り組める場所です。子どもたちや子育て中のお母さん達も来てくれると嬉しいです。また、ロボットの「Pepper」を使ってヘルスケアデータを集め、介護に役立つためのアプリ開発にも着手しています。このような新しい福祉施設の「モデル」をこの南光台からつくりま

求める人物像

新しい発想で考え、子供たちと「楽しく」向き合える人

2018年4月に2カ所目の放課後デイサービスが、南光台地域にオープンする予定です。それに伴い正社員を募集しています。最も理想である人材像は「子どもたちに好かれる人」です。その為には、自身が「子どもを好き」なことはもちろんですが、同じ目線に立って寄り添い、好かれる人間性を持ち合わせていることが望ましいですね。加えて、放課後デイサービスは子どもが相手。何が起るか予測ができません。フットワークの軽さと、臨機応変に対応できる力が求められます。資格は利用者の送迎を行うため普通自動車免許が必要です。また保育士、教職免許、児童指導員などの資格があれば、採用時有利になります。しかし能力よりはやる気を重視しているため、経験などは特別重要視している訳ではありません。また「ゆらリズム」は、音楽を事業の中心に据えています。音楽を使って「何かできる」と思ってくれる人に来てほしいと考えています。楽器演奏はできなくても構いません。資格などに加え事業に共感し、新しいアイデアと一緒に形づくっていける人と、ぜひ一緒に働いてみたいと思っています。



スタッフ全員が楽器を手に取り大合奏

ポイント

- 子どもたちと過ごすことが幸せ
- 音楽、楽器演奏が大好き
- 新しいものが好き
- アイデア・発想を形にできる人

WISE 記者の
企業体験記

リラクゼーションヨガを体験

今回私たちは、デイサービスの利用者と一緒にリラクゼーションヨガを体験しました。リラクゼーションヨガを行うと、心と体をほぐすことができ、介護予防も繋がります。

まず始めに、マッサージとストレッチで自分の身体をほぐしました。行ったのは頭皮のマッサージ、耳の裏のくぼみのマッサージ、首の運動、肩の運動など、1人でも簡単に取組めそうなものがほとんどです。血行の促進や各関節の可動域の広がりなどの効果が見込まれるそうです。

特によかったのは、ふくらはぎのマッサージ。ふくらはぎは第二の心臓と呼ばれており、マッサージをすることで血行が良くなるとのこと、私は体験が終わった後も寝る前に行っているのですが、前より快眠できています。

一連の運動が終わった後、15分間目を閉じて瞑想をしました。癒される音楽に耳を傾けながらリラックスする時間です。思わず寝てしまいそうでした。

リラクゼーションヨガが終わった後に行ったのは脳トレ。まず、鼻を右手で持ち右耳を左手で持ちます。合図に従って手を叩いた後、鼻を左手で持ち左耳を右手で持ち、また合図に合わせて手を叩いて最初の動作に戻る運動をしました。最初は失敗しましたが、何回か行くと間違わなくなりました。シンプルですが、認知症の予防につながる運動だそうです。

最後に、マラカスを両手に持ちながら「銀座カンカン娘」という曲に合わせて振付をしました。スタッフの方の伴奏に合わせて、リズムに乗り楽しみました。音楽を通して場

に一体感が生まれ、明るい雰囲気になったと思います。



ここが 知りたい 「ゆらリズム」のはじめの一步

どうしても聞いてみたかった話がありました。それは東日本大震災の話。設立から間もない「ゆらリズム」を襲った大きな災害を越えて、どのように事業を展開したのでしょうか。代表である野崎さんに聞いてみました。

震災によって会社が直接受けた被害は、入居している建物の外壁の一部が崩落し、デイサービスのオープンが予定より遅れるなどの事態が発生しました。

自分たちも被害を受けたにもかかわらず、ゆらリズムは仮設住宅で「音楽リハビリ」などの出張デイサービスに取り組みははじめます。働くスタッフの二名が石巻出身だったこともあり、主な活動先は石巻市内でした。2011年から各仮設住宅に赴き、ほとんど毎月活動を行ったそうです。次第に「地域包括支援センター」として行政から委託を受けるようになり、活動範囲も石巻市内に限らず、被災した多

くの地域へと広がりました。また、音楽を使ったリハビリやヨガが注目を集め、新聞やテレビなどのメディアや、人々の口コミを通して取り組みが認知されるようになりました。仙台市地域包括支援センターから、講師として派遣依頼が届くまでになりました。

発災から7年目を迎える現在も、仮設住宅で行う出張リハビリを毎月継続しています。「音楽で健康も生きがいも」。ゆらリズムの活動は、ホームタウンである南光台だけでなく、被災地で生きる人々の大きな“支え”になっています。



被災地で行われた音楽リハビリの様子

先輩の 声

自分の好きなことを生かして



中西 薫乃さん

音楽リハビリトレーナー
(東北福祉大学 総合福祉学部 卒)

デイサービスで音楽リハビリプログラムに携わっています。入社のきっかけは、学生時代に参加した3カ月間のインターンシップです。自分が好きな音楽を通して、一人ひとりと深く関わりながら仕事ができる場所だと思いました。限られた時間の中で、性格の異なる利用者の方々と臨機応変に対応しながら、全員に満足していただくという責任を伴う仕事です。決して楽な仕事ではありませんが、やりがいを感じるのは、利用者の方に「今日は楽しかったよ」と感謝の言葉を言われた時です。逆に「もっと、こうしてほしい」などの要望の言葉をかけていただくこともあり、自身の成長に繋げることができるのもやりがいの1つです。

私が大学4年間で頑張ったことは、高齢者向けの運動教室での実習と、その実習を通して見つけた課題を研究して報告するという活動でした。手段は少し異なりますが、高齢者と接するという点で、現在の仕事と繋がっていると思います。また学生時代にバンドサークルでベースを弾いていたことも、今の仕事につながっているのかと思います。

学生時代には、自分が興味を持ったことや、やりたいことにぜひ挑戦してみてください。意味が見出せなかったり、時間の無駄のように思えても、将来どこかできっと役に立つと思います。

中西さんの1日

8:45	出勤・朝礼
9:00	利用者様迎え入れ・バイタルチェック
9:50	プログラム（ヨガ）
11:10	プログラム（音楽）
12:30	昼休憩
13:30	事務作業
16:00	サービス終了・送り出し
16:10	終礼
16:15	片付け・残務処理
17:45	退勤

中西さんのオフショット

休みの日に家にいる時は、ペットの猫と一緒に過ごしています。とてもおてんばなはずら好きで、甘えん坊な猫です。おもちゃと一緒に遊んだり、だるまさんが転んだをしたり、一緒に昼寝をしたりしています。

家事や事務作業のために、相手をしてあげられない時間が長くなると、邪魔をしてきます。休日は友達と会ったりするために外出していることも多いのですが、家に帰ると玄関までお出迎えにきてくれます。いつも猫から元気をもらっていて、それが仕事への活力にもなっています。



猫との時間がリフレッシュの時

記者紹介



宮城学院女子大学 2年 芦名 麻知

私は今回初めてデイサービスセンターに行きました。福祉施設というと正直、若者は近寄りがたいのではないかというイメージがありました。しかしゆらリズムさんに通っている方は子ども、お年寄りともに元気で明るい方が多く、私自身がその方々から元気を分けてもらいました。野崎社長の話してくださったような、子どもからお年寄りまで関わり合うことができる多世代共生社会が、多くの地域で実現して欲しいと思いました。



東北学院大学 4年 市川 文章

社屋に入ると、明るい音楽と楽しそうに歌う利用者の姿が目に見え込んできました。介護やデイサービスと聞くと忙しく、大変そうなイメージを抱いていました。しかし働くスタッフさんは常に笑顔。心からの仕事を楽しんでいると感じました。その理由を聞くと「音楽が好き」というシンプルな回答。取材しに行ったはずの私たちも、自然とリズムを取り、気づけば一緒に歌っていました。あらためて音楽が持つ魅力を感じました。



東北大学 3年 三木 拓弥

真面目に、そして楽しそうに、利用者と向き合っている社員の姿が印象的でした。デイサービスや放課後などデイサービスの現場を見るのは、実は今回が初めてで刺激的でした。常に音楽がある空間で居心地が良かったです。リラクゼーションヨガも楽しく体験させていただき、取材の一環だということを一瞬忘れてしまいました。お忙しいなか、インタビューの時間を作ってくださった方々には心より感謝しています。

分類不能の産業

RaNa extractive, inc.

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1 第一生命タワービル19F TEL:022-724-7793 FAX:022-724-7763
URL: <https://www.ranaextractive.com>



代表者 木下 謙一
代表取締役社長兼 CEO

資本金 1,000万円

創立・設立 2007年

受賞歴 Google PLAY BEST OF APPS 2016 / 2017受賞「SONY 三日坊主防止アプリ みんなチャレ」ACC CM FESTIVAL 2016 インタラクティブ部門「森永製菓 開かずのチョコボール&開かずのカンヅメ」



課題を解決に導くための クリエイティブ開発を



秋山 洋
アートディレクター
辺見 直哉
テクニカルディレクター

企画立案から制作まで行うクリエイティブエージェンシー

実制作をメインとしたWeb制作会社が多い中、制作だけでなくクリエイティブディレクションも行っているのが特徴です。ソニーミュージックのキッズ専門ブランドKIDSTONEと共同で制作したガジェット「VOLLY」では、「音」、「体を動かすこと」を取り入れた子どもたちの新しい体験をつくり出すというテーマを受け、どういった玩具にするかというプロデュースから制作まで携わったそうです。ガジェットには自分で自由に声を吹き込むことができ、ぶつけたり転がしたりなど物理的な刺激を与えることで、吹き込んだ声が転がるスピードや衝撃の強さによって変化して再生されます。またガジェット

本体にシールを貼って好きなように顔を作ることができます。そうすることで自然と愛着が湧き、「ガジェット」としてではなく、「VOLLYというもだち」として子どもたちが接するようになります。刺激の与え方を少し変えるだけで全く異なる音声が流れるため「こうしたらもっと面白くなるのではないかな」などと、自分で考える力が身に付きます。話すことの大切さ、物を大事にする気持ちを育む新しいタイプの玩具です。こうした玩具など幅広いジャンルでの企画立案から制作にまで携わるクリエイティブエージェンシーです。

採用情報

※直近の採用人数
2017年 7名

事業内容

社員全員で一つの案件に取り組みます

主な業務内容はインタラクティブ広告の制作です。Webサイト制作やアプリ開発はもちろん、映像撮影やサーバー構築など幅広く手掛けています。まず仕事の依頼が来たら全員でどのようなコンテンツを作るかアイデアを出し合います。次に、例えば女性向けファッションブランドからの依頼だと、同じ女性の視点がある方がいいと女性社員を制作チームに入れるというように、案件ごとに一番適任な社員を集めて制作チームを作り、連携してサイトを作り上げます。スマホで撮影した写真や、イラストを使って自分だけのオリジナルラベルを作ることができるサッポロビールのサービス「フォトビー」では、ラベルのフレームとビールを入れる箱のデザイン制作などを行いました。ほかにも実際にサービスを利用する方に、どのような時に利用してほしいかなど具体的なイメージがわかりやすいようにラベルビールのおすすめの使い方を説明したムービーの撮影も行いました。

求める人物像

日常に潜む種を見つけ、まいてゆく

仕事をするにあたって「センス」という言葉は好みません。それは、システム設計やデザインもすべて、勉強・経験などの地盤があってからできるものだからです。その中で「ものづくり」をする過程をどれだけ愛し、どれだけ楽しめるか。使う人の気持ちになって、興味を誘うもの、見たいもの見せられるか、その視点が大事です。映画を観ることや海外旅行に行くことはいい材料になりますね。未体験の領域に躊躇なく飛び込むことができる勇気は、仕事で、千差万別ある案件に当たる中で固定概念に縛られず、挑戦していくことにつながるでしょう。さらに、そこから何かを発見し、新たなきっかけ・種にできるか。それは、ものづくりの視点としても、非常に役立つはずです。そして、その種をいかに仲間と共有できるか。日々の業務では、1つの案件を複数人のチームで担当します。ここでは、自らの知見やアイデアを、メンバーと共有しながら、積極的なコミュニケーションしていく必要があります。ものづくりは日々の生活と密接です。そういった、日常のつながりを大事にできる人を求めます。

将来ビジョン

クリエイティブコンサルティング

「クリエイティブ・エージェンシー」として、エンジニア・デザイナーによるWebコンテンツ制作に終始するのではなく、企画段階から独自の経験や発想を集めたストーリー、企画を作っていきます。会社全体としては、企業からの案件が多いですが、最近では、この仙台の地に身を置くオフィスということで、行政や自治体からの相談も増えています。宮城県の丸森町では、人口減少と若者の流出の問題に取り組みしました。そこで、移住や起業などを呼びかけるWebサイトを構築。Web上の支援のほか、起業した後のアートディレクションサポートも行っていく予定です。クリエイティブの目線と市民の目線の両眼を武器に、「こうしたらこうできるはず」といった提案・開発をWeb広告・企画でアプローチしていきます。案件そのものだけでなく、企業や自治体のブランディング、未来まで考えてものづくりをしていきます。



ミーティングでの意見共有の様子

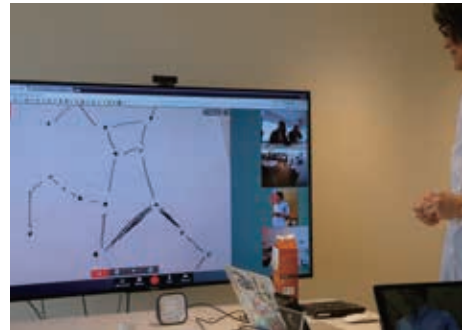
ポイント

- システム・デザインの勉強、経験をどれだけ積んだか
- 作り手と使用者、両方の視点
- 自らの発想・経験を、いかに仲間と共有し、高められるか

WISE 記者の
企業体験記

知識を共有しあい、 創造力を磨く

毎週水曜日に行われている「アカデミー」に参加させていただきました。「アカデミー」とは、ビデオカメラを通して東京本社と仙台オフィスをつなぎ、担当社員が全体に向けてお題を出し、それについて話しあうミーティングのことです。お題は自分の興味関心のあることや、日ごろの疑問など何でも自由だそうです。かつては「アートとは何か」、「仕事を効率化させるには」などのお題があったそうです。お題について話し合うことで、社内のコミュニケーションを活性化したり、アイデアを共有し、新たな企画をひらめくことにつなげることが目的です。今回は秋山さんがお題を担当するアカデミーに参加させていただきました。秋山さんのお題は「ピタゴラスイッチ」などで有名な、佐藤雅彦氏の著作『『新しい分かれ方』を読んで』です。著作には視覚と固定概念による思い込みによって見方が変わる図と、それに対する解説が載っており、分かることの喜びと楽しさを体感できる本となっています。本を読んで秋山さんは、「分かる」ことを、やってみて分かること、視点を変えることによって分かること、分かるようになるほどと思うことの三つに分析し、その三項目について個人・チームに分かれ意見を出し合いました。例えば「MAXやまびこは二階建て新幹線なので、一階と二階で視点が異なると景色も全く異なるため、乗車券の値段に差をつけてもよいのではないか」などという意見が出ていました。実際に社員に混ざり「アカデミー」に参加させていただくことで、知識を共有することができ、創造することや知識を深めることの楽しさを体感することができました。



ここが 知りたい

クリエイティブな発想の源

手掛けている「インタラクティブ広告」は、利用者が思わず携帯をスクロールしたくなる仕掛けが組み込まれています。ゲームの要素を取り入れたある広告では、買い物クーポンを獲得するまでにヒーローが登場するなど、ストーリー性のある体験型の広告となっています。一般的にイメージする受動的な広告とは一味違い、見ている人が手と頭を動かす広告。面白い発想はどのようにして生まれるのか、疑問を投げてみました。「シャワーを浴びていたら、パッと浮かんで」。そんな返答を予想して待っていると、意外な答えが返ってきました。アイデアの発想は、個人の趣味が根源となっている、ということです。日頃のインスピレーションを、いかに仕事とリンクできるかがカギになるそうで、趣味や関心のある事柄と、仕事上の問題点をつなげる力が大きく関わっている

るといいます。温泉旅行やヨガ体験など、月1回社内で開催するイベントも大切なもので、リラックスしている時のインスピレーションが、仕事につながることもあるそうです。夏場、東京のオフィスで開かれた浴衣まつりでは、扇子片手に、浴衣姿でキーボードを打つ斬新な光景が広がりました。リフレッシュする時間やいつもと違う刺激が、新しいものを作るクリエイティブなスイッチを入れることへつながるそうです。



浴衣姿で仕事を 東京オフィスの様子

先輩の 声

好きなことを生かして働く



三浦綾華さん
テクニカルチーム
(東北福祉大学・
情報福祉マネジメント科卒)

Web制作を行うテクニカルチームに所属し、アシスタントとして働いています。先輩の指導の下で、1日2、3個の案件を扱っています。もともと、パソコンが好きなこともあって、大学ではパソコンに触っていただける分野がよいと思い、情報福祉マネジメント学科を選びました。この学科では情報を福祉に生かす勉強はもちろん、システム開発やプログラミングの実習などもありました。振り返って考えてみると、Webのデザインを考えたり、システム開発を行う今の仕事と、つながっている部分が多かったなと思います。また、就職活動中は業界を絞って仕事を探していました。「将来、SEの仕事に就きたい」という夢があったからです。就職エージェントの方に進路相談をしながら企業を探しました。1日目ですが、これから経験を重ねていきたいと思っています。

三浦さんの1日

10:30	始業・テクニカルチームでの定例会
11:30	週1回の全体定例会
12:30	Web製作アシスタント
14:30	弁当でランチ
15:30	業務再開
19:30	終業

三浦さんのオフショット

仕事が休みの日は、趣味のゲームを楽しんでいます。スマホアプリ、家庭用ゲーム機、オンラインゲーム、種類はさまざま。幼いころから、コンピューターやゲーム機に向かって没頭するのが苦ではなく、欠かせない楽しみの一つでした。現在の仕事の中でも、システム開発の他、ゲームの要素を取り入れた広告を手掛けています。「ゲーム好き」の視点を生かして、自分が楽しんできた感覚を仕事の中でも掘ってみたいと考えています。



記者紹介



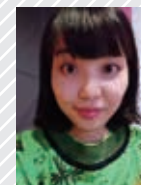
宮城学院女子大学1年 遠藤 陽香

取材して特徴的だったことは、社員同士が関わる機会が多いということです。毎日席替えをしたり、みんなで議論し合う場を積極的に設けているそうです。企業体験では実際にアカデミーに参加しましたが、モニターを使ってリアルタイムで別のオフィスにいる社員と意見を出し合い共有しており、コミュニケーションがとても活発に行われていました。連携がとれていることでよりよいwebサイト制作が実現できているのだと感じました。



東北大学3年 錦部 莉菜

取材させていただく中で印象に残った言葉があります。「言いたくてもうまく言葉にできないことも、頑張って言葉にすることが大切」というお言葉です。言葉で表現するまでのその過程を、努力を惜しまずに取り組んでいくことが、創造力を生み出すことにつながっていくのだと思いました。努力を惜しまないからこそ、社員は創造力に満ち溢れ、たくさんの面白いアイデアをひらめくことができるのだと思いました。



宮城学院女子大学4年 及川 裕未

私たちが普段、重要な情報源とするWeb上の産物は何らかの意図からつくられています。しかし、受け手側としては、千差万別で、単なる情報の塊として認識・処理するしかないものもあれば、思考や感情をも動かしてしまうほどに、わくわくとした好奇心や高揚感を抱くものがあります。その体感的なゲーム要素を大切に作るラナエクストラティブの広告は「ものづくり」の根本的な楽しさを、広告を通して、教えてくれた気がします。



東北学院大学4年 平田 真莉子

オフィスでは、各人のデスクが決まっておらず、毎朝席が変わるという仕組みだそうです。仕事のちょっとした環境でも、新鮮な気持ちで取り組めるような工夫があって、クリエイティブなことを仕事とする会社ならではのことなのではないかと思いました。人が面白いと思うものを作るために、まず創造する側も楽しむ、そんな裏側を見れたように感じました。

学生紹介



芦名 麻知

宮城学院女子大学
現代ビジネス学部
現代ビジネス学科 2年

「地元企業のことをもっと知りたい!」という一心でWISEに参加しました。学生記者として活動して得ることができた成果は「自分の世界を広げることができた」この一言につきます。私が取材を担当したゆらリズム様と泰光住建様の事業は、それぞれデイサービス、トイレの装飾業と、いままで私がほとんど目を向けることがなかったものでした。しかし実際に音楽療法を体験したり、作業場を見せていただいたことで「地元を支える、とても面白い事業なんだ」と実感することができました。さらに自分が感動するだけで終わるのではなく、記者としての感動を読者にも伝えなければなりません。どのような文章を書けば相手に伝わるのか、試行錯誤をし続けました。普段大学でレポートを書くときなどは、とにかく書くことに精一杯で、自分本位の文章になってしまうことが多いです。しかしWISEでは質問内容を考えることや実際に記事を書くときなど、常に読み手を意識する必要があります。仕事をする上で基本となる、「相手のことを常に考える」ということを再認識できました。

掲載ページ P12 (有限会社 泰光住建) ,P62 (株式会社 ゆらリズム)



遠藤 陽香

宮城学院女子大学
学芸学部
日本文学科 1年

取材では相手の方と直接話しをするので、その場で自分の疑問に思ったことや気になったことを聞くことができ、会話の中からさらに詳しい話も聞けるので情報誌だけでは知ることのできないこともたくさん知ることが出来ました。また取材にあたって取材先の企業の方とメールでやり取りをしました。ビジネスメールをするにあたって言葉遣いなどとても勉強になりました。記事の執筆にあたっては、句読点の位置が不自然な位置についていないかなど、読んだときに違和感なく読めることがとても大事だということが分かりました。書いたときは違和感がなくても一日寝かせてから後でもう一度読み返してみるだけで、全然読んだ時の印象が変わるので、客観的に見るのが大切だということがよく分かりました。活動を通して取材したり、記事を書くなどたくさんのかたちを経験することが出来ました。最初は初めてのことばかりで戸惑っていましたが、今ではとてもやりがいを感じています。WISEでの経験をこれからさまざまな場面で役立てていきたいです。

掲載ページ P66 (RaNa extractive, inc.)



安達 琴乃

東北大学
文学部
人文社会学科 3年

「東日本大震災」という言葉は、取材中、企業からよく聞かれるキーワードです。「あの災害があって工場を建て直した」「新規事業を始めた」という転機として語られるだけでなく、「地域とともに」「地域貢献を目指して」などの地元を大切に想う気持ちが表れています。その他にも、言葉の端々で地域への熱い想いが込められていることを、どの企業でも感じました。活動を通して、このような地域に根差した考え方こそ地元企業の特色であり、強みなのだと改めて思いました。一方、宮城県での就職は業種や企業の幅がかなり狭まると考えている学生がいます。しかし、私は2年間WISEの学生記者として活動させていただき、本当にさまざまな企業があることを知りました。冠婚葬祭業やIT企業、リサイクルを専門とする会社や給食・介護食に力を入れている卸売業。それぞれの企業の中でもまた、部署によって担当する仕事は異なります。決して選択の幅が狭いということはありません。私たちの活動によって、そのような地元企業の魅力が、学生に伝わることを祈っています。

掲載ページ P4 (株式会社 あいあーる) ,P24 (マルヒ食品 株式会社) ,P34 (株式会社 仙台リサイクルセンター)



及川 裕未

宮城学院女子大学
学芸学部
人間文化学科 4年

「WISEの学生記者です」取材活動時、私達はいつもこの自己紹介から入りました。WISEのSEは student eye's. 学生記者として書き手である私達と読み手となる人達は同じ立場にある県内の大学生です。これは、大手の求人・就活情報誌、企業の宣伝ページのようなメディアとは異なり、より今を生きる学生らしい目線で情報と新鮮さを伝えることができます。活動の中では、学生であることを良くも悪くも武器としながら、取材先のアポ取りから実際の取材活動、記事執筆、デスク・企業との校正のやりとりを班のメンバーと連携して行いました。取材や執筆の見えない不安や落胆はメンバーとやりとりする中で励みにも自信にもなりました。また、これまで身近に触れることのなかった業界や会社について調べ、実際の現場でお話を聴くことは、ただ情報誌を眺めるのとは全く見る世界が違いました。対話を通してこそ得られる新鮮な驚きや発見はとても貴重でした。そして、働くというリアルさを学生記者として吸収し、発信ということまでできたことに感謝します。

掲載ページ P42 (株式会社 日本セレモニー (愛グループ)) ,P54 (株式会社 丸山運送) ,P66 (RaNa extractive, inc.)



市川 文章

東北学院大学
文学部
総合人文学科 4年

アポ取りから日程調整、そして取材。ある程度事前に「地ならし」がされているとはいえ、取材の大変さを実感しました。同時に、取材スキルの低さを痛感しました。核心を突いた質問ができない、聞いた言葉をうまく書き表せない。どうしたら取材企業の魅力を伝えられるのか、悩む毎日を過ごしました。苦心して完成した原稿は赤入れがされて返って来て、原稿の提出が遅くなり、全体の進捗が滞ってしまいました。こうして振り返ってみたら反省点ばかりが目立ちます。しかし、得たものも多くあったのも事実。何より原稿を校了した後、取材企業の代表の方から労いと感謝の言葉をかけていただきました。その時、取材して記事にする記者としての「喜び」を感じました。現在、私は大学4年生。就職活動を無事に終え、来年から新聞社で働くことになりました。これから新聞記者になる者として、先に就職活動を経験した先輩としてWISEに参加して良かったと感じています。自分の書いた記事がこれから就職活動を控える人々へ影響を与えると考えると誇らしさの反面、責任を感じています。最後成果を発表するまで、全力で駆け抜けます。

掲載ページ P58 (株式会社 ミヤックス) ,P62 (株式会社 ゆらリズム)

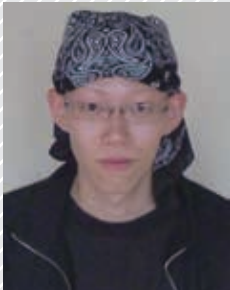


大泉 葵

宮城学院女子大学
学芸学部
日本文学科 3年

WISEの活動に挑戦してみようと思ったのは、就職ガイダンスで、就職活動で感じてしまう漠然とした不安は「働く」ことを知らないためであると聞き、実際に「働いている人」にお会いしてみることが必要だと感じたからです。取材には、ホームページの情報を基にして、質問を考え臨みましたが、実際に会ってお話を聞くと、社長さんや社員の方の商品やサービス提供への「想い」もプラスアルファで知ることができ、文字を眺めているだけで企業を知った気になっていたのかもしれないと気づくことができました。今後は、企業の方々と直接話をする機会を積極的につくり、仕事に対する考え方を聞いてみようと思います。働く方々の姿を拝見すると同時に、自分自身も記事を作成したり、この活動を学生や企業の方に知ってもらうにはどうすれば良いか検討するなど、仕事に近い体験ができ「働く」ことについてより多くのことを学べた貴重な時間でした。この活動に参加でき良かったと思います。協力を頂いた皆様、ありがとうございます。

掲載ページ P4 (株式会社 あいあーる) ,P12 (有限会社 泰光住建) ,P24 (マルヒ食品 株式会社)



大村 章仁

尚綱学院大学
総合人間科学部
生活環境学科 4年

私は中小企業のことを深く知りたいと思ったのがきっかけで、このWISE活動に参加させていただきました。振り返ってみるとやってよかったと思える自分がいます。「社内の雰囲気を感じることができる」というのがやりがいの一つにあると思います。その時の感想を自分の言葉で表現し、記事にするのは難しかったです。インタビューを通して得た情報から自分を取り上げたいところを選び、読み手に伝わるように書くということ。簡単そうで難しく、自分が本当に強調したい部分はどこだろうと探していました。企業ごとに業界も違えば、場所も違います。社長が一番伝えたいことは何か、どう表現すればいいのか。特に私は「求める人物像」という項目でその気持ちは大きかったです。これから就職活動をされる人が記事を読んだ際に、企業選択の理由の一つになる可能性があると感じたからです。学生の目線から見た企業の特徴を学生に伝えられることはWISEならではの醍醐味だと思います。地元地域で働きたい、中小企業に興味があるという人はぜひこの活動に参加してみてください。

掲載ページ P20 (株式会社 ヒロセ) ,P46 (株式会社 マックス設計)

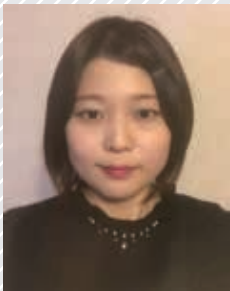


菅野 理香子

東北福祉大学
健康科学部
医療経営管理学科 3年

WISEの活動に参加し、実際に企業へ取材に行くことで、企業の思いを直に肌で感じる事ができました。取材前の企業のリサーチ、アポイントメント取り、取材、執筆など、一つの地元の企業について深く関わり、働く人の生の声を聞くことができるのは、WISEならではの活動であり、WISEでしかできない経験であると感じます。企業の思いや取り組み、魅力を伝えるために、どのような内容の記事にしたら良いか、わかりやすく伝えるためにはどのようにしたら良いかなど、さまざまなことを考えながら執筆に取り組んだことが印象に残っています。また、活動を通して、こまめな「報告・連絡・相談」の大切さ、インターンシップとWISEの活動時期が重なる中でも、スケジュールを考え、「できない」ではなく「自分にできることを探し実行する」ことの大切さを学び、これからの就職活動、また社会に出るなかで活かしていこうと感じました。大手企業や首都圏企業へ目を向ける学生が多い中で、少しでも多くの学生が地元の企業へ目を向けるきっかけとなればうれしく思います。

掲載ページ P58 (株式会社 ミヤックス)



菅野 綾香

東北福祉大学
健康科学部
医療経営管理学科 3年

私は今年WISEの活動を行なって、本当に良かったと思います。仕事について、こんなに深くお話を聞ける機会はなかなかありません。職種への興味の有無に関わらず、社会人のお話を聞くことはよい経験だと思います。私は2社の取材に伺わせていただきましたが、とても楽しかったです。そして、勉強になりました。会社の良い点、課題、聞いているだけでワクワクしましたし、働いてみたいと思いました。社会人に対する像が具体的に、目指す職も決まりました。自分の世界が広がったような感じがしました。また、学生記者としての活動ではありますが、社会人を相手にするので、相応の対応と責任が必要になります。その点でも非常に勉強になりました。記事を書くこと、これも勉強になりました。書き方を教えて頂けることも珍しく、とてもよい経験ですし、何と言っても機会に恵まれました。一回の取材で、感想も合わせ、文章を書く機会が3回もあります。文章を直して頂ける機会も、珍しく良い機会だと思います。良い経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

掲載ページ P42 (株式会社 日本セレモニー (愛グループ)) ,P58 (株式会社 ミヤックス)

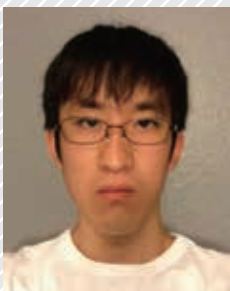


木戸浦 一樹

東北学院大学 2年

今回、この活動に参加して、企業運営について考える事の楽しさに気づきました。企業が現時点で抱える理想との差異、すなわち課題を見つけ、いかにして理想に近づけていくのか、今あるリソースのうちどこまでを使って解決しなければならないのか、そういった経営者の目線で物事を考える事が出来たのは大変貴重な経験だったと思います。また、今まで見ず知らずだった、グループのメンバーと共同で取材や記事を作成するにあたって、自分の意見を伝える事、知らない人と何かを作り上げていく事はこんなにも大変な事なのかと思い知らされました。また、時にはグループの和を考えずにスタンドプレーに見える様な事をしなくてはいけないという事も今回の活動で学んだことの一つです。関係者の方も自分達の記事がより良い方向に向かっていくようにアドバイスをしてくださり、とても心強く感じました。これから、社会に出ていくにあたって今回学んだことを基に臨みたいと思います。最後になりますが、今回の活動で関わった TIS東北株式会社様、WISE関係者の皆様、そしてグループの2人に感謝したいと思います、ありがとうございました。

掲載ページ P38 (TIS 東北 株式会社)



菅野 雄哉

東北大学
文学部
人文社会学科 2年

私にとって、WISEの活動は初めてのことでばかりでした。企業に取材に伺って記事を書くことは勿論、他大学の方と交流すること、ビジネスマナーについて学んだことなど、数え上げたらきりがありません。取材について、反省ばかりしています。特に敬語やマナーにミスが多くあり、相手に不快な思いをさせたのではないかと気が気でありませんでした。いざ記事を書いてみると、取材の詰めの甘さも露呈しました。お話を全てメモしたはずなのに、記事にするには不十分なネタばかりで、一貫した文章を作るのにやや難がありました。この原因の一つには、私がいわゆる「メモ魔」になっていたことが挙げられます。メモに没頭するのではなく、お話をきちんと咀嚼し、深く掘り下げるべき話を瞬時に取捨選択する力が大切だと痛感しました。以上のことは、WISEに参加しなければ得られませんでした。就職活動の前に貴重な体験をし、気づきを得ることが出来ました。ご指導を下さった全ての方に感謝したいと思います。

掲載ページ P54 (株式会社 丸山運送)

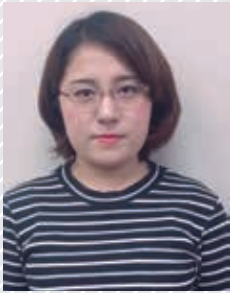


五味 貴大

東北福祉大学
総合福祉学部
福祉行政学科 3年

取材に行く際、企業をインターネットで下調べをするのですが、それだけでは仕事、活動の詳細は分かりませんでした。なので、分からないワード、疑問に感じたことを取材を通して質問して、話を広げ情報を得る必要があります。その話の過程で企業の本音、これからやりたいと思っているイベントの情報などを聞ける、仕事の体験が出来て、より興味が湧いたり、勉強にもなりました。これは学生記者だから出来たことであり、大学時代での良い経験になったと思います。さらに、人との出会いの大切さも実感しました。私達7班はインターンなどで都合がつかない人が多く、毎回ほかの班に助っ人を頼んでいました。人数が少なく心細い中手伝ってくれる、企業の方もこちらが緊張していると気づき何気ない会話で緊張をほぐしてくれる事があり、皆さんの優しさを感じ、人と会うのが楽しかったです。WISEに参加できて本当に良かったと思いました。最後にメンバー、デスクの皆様にお礼申し上げます。お世話になりました。本当にありがとうございました。

掲載ページ P16 (FIVESTAR WEDDING) ,P34 (株式会社 仙台リサイクルセンター)



佐藤 佳奈

宮城学院女子大学
学芸学部
国際文化学科 3年

WISE活動は2年目になります。後輩ができて先輩記者としてアドバイスを送ることや前回の活動から得た取材経験を生かしての活動が主になりました。また、前回の活動とスケジュールの流れや、取材形態が少し変化していたのでチームでのやりとりがすごく重要視されていたのかなと感じました。

企業の下調べをしっかりと行った上で、学生が就職活動に必要な材料になりそうなことを導きだそうとするのは、活動2年目にしても難しいことでした。昨年度の経験を経た上で、少し取材慣れしている自分と、よりいい情報を得たくて慎重になっている自分がいました。企業の魅力を引き出すのはもちろんのこと、学生視点ならではの疑問点を聞き出すのは一苦労でした。「学生記者」という立場で企業への取材訪問をしてきて、どこか「学生」というところに胡坐をかきたくないという自分がいて、今年の私は少し背伸びをしての活動になり、学びの多い1年でした。

掲載ページ P12 (有限会社 泰光住建) ,P20 (株式会社 ヒロセ) ,P46 (株式会社 マックス設計)



高橋 里奈

東北学院大学 2年

私はこれまで、取材の経験はありましたが、企業の方にインタビューをして、さらに自分たちでその企業についての記事を作るという点で、今回の取材はとても貴重な経験でした。企業にインタビューをするということで、学内でアンケートを頼むときなどよりも、はるかに緊張感がありました。あらかじめ考えておいた質問も、このようなことを聞いて良いのだろうかと考えてしまい、インタビューでは少々たどたどしくなっていました。TIS東北株式会社の小松社長は私たちに気さくに話しかけてくださり、取材の際にも、質問に回答するだけでなく、それについての分かりやすい説明もしてくださいました。さらには私たちにアドバイスをしてくださる場面もありました。社員の方も、私たちが内容を理解しているか確認しながら話してください、おかげで記事に使う情報を多く入手することができました。今回の取材や記事作りをとおして、私たちはただインタビューをして情報を掲載するという目的だけでなく、自分たちが社会に出たときに必要になるスキルも得ることができました。この記事で、私たちが皆さんのお力になることができれば幸いです。

掲載ページ P38 (TIS 東北 株式会社)



佐藤 優衣

東北福祉大学 3年

仙台と東京、どちらに就職するか悩んでいました。東京はキラキラしたイメージでネームバリューのある大手企業がたくさんあり、仙台はそれに劣ると思っていたからです。そんなときに「WISE」を知り、自分の視野を広げたい、仙台の良さを再発見したいと思い参加を決めました。実働では単に記事執筆活動にとどまらず、アルバイトよりも本格的な擬似社会体験ができました。緊張のあまりたどたどしくもありましたが、普段では接することのできない代表取締役社長や社員への取材・WISEセミナーへの参加で宮城を意識したお話がたくさん聞け、地域に密接しながら働ける仙台に残るのもいいなと思い始めるようになりました。たくさん知り得た情報の中からどこを拾い執筆するか、悩みすぎるあまり記事の作成に時間がかかったこともありましたが、そんなときアドバイスをくださったデスクの皆様、1班のメンバー、ヘルプで入った班員の方々、ありがとうございました。

私のように上京を悩んでいる学生の方々が、Webサイトや冊子の閲覧をきっかけに宮城に残ると思っていただけたら幸いです。

掲載ページ P4 (株式会社 あいあーる) ,P50 (マルチフライ 株式会社)



千葉 大誠

東北学院大学 2年

私は今まで、本格的に企業の取材をし、その取材をもとに記事を書くなど、そのようなことをしたことがありませんでした。そのため、今回の一連の活動は、私にとって、大変貴重な経験となりました。当初は、本当に最後までやり遂げられるのか不安でいっぱいでした。実際に、一つひとつの活動に頭を悩ませ、困惑しながら行ったことは特に印象深いです。また、取材のマナーや、記事をまとめることの難しさなど、覚えることや学ぶことが多く、心が何回も折れそうになりました。しかし、最後までやり遂げられたのは、関係者の多大なる協力、そして、取材をさせていただいた企業様の寛大な対応のおかげです。本当に感謝しています。また、私と同じグループになった二人にも、感謝しています。活動している時は、辛いこと、大変なこともありましたが、今では、この活動ができて本当に良かったと思っています。このような経験を今後にかし、自身の成長に向けて、勉学に励み、貴重な大学生活を、悔いなく過ごしていきたいと思います。

掲載ページ P30 (松月産業 株式会社)



鈴木 広汰

東北学院大学 2年

今回このWISEの活動に参加したことで、とても貴重な経験をすることができました。1回目のインタビューでは、初めてのことばかりでとても緊張して、あまりしっかり取材ができませんでした。次の取材内容を記事にするという段階では、今まで記事を書くという事をしたことがなかったので、どのように文章を書けば良いのかわからず、とても苦労しました。1回目の取材で聞き出せなかったことや、内容が薄いところを見つけ出し2回目の取材に臨みました。2回目は1回目の取材の時より緊張もなく、うまく聞きたいことを聞けたと思います。2回の取材で聞いたことをしっかりとまとめて記事を完成させました。このような経験はWISEの活動に参加しなければ経験できなかったことですし、この経験をとおして文章を書く技術や企業との対話力などの面で成長したと思いました。とても大変でしたが、自分にとってプラスになることばかりだったので、この活動で学んだことを将来に活かしていきたいと思いました。ありがとうございました。

掲載ページ P30 (松月産業 株式会社)



錦部 莉菜

東北大学 3年

就職活動を控えた私は生まれも育ちも宮城県であるにもかかわらず、地元にある宮城県の企業のことをあまり知りませんでした。地元の企業のことをもっと知りたいと思っていた矢先に友人からこのWISEの地元企業情報誌を紹介されました。そこには私が今まで使っていたツールでは知ることができなかった魅力的な企業が学生目線でたくさん載っていました。地元の企業を知らないで地元を出るのはもったいないと思い、また、もともとマスコミ関係の仕事に興味があったため、私はこのWISEの活動に参加しました。活動を通して感じたのは地元企業には地元を盛り上げたいという熱い思いが共通しているという事でした。お話を伺っていく中で、どの企業さんも地域貢献の精神を大切にしており、そこが地元企業の魅力なのではないかと思いました。最後に、取材先の企業の方々、デスクの皆さんと一緒に活動してくださった班員の皆さん、本当にありがとうございました。また、この情報誌が私のようにあまり地元企業を知らないで悩んでいる学生のきっかけになってもらえれば幸いです。

掲載ページ P66 (RaNa extractive, inc.)



平田 真莉子

東北学院大学
経済学部
経済学科 4年

WISEの活動は今年で3年目でした。就職活動と重なった私にとって、取材は自分と向き合う時間でもありました。たくさんの社会人の先輩から話を聞き、奮い立たされました。一方で、話を聞くと、自分の夢や目標が本当にこれでいいのだろうか、と迷ってしまったことも本音です。

ですが、とある企業を取材に行き思ったことがありました。それは自分の「良さ」を守ることです。その企業の社長は、スーツを纏うでもなく、自分らしい雰囲気のままで仕事を行っていました。奢らない姿に、何故か私は惹かれました。

これから先、たくさんの人との出会いがあるのだと思います。選び取らなければいけない岐路があるのだと思います。どんな分岐点に立っても、自分の声に耳を傾けながら歩んでいきたいです。WISEを見てくださり何かに迷っている方がもしあれば、どうか多くの選択肢の中から自分がいちばんしっくりくる感覚を大切にしてください。最後になりますが、お世話になった皆様、本当にありがとうございました。

掲載ページ P8 (海鮮せんべい塩蔵 株式会社) ,P16 (FIVESTAR WEDDING) ,P66 (RaNa extractive, inc.)



三本 拓弥

東北大学
経済学部
経済学科 3年

前年度に引き続きWISEの活動に参加させて頂きました。私は途中から交換留学でデンマークに行ってしまったため、取材できたのは1社だけでした。それでも、さまざまな学びがありました。現在、僕は3年生で、進路を決める時期に差し掛かっています。周りを見ると、大手企業やベンチャー企業などに興味がある学生は多いですが、中小企業はほとんど話題になりません。そんな中、WISEに参加して良かったのは、街を支える中小企業の経営者や従業員の話を直接聴けたことです。これからの時代は、グローバルな視点が大事だと言われますが、地域というミクロな視点を併せ持つことが大事だと気づきました。

またWISEでの活動でカギとなった、取材力、文章を書くスキルは一生ものの武器になるでしょう。まだまだ未熟者ですが、WISEでの経験を、他の活動にも活かしていきたいです。他大学の学生との出会いには良い刺激を受けました。ここで得た繋がりは一生大切にしたいです。取材を受けてくださった「ゆらリズム」の皆さん、そして、WISE関係者の皆さん、本当にありがとうございました。

掲載ページ P62 (株式会社 ゆらリズム)



松永 祐太郎

東北学院大学 2年

今回、松月産業株式会社に取材を行ったことをきっかけに、この企業の存在を深く知ることが出来たので、まずそこは大きな収穫でした。また、企業へ取材することは普段ないことなので、緊張もありましたがとてもいい経験になり、現在20歳の私も社会人に近づいていることを改めて感じました。

取材自体は、対象の企業を調べインタビューの練習をするところから始まりました。取材当日はあらかじめ質問を用意してから行ったため、スムーズに進めることができました。取材を行うにあたって堅くなってしまったところがありましたが、有意義な時間を過ごすことができました。しかし、取材よりも、その後のまとめ作業の方が大変で、録音させていただいたインタビューを何度も聞き直し、自分なりにそれをまとめる作業は、考えなければならない点がいくつかあり苦労しました。しかし、ここまで本気になって一つの企業について考え、分析し、そこから現状を導き出すことは行ったことがなかったので、この経験をいかし、改めて身の周りの企業に目を向けてみたいと思いました。本当にありがとうございました。

掲載ページ P30 (松月産業 株式会社)



室井 真優香

東北福祉大学
健康科学部
医療経営管理学科 3年

自分に自信をつけたいと思ったところから始まったWISEの学生記者活動。私は、就活に対する視野を広げるため、短期インターンシップや就職説明会に2年生の頃から積極的に参加していました。ですが、思うようにうまくいかず不安と焦りを募らせていました。そんな時に会ったのがWISEでした。活動当初は、周りの学生たちのハキハキとした様子から、萎縮してしまいましたが、今となってはあの時を乗り越えることができて良かったと思っています。活動を通して「報告」「連絡」「相談」が、いかに大切かを学ぶことができました。当たり前に行えることだと思われてしまうかもしれませんが、チームワークがなかったらこなせることではありません。全ての仕事において必要だと感じました。私にとってWISEの活動の全てが、将来の糧になったと強く感じております。そして、この冊子が多くの学生に届け新たな発見に繋がれば幸いです。

最後に、WISEにおいてご指導くださった皆様、班員のみなさんのおかげで、活動を進めることができました。本当にありがとうございました。

掲載ページ P8 (海鮮せんべい塩蔵 株式会社) ,P50 (マルチプライ 株式会社)



三浦 規義

東北大学
文学部
人文社会学科 3年

WISEでの活動を始めて2年目になります。地元企業の熱い想いを今年も発信していきたいと思い、今年も活動に参加しました。昨年度と違うのは、私がこれから就職活動が始める大学3年生だということです。WISEの活動は私にとって、働く人の現場の声を聞くことができる貴重な機会となりました。

私が今回取材した2社では、どちらの社員の方々もやりがいを持って生き生きと仕事をしていました。企業を選ぶ上で、職場の雰囲気や社員の人は重要だと思います。ですが、実際に企業に行って、人に直接会ってみないとそれはなかなか分からないものです。記事を執筆するときには、企業を訪れて感じ取った雰囲気や感覚などを読者にも伝えられるよう意識しました。WISEで活動して、多くの人にお世話になったと感じています。忙しい中時間割いてくださった企業の方々や、WISE関係者、同じグループのメンバーの皆さんのおかげで、今年もまたひとつ経験が増えました。この活動で得た学びやつながりを糧にして、これからの就職活動を頑張っていこうと思います。

掲載ページ P16 (FIVESTAR WEDDING) ,P34 (株式会社 仙台リサイクルセンター)



森谷 晴花

宮城学院女子大学
学芸学部
国際文化学科 3年

私がWISEに参加しようと思ったきっかけは、今まであまり目を向けていなかった地元企業について知りたいという思いと苦手である文章を書くことを少しでも克服したかったからです。今回の取材を通してさまざまな地元企業があること、地元企業の魅力を知ることが出来ました。また、記事の添削をしてくださったデスクからのアドバイスを今後文章を書く際に改善していきたいです。

取材をすることが初めてだったため、企業様との連絡、取材はとても不安でしたが、先輩や同じ班のメンバーのおかげで少し解消されました。とても感謝しています。WISEの活動と他の活動の両立が難しく、同じ班のメンバーやデスクの皆さんに色々とお迷惑をお掛けしましたが、無事に記事が完成して良かったです。今回の反省点や発見をこれからの大学生活、社会に出たからの生活に生かしていきたいです。本当にありがとうございました。

掲載ページ P34 (株式会社 仙台リサイクルセンター)



矢野 賢斗

東北学院大学 2年

今回の活動に参加できてとても嬉しく思いました。この活動が他の学生の役に立てるような内容になればいいと思い組みました。実際に仙台の地元企業取材し、企業の具体的な課題について考えました。企業にインタビューをする上で質問と応答の構成を考えるなど、取材中の自分を客観視する姿勢や計画性が大切だと思いました。加えて、記事にするときのことを考えて、記事を読む人が欲しい情報がどのようなものか自ら考えインタビューし、真相までで自分が聞いて理解することになります。そのために、取材の趣旨と聞きたいことをはっきりしておく必要がありました。

経営者にインタビューをする機会から、相手の話を聞き出し、そこから踏み込んだ話を問う難しさを実感しました。そのために相手の話を聞き出すトレーニングが必要だと思いました。社会に出た際の知識として、気づきや学びにしたいと思います。

短い期間の活動で多くの経験を得ることができました。この活動に携わった方々に心より御礼申し上げます。

掲載ページ P38 (TIS 東北 株式会社)



山石 有希

東北学院大学
経済学部
共生社会経済学科 3年

文章を考える時、渡辺真知子さんの「迷い道」が頭の中で流れるようになりました。今もループしています。

「現在、過去、未来〜♪」これが曲の歌い出しです。この「現在→過去→未来」の流れが話を進めていく上で重要だと教わりました。取材といっても経験もなく、何をしたらよいかわからなかった私でしたが、3回の事前講座を経て心の準備ができたことはとてもよかったです。聞く力の育成、人に伝わりやすい文章を書くポイントなど新しい知識がいっぱい入ってきて楽しく、歌もそのひとつで、講師の先生が面白く解説してくれていたのが覚えてしまいました。実際に企業への活動を始めると、仕事を選ぶ上で決め手となるのは「私もこんな風になりたい」と憧れられる輝きを感じられるかだと考えました。そこに大きさは関係ありません。

私の周りにも都会へ憧れを抱き、就職を機に仙台を出ようと考えている人は少なくありません。しかし、その決断をする前に一歩立ち止まり、自分たちの地元について考えてほしいです。この冊子がきっかけとなることを願っています。

掲載ページ P54 (株式会社 丸山運送)



塚本 聖花

東北医科薬科大学
医学部
医学科 1年

掲載ページ P8 (海鮮せんべい塩蔵 株式会社) ,P50 (マルチプライ 株式会社)

建設業	
株式会社 ミヤックス	58
電気・ガス・熱供給・水道業	
有限会社 泰光住建	12
情報通信業	
TIS 東北 株式会社	38
運輸業、郵便業	
株式会社 丸山運送	54
卸売業、小売業	
海鮮せんべい塩竈 株式会社	8
株式会社 ヒロセ	20
マルヒ食品 株式会社	24
建築設計サービス業	
株式会社 マックス設計	46
宿泊業、飲食サービス業	
松月産業 株式会社	30
生活関連サービス業、娯楽業	
株式会社 あいあーる	4
株式会社 日本セレモニー（愛グループ）	42
FIVESTAR WEDDING	16
医療、福祉	
株式会社 ゆらリズム	62
複合サービス事業	
株式会社 仙台リサイクルセンター	34
マルチプライ 株式会社	50
分類不能の産業	
RaNa extractive, inc.	66

解 $\mathbf{A} = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 2 & 1 & 3 \\ 3 & 3 & 3 \end{pmatrix}$, $\mathbf{B} = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 2 & 1 & 3 \\ 3 & 3 & 3 \end{pmatrix}$

ਸਮਾਂ : ੨੫:੦੦ ਤੋਂ ੨੬:੦੦

1999 - 2004 - 2005 = (1999-2004) + 2005



WEB版

<http://wise-sendai.jp>



お問い合わせ

仙台・地域人材定着推進実行委員会事務局

Fax. 022-288-7600 E-mail. wise-info@wise-sendai.jp

運営体制

仙台・地域人材定着推進実行委員会

仙台市経済局 株式会社河北新報社 仙台印刷工業団地協同組合
地域人材コーディネート機関みやぎ事務局 地域協働教育推進機構